

令和4年度 開講科目一覧

生活デザイン専攻						
対象年次	授業科目		読み替え科目	担当者	開講期間	Page
	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後	
共通科目	教養基礎演習			中野都、渡辺淳、江木伸子、神田聖子、平尾和子	前	5
	情報技術			准教授 前田 康智	前	8
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル		准教授 前田 康智	後	11
	ビジネスワード	ビジネスワード		准教授 前田 康智	後	14
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント		准教授 前田 康智	後	17
	心理学			非常勤講師 原島 雅之 非常勤講師 佐久間 直人	前	20
		現代日本の社会問題		教授 渡辺 淳	前	23
	異文化と世界			教授 渡辺 淳	後	26
		日本国憲法と法律		非常勤講師 友寄 隆信	前	29
	ボランティア論			教授 中野 都	前	32
	キャリア形成 I			教授 小田島 祐美子	前	35
	キャリア形成 II			准教授 前田 康智	後	38
	ビジネスマナー	ビジネスマナー		講師 佐藤 清香	前	41
	運動と健康			非常勤講師 佐藤 久乃	後	44
	標準英語スキルズ		英語コミュニケーション I (2019)	教授 渡辺 淳 非常勤講師 リチャード・オステン	後	47
		応用英語スキルズ	英語コミュニケーション II (2019)	教授 渡辺 淳	前	50
英会話	英会話		非常勤講師 リチャード・オステン	前	53	
家政科コア科目	家政学概論			非常勤講師 木林 祥子	前	56
	食生活論			准教授 神田 聖子	前	59
	衣・住生活論			准教授 畑 久美子 非常勤講師 山村 美保里	前	62
		妊娠・出産・保育の科学		客員教授 岩倉 弘毅 非常勤講師 川上 美子	前	65
		家庭経営学		非常勤講師 木林 祥子	後	68
	家族関係学			教授 渡辺 淳	後	71
		介護概論 消費生活と環境		教授 中野 都 教授 渡辺 淳	前 後	74 77
基礎科目	生活デザイン概論			准教授 畑 久美子	前	80
	調理学			教授 平尾 和子	前	83
	社会福祉概論(生デ)			教授 中野 都	前	86
	アパレル素材・管理学			准教授 畑 久美子	後	89
	グラフィックソフト実習			非常勤講師 山中 将司	後	92
	マーケティング概論			非常勤講師 山中 将司	後	95
		食品衛生学		准教授 三星 沙織	前	98
		食文化論		講師 米山 陽子	前	101
		カラーコーディネート演習		准教授 畑 久美子	前	104
	フ・ロタ・クトテ・サイ	テキスタイルデザイン実習 I		ファッション造形実習 I (2019)	非常勤講師 秋山 敦子 非常勤講師 木林 祥子	前
		テキスタイルデザイン実習 II	工芸実習 II (2019)	准教授 畑 久美子	前	110
		ファッション造形実習	ファッション造形実習 II (2019)	准教授 畑 久美子	前	113
アロマセラピー概論				非常勤講師 久保田 裕子	前	116
アロマセラピー演習				非常勤講師 久保田 裕子	後	119
工芸実習			工芸実習 I (2019)	非常勤講師 本郷 芳哉	後	122
店舗空間デザイン演習				非常勤講師 山村 美保里	後	125
調理学実習				講師 米山 陽子	後	128
食べ・ストラテデザイン実習				非常勤講師 パッケ 伊東	前	131
製菓製パン実習 I				非常勤講師 森崎 繭香	前	134
製菓製パン実習 II				講師 米山 陽子	後	137
		介護食実習		教授 小田島 祐美子	前	140
		デジタルデザイン演習		非常勤講師 山中 将司	前	143
		商品開発・企画演習		平尾、中野、畑、米山、秋山、木林、本郷、森崎	後	146
コミュニケーション	ファッション販売演習			准教授 畑 久美子	後	149
		インテリアコーディネート演習		非常勤講師 山村 美保里	後	152
	フードデザイン・マネジメント論			講師 佐藤 清香	後	155
	フードプランニング論			非常勤講師 森崎 繭香	後	158
		フードコーディネート実習		非常勤講師 佐野 雅	前	161
	レストランサービス論			非常勤講師 真島 久美	後	164
	レストランサービス実習		非常勤講師 真島 久美	前	167	

生活デザイン専攻							
		授業科目		読み替え科目	担当者	開講期間	Page
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度			前・後	
専攻科目	コミュニケーションデザイン		福祉住環境コーディネーター概論		非常勤講師 山村 美保里	前	170
			ユニバーサルデザイン概論		准教授 畑 久美子	後	173
			医療事務サービス論		非常勤講師 内藤 麻紀	前	176
			医療事務サービス演習		教授 中野 都	前	179
			サービス英語コミュニケーション		非常勤講師 リチャード・オステン 非常勤講師 江口 真由美	後	182
支援科目		生活数理演習			准教授 前田 康智	前	185
		英語基礎演習a			教授 渡辺 淳	前	188
		英語基礎演習b			准教授 前田 康智	前	191
支援講座		ファッション資格対策講座	ファッション資格対策講座		准教授 畑 久美子	前後	194
		医療事務支援講座	医療事務支援講座		教授 中野 都	前	194
		情報技術活用講座	情報技術活用講座		准教授 前田 康智	前後	195

アクティブ・ラーニング要素表

要素番号	手法	概要	アクティブ・ラーニング科目を構成する際の留意事項
【1】	Problem Based Learning, Project Based Learning	Problem Based Learningとは、問題を解決を主目的として、学習者主体で実践されるグループ学習である。Project Based Learningとは、具体的な学修課題をたてて、一人ないしチームでプロジェクトを遂行しながら行う学習である。いずれも学生が自主的に学修することが求められる。 教員の質問に対し、学生がクリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見の正誤や他の学生の意見を即時に知ることができ、意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。	「ペア・グループワーク」や「プレゼンテーション」等と組み合わせることで実施することが想定される。学生が主体となり課題を解決する方法を考え、計画を立てて学修を進めるという、初年次の学生にとっては比較的高度な学修法ともいえるので、課題レベル設定や適切な学修支援（チューターによる補助など）に配慮が必要である。ポートフォリオの利用も考えられる。
【2】	クリッカーを用いたレスポンス	クリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見の正誤や他の学生の意見を即時に知ることができ、意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。	教員は学生の全体的な反応を確認しながら授業を進めることができる。しかし、クリッカーはアクティブ・ラーニング化を支援するシステムなので、他の手法と組み合わせるなど、主体的な学修を促進するよう授業設計をする工夫が必要となる。
【3】	調査研究	教員が提示したテーマや課題に対して、図書館等で参考図書、新聞・雑誌、統計資料を調べたり、DVD映像やインターネットのメディアを活用して情報収集を行い、結果をまとめ、発表する学習方法である。	単にレポートを課すだけでは、アクティブ・ラーニングとはいえない。学生によるプレゼンテーションへつながったり、フィードバックを行ったりして、調査情報の質を高めたり、調査の成果を用いながら、学生がさらに学修を深めていく工夫が重要となる。
【4】	フィールド・ワーク	教員が提示したテーマや課題に対して、実施調査・研究等を行う学習方法である。	学修課題をフィールド・ワークに取り組み、学習者が実施での活動を行い、学修課題についての理解を深めることが必要である。
【5】	実験	理論や仮説を様々な条件の下で検証する学習方法である。学生が知識を活かして実際に行動することによって理解を深めると同時に、結果を整理してまとめ、発表する力をつけることが期待される。	特に自然科学系分野では、設定された課題について、学生が（協力して）自らの活動を通じて解決したり、講義で学んだ原理や現象を、学生自身が追体験して確認する要素が含まれていることが重要である。
【6】	実習	講義などで学んだ技術や方法等を実際の場面で展開することで、理論と実践の関係を深める学習の方法である。学生が実践的な力量をつけるとともに、実践を理論的に省察すること、そのことでさらに実践力や課題への取り組みの姿勢の向上が期待される。	単に計測器の取扱い法等について学ぶような実験・実習はアクティブ・ラーニングとはならない。
【7】	実技	技術や演技などが直接的な学習であるような授業方法。	実習・実技は必ずしも、単純にアクティブ・ラーニングとはならない。講義等での学修内容・知識と、実習・実技で身につける知識・技能とが有機的に結びつく必要がある。
【8】	ロール・プレイング・シミュレーション	現実起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）する学習法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。	ロールプレイやシミュレーションを取り入れるためにはその事柄に対する知識・理解が必要。教員による適切な場面の設定と、役割分担を話し合い等を通して決めるなど、学生相互の関わりも重要になる。

アクティブ・ラーニング要素表

【19】	ペア・グループワーク	<p>教員から与えられた課題に対して、ペアもしくは小グループ（3人から6人程度が一般的）で相互協力をしながら学修を進めていく協同学習のことである。グループ構成員が相互協力して共同作業をする。</p>	<p>作業手順の明確化、課題解決への探求方法や手がかりをどのように準備するかが重要になる。円滑なペアワークやグループワークを行うために、協同学習の考えを取り入れながら授業の準備や設計を行うことが望まれる。学習者が明確な役割を持って学修を進められるような課題の設定をし、また互恵的な協力関係を生み出せるよう人間関係に配慮することが必要である。グループワークは必ず授業時間内に終了することが必要である。</p>
【10】	ディベート	<p>課題討議法の一つで、ある公的なテーマについて肯定側と否定側の立場から、立論・反論といった論戦を通じて、第3者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態である。ディベートを通して、自分の意見や問題意識を持ったり、論理的な考え方ができるようになるという効果が期待され</p>	<p>多数の受講者を一括した討議は一般的とは言えない。討議の成果が可能な授業設計が必要である。小グループで交代しながら討議を繰り返す場合には、それ以外の学生が果たす役割を明確にしておく必要がある。成績評価方法についても明確にし、予め受講者に示しておくことも重要である。また、テーマの難易度が高すぎる場合にはうまく機能しないことのあるため、教員は進行をよく観察し、時には介入することも必要である。学生同士で議論させる機会を作るだけではなく、議論を行うための知識や経験を持たせた上でお互いの考えを深めたり、議論の結果としてテーマに関する学修を深める意欲につながったりするように、授業を設計する必要がある。</p>
【11】	ディスカッション	<p>グループでの討議・話し合い。学生同士の相互の意見交換を通して、各人の持つ知識・経験などが共有され、討議課題への理解が深まることが期待される。自由討議法は、内容も役割も自由に議論することになる。</p>	<p>プレゼンテーションの回数と成績評価方法を予め明確にしておく必要がある。プレゼンテーションをする学生と聞く学生の学修課題の明確化、評価基準の明確化が必要である。プレゼンテーションを聞くことが、学び合いにつながるように、質疑応答の時間を十分に確保すること、プレゼンテーション後に各学生が何を学んだかをふり返る機会も設けることなども考慮することが重要である。</p>
【12】	プレゼンテーション	<p>指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習を行い、聴衆の前で発表す形態。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものや、ポスターセッションなど様々である。発表後は他の受講者や教員からの質疑に応答する。</p>	<p>単純に学生に書物の部分を割り振り、発表させるのではなく、教員側では論じ合う問題点や解釈を適宜チャネリングすることも必要である。輪読する書物の選択は十分な考慮を必要とする。受講者数を考えた授業設計は必要であり、例えば50名の受講者なら、発表者が5名で、10回で全員が担当する場合には、各回で残りの45名が何をするのかを、全員の学習機会の保証という視点で考えておく必要がある。またそれに伴った成績評価方法も必要である。</p>
【13】	輪読学習	<p>書物を数人が順番に読んで解釈し、問題点について論じ合う学習方法である。一般的には、書物をいくつかの部分に分け、それぞれ担当者に割り当て、担当者はその部分の論点をまとめ、授業で発表する。それを受けて、分らなかった部分や疑問点などについて、各自の見解を論じ合う。</p>	<p>学生の能動的な学修をひきだすところにねらいがある。出題した課題の解答例や解説を示すとともに、双方向演習としてのフィードバックが不可欠となる。</p>
【14】	双方向型問題演習	<p>与えられた課題やテーマについて学生が答案やレポート・小論文を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める学習方法である。教員とコミュニケーションをとることにより、学修意欲を引き出す</p>	<p>学生は、講義を聞いただけ、体験しただけでは、次の機会に学修内容を応用できない可能性があり、学修内容や自らの言動を振り返る機会を設けることが有効であるという考えに基づく。振り返りを促すための支援方法が重要であり、単に振り返るだけでなく、その後の主体的（能動的）学修へつなげることが重要である。</p>
【15】	双方向型執筆演習	<p>ねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を早い段階で理解したことを示すことができる。授業の進捗を確認し、確認テスト等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、確認テスト（小テスト）、ペア・グループワークによる意見の共有などがあ</p>	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>
【16】	振り返り	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>
【17】	体験型学習	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	わたなべ えぎ なかの 渡辺・江木・中野 ・神田・平尾	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 8, 9, 11, 12	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>本学の学生として身につけてほしい基礎的な知識・技能を学び、その中から豊かな生活をするために必要なことを自ら選びとることができるようにするために設定している科目である。はじめに本学園の礎となる、建学の精神・校訓・歴史・伝統について学ぶ。そのうえで、社会で活動するために必要となる基礎的な知識及び能力・豊かな教養を身につける。さらにこの学習成果を獲得するために欠かせない、円滑なコミュニケーション方法やマナー、社会常識について理解し、活用できるようにする。また、短期大学で必要とされる学修方法を習得するために、レポートや文章の書き方、プレゼンテーション技術および聴講姿勢を身につけ、まとめとして礼節をもって短大での学びの成果を報告する方法を学ぶ。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑にコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・プレゼンテーションのために構成を考えて原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・主体的にプロジェクト学習を進め、相手に対し状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションやマナーの必要性を理解し、短大生としてコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前でスピーチすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・話者に対して聴く姿勢を示すことができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・レポートの書き方を理解したうえで、必要条件を満たした内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・主体的にプロジェクト学習に取り組み、基本に則った内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
各授業の講師が必要に応じて資料を配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
スピーチ原稿などは添削等ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容により、担当教員が指定したクラス分けを行って実施する。 ・スケジュール、講師はクラスによって異なることがある。 ・講師の都合等により、授業の順序が変更になることもある。 ・授業中のスマートフォンの使用および私語は禁止する。 ・欠席した場合は、出校した際に必ずその回の担当講師に連絡を取る。課題提出の場合が多い。 							
成績評価方法				成績評価基準			
授業内課題等及びプレゼンテーション(65%)、文章表現力(30%)、受講態度(5%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	渡辺・江木・中野 ・神田・平尾	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,8, 9,11,12	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	建学の精神、オリエンテーション	愛国学園の建学の精神・校訓・学園の歴史を学ぶ、本科目の意義と進め方、短大生活におけるマナー、ボランティア活動について。	複数
	事前学習 15分	シラバスを読んでもくる。建学の精神と校訓を音読してくる(キャンパスガイド参照)。	
	事後学習 10分	授業の内容を振り返り、短期大学で学ぶということを再度確認する。	
2	コミュニケーションスキル	円滑なコミュニケーションの方法や必要性を学ぶ(外部講師)。	複数
	事前学習 10分	円滑なコミュニケーションの必要性を考えてくる。	
	事後学習 30分	授業の内容を振り返り、日常的に継続して実践する。	
3	自己紹介(プレゼンテーション1)	簡易のスピーチ原稿を作成し、自己紹介のスピーチを行う。他の人のスピーチを聴く。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	1分間で自分自身を紹介するための題材について考えてくる。	
	事後学習 20分	自分のスピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。	
4	短期大学に必要な学修方法(初年次教育1)	資料等のファイリング、学生生活における時間管理、成績評価と試験について。	江木
	事前学習 10分	キャンパスガイドの試験についてページを読んでもくる。	
	事後学習 30分	自分の生活を振り返り、時間管理について考える。	
5	短期大学に必要な学修方法(初年次教育2)	レポートの書き方、文献の探し方、メールでの資料添付方法	クラス分け 複数
	事前学習 20分	事前に配布するプリントを読んでもくる。資料を参照し、フリーメールアドレスを取得しておく。	
	事後学習 30分	レポートを完成させ、提出する。	
6	挨拶・訪問の実践	学生生活に必要な挨拶・訪問等をロールプレイング方式で学ぶ。	クラス分け 複数
	事前学習 10分	先輩の話し方やマナーを観察しておく。伝え方や表現方法を自分なりに考えてくる。	
	事後学習 30分	日常生活で必ず実践する。	
7	テーマに沿ったスピーチ1	テーマに沿ったスピーチをするための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	事前に提示されたテーマから一つ選びスピーチに用いる内容を考えてくる。	
	事後学習 60分	スピーチの原稿の構成を考える。	
8	テーマに沿ったスピーチ2	スピーチ原稿を完成させ、スピーチの練習をする。	クラス分け 複数
	事前学習 60分	原稿の内容をまとめる。	
	事後学習 30分	スピーチの練習をする。	
9	テーマに沿ったスピーチ3 (プレゼンテーション2)	発表または他の人の発表を聴講する。	複数
	事前学習 30分	発表の練習をする。	
	事後学習 40分	発表した人は自分の課題をみつけ、修正した原稿を清書して提出する。聴講のみだった人は次回の自分の発表に活かせる点を見つける。	
10	プロジェクト学習1	手紙の書き方の基本を学ぶ。	中野
	事前学習 30分	手紙の種類や時候の挨拶などを調べる。	
	事後学習 60分	学習をふり振り返り、今後の生活への活かし方を考える。	

11	プロジェクト学習2	短期大学における学びの成果を出身高校に報告するための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	短大入学後の学びの成果の要点を整理し、まとめる。	
	事後学習 60分	手紙の構成を考える。	
12	プロジェクト学習3	短期大学における学びの成果を出身高校に報告するための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	短大入学後の学びの成果をまとめる、全体の下書きをする	
	事後学習 30分	手紙を推敲する	
13	プロジェクト学習4 (プレゼンテーション3)	短期大学における学びの成果を出身高校に報告するための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	原稿の仕上げを行う	
	事後学習 60分	封筒のあて名書き等を行う	
14	プロジェクト学習5 (プレゼンテーション3)	手紙（出身高校への報告文）を清書する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	原稿を清書する	
	事後学習 40分	高校訪問または手紙を投函して、短大における学びの成果を出身高校の先生に伝える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				6・7,14	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>文書作成ソフトウェアによる各種文書の作成、表計算ソフトウェアによる各種帳票の作成、帳票に必要な計算式・関数の作成、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成についてそれぞれ練習を繰り返し行い、演習課題を通じて理解につなげる。また、情報を取り扱うためのマナーについて学ぶ。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>情報機器の基本的な操作について、大学生として求められるICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、総合的に実施できるようになる。【DP1:知識・技能】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>情報機器の基本的な操作について、大学生として求められるICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、基本的部分が実施ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>							
教科書							
<p>『情報利活用基本演習Office2019対応』 日経BP社 ¥1,815 『2020年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 ¥367</p>							
参考書・資料							
なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<p>課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。</p>							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・専攻別に分けて授業を行う。aクラスは食物栄養専攻、bクラスは生活デザイン専攻である。 ・毎回の授業に演習課題を課す。 ・13回目の授業では情報操作の総復習の問題を課す。 ・14回目の授業では定期試験前の総まとめの問題を課す。 							
成績評価方法				成績評価基準			
<p>受講態度(20%) 毎回授業の課題提出(40%) 定期試験(40%) の総合評価</p>				<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格</p>			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				6・7,14	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス、文書の作成と管理	情報演習室の利用、新規文書の作成・保存、文字の装飾	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	情報演習室の利用方法を確認、Wordの装飾を復習する	
2	情報を利用する、正しく取り扱う1 一般的なビジネス文書の作成	著作権を遵守する 社外・社内文書の書き方、文字位置（インデント、タブ）	
	事前学習 30分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 60分	著作権の種類、Wordのインデント・タブを復習する	
3	情報を正しく取り扱う2 レポート・報告書の作成	著作権の例外規定（引用と私的使用）を知る 大学レポートの書き方、段落設定、書式設定	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	著作権の引用と私的使用、Wordの段落設定、書式設定を復習する	
4	情報を正しく取り扱う3 他データを利用した文書の作成	肖像権を守る 他文章、Excel、写真の挿入と編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	肖像権、Wordから写真の挿入と編集を復習する	
5	情報を正しく取り扱う4 表作成の基本動作	個人情報を守る 文字・数値・数式の入力、ブックの保存	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	個人情報、Excelの数式の入力を復習する	
6	情報を正しく取り扱う5 表の編集操作	SNSのマナーを知る 幅の調整、表構成の変更、セル内編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	SNSの使い方、Excelの表の入力・編集を復習する	
7	情報を正しく取り扱う6 数式・関数による集計表の作成	メールの送り方を知る 絶対・相対参照、平均、最大・最小	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	メールを送る文面、Excelの基本関数と絶対相対参照を復習する	
8	情報の安全性を守る1 グラフの作成・編集	守るべき情報や安全に運用するポイントを知る グラフのラベル・目盛、要素の書式	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	守るべき情報や運用方法、Excelのグラフの作成と編集を復習する	
9	情報の安全性を守る2 プレゼンテーションの基本操作1	安全性を脅かすものを知る スライドのデザイン、箇条書き、段落番号の作成・編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	ウイルスからの保護、PowerPoint (PP)の基本入力を復習する	
10	情報の安全性を守る3 プレゼンテーションの基本操作2	安全性を守る技術的対策を知る 特殊の文字やイラストの挿入、表やグラフの挿入	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	安全技術の方法、PPのグラフ、表の挿入を復習する	

11	プレゼンテーションの基本操作3	図形の挿入、アニメーション効果	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	PPの図形の挿入とアニメーションを復習する	
12	プレゼンテーションデザイン イラスト・写真の活用と編集	センスアップのためのレイアウトデザイン イメージを伝えるためのイラスト・写真の編集操作	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	訴求効果のあるPPの書き方を復習する	
13	情報操作総復習	Word2019、Excel2019、PowerPoint2019総復習	
	事前学習 30分	総復習で使用した資料を読んでくる	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果の確認のための模擬試験	
	事前学習 30分	総復習で使用した資料を読んでくる	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスエクセル	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7,14	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現在の学生生活、その先の仕事や社会生活で使われる可能性の高いものを例に挙げ、表計算ソフトEXCELを活用して処理する方法を取り上げる。時間・金額等のデータ記録管理、検索抽出などのデータ操作と活用、グラフを活用した視覚的な表現力の向上を目指しながら、入力ミスを防ぐ方法や、データベースを表に集計する方法などを学ぶ。							
到達（成績評価A）目標							
さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、総合的に処理することができる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、基本的な部分进行处理することができる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし（毎回資料を配布する）							
参考書・資料							
なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
毎回の授業に演習課題を課す。							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(20%) 定期試験(60%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスエクセル	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ 前田 やすとも 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7,14	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	アンケート集計	表作成、式・関数計算、条件付き書式、データの抽出	
	事前学習 5分	シラバスを読んてくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
2	アルバイト勤務表	日付、時刻の管理、金額計算	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
3	案内状、納品書	納品書とは、商品コード、商品名の検索、入力規則	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
4	請求書	請求書とは、商品コード、商品名の検索	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
5	売上分析、栄養成分表、体制表	表の印刷、特殊なグラフ、SmartArtグラフィック	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
6	家計簿	日付関数、収入残高計算、月単位と年単位の管理	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
7	売上分析	シートの連携、複合グラフ、スパークライン	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
8	売上分析	レコードの条件抽出・並び替え、小計の出し方	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
9	売上分析・アンケート集計1	3D集計の方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
10	売上分析・アンケート集計2	3D集計の方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

11	点数管理	順位関数、条件付き書式、分布グラフ、照合関数（INDEX・MATCH）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
12	顧客住所録	データの管理・修正（全半角、空白文字の扱い、文字列の取り出し）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
13	会社統計計算	年月日の引き算、数える関数、複数の条件のもとでの計算、式の結合	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
14	賃金計算	年月日関数、AND・OR関数、時刻のシリアル値、時間の計算	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスワード	選択	共通	1,2年後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>文書作成ソフトウェアWordについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、総合的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、基本的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>							
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<p>課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。</p>							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<p>Wordの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいWord文書の例に従い、作成の練習を行う。1回の授業を前半後半に分け、前半は知識問題を中心に、後半は実技問題を中心とする。</p>							
成績評価方法				成績評価基準			
<p>授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(80%) の総合評価</p>				<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格</p>			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスワード	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	知識問題1前半/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/ページ設定、レイアウト変更など	
	事前学習 5分	シラバス及び知識練習問題1を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題1とページ設定、レイアウトを復習する	
2	知識問題1後半/実技1中盤	作業環境・環境の設定と変更/ワードアートなど	
	事前学習 60分	知識練習問題1を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題1とページ設定、ワードアートを復習する	
3	知識問題2前半/実技1後半	書式設定/図形の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題2と図の編集を復習する	
4	知識問題2中盤/実技2前半	書式設定/ヘッダーとフッターの文字と図形編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題2とヘッダーとフッターを復習する	
5	知識問題2後半/実技2中盤	書式設定/スタイルの定義と適用など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題2とスタイルの定義と適用を復習する	
6	知識問題3/実技2後半	ファイル・ページ設定・印刷/表の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題3を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題3と表の編集を復習する	
7	知識問題4前半/実技3前半	文書編集/文章の挿入、段落と改行など	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題4と文章の挿入、段落と改行を復習する	
8	知識問題4後半/実技3中盤	文書編集/段組みと段区切りなど	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題4と段組みと段区切りを復習する	
9	知識問題5前半/実技3後半	罫線と表/SMARTArtの作成と編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題5とSMARTArtの作成と編集を復習する	
10	知識問題5後半/実技4前半	罫線と表/タブとリーダーなど	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んでくる	
	事後学習 60分	知識問題5とタブとリーダーを復習する	

11	知識問題6/実技4中盤	オブジェクト/箇条書きなど	
	事前学習 60分	知識練習問題6を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題6と箇条書きを復習する	
12	知識模擬問題1と2/実技4後半	15分知識試験と解説の2回分/表の配置など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～6を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題1と2と表の配置を復習する	
13	知識模擬問題3/実技模擬問題3	15分知識試験と解説/実技のまとめ	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題3を復習する	
14	実技模擬問題	実技問題(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題1の内容を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスパワーポイント	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
プレゼンテーションソフトウェアPowerPointについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。							
到達（成績評価A）目標							
各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、総合的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、基本的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
PowerPointの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいPowerPointプレゼンテーションの例に従い、資料作成の練習を行う。1回の授業を前半後半に分け、前半は知識問題を中心に、後半は実技問題を中心とする。							
成績評価方法				成績評価基準			
授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(80%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスパワーポイント	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	知識問題1/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/スライドマスターの使い方など	
	事前学習 5分	シラバス及び知識練習問題1を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題1とスライドマスターを復習する	
2	知識問題2/実技1中盤	書式設定/SMARTArtグラフィックの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題2とSMARTArtグラフィックを復習する	
3	知識問題3/実技1後半	スライド/アニメーションの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題3を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題3とアニメーションを復習する	
4	知識問題4/実技2前半	ファイル/表の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題4と表の編集を復習する	
5	知識問題5/実技2中盤	編集/動作設定ボタンの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題5と動作設定ボタンを復習する	
6	知識問題6/実技2後半	罫線と表/画面切り替えの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題6を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題6と画面切り替えを復習する	
7	知識問題7/実技3前半	オブジェクト、図形/図の挿入など	
	事前学習 60分	知識練習問題7を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題7と図の挿入を復習する	
8	知識問題8/実技3中盤	校閲/ハイパーリンクの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題8を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題8とハイパーリンクを復習する	
9	知識模擬問題1/実技3後半	15分知識試験と解説/画像の挿入など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題1と画像の挿入を復習する	
10	知識模擬問題2/実技4前半	15分知識試験と解説/スライドマスターの複製とスライド変更など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題2とスライドマスター複写を復習する	

11	知識模擬問題3/実技4後半	15分知識試験と解説/ワードアートの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題3とワードアートを復習する	
12	実技模擬問題1	実技問題1(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題1の内容を復習する	
13	実技模擬問題2	実技問題2(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題2の内容を復習する	
14	模擬試験	本試験対策	
	事前学習 60分	知識問題と実技問題の模擬問題を再復習する	
	事後学習 60分	模擬問題を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
心理学	選択	共通	1年前学期	講義	2	さくま なおと・はらしま まさゆき 佐久間 直人・原島 雅之	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
共通科目（社主事）		特になし				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>心とは何でしょうか。自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思えます。そのような対象について、心理学は100年以上にわたって科学的に解明しようと様々な試みを行ってきました。多くの先人たちがどのような工夫を行い、そしてその結果どのようなことがわかってきたのか、色々な心理学の分野における知見について紹介していきます。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における身近な心理学的現象について、授業で学んだ知見をもとに説明することができる。【DP1：知識・技能】 「心のはたらき」における社会的機能や適応的意義について説明をすることができる。【DP1：知識・技能】 「心」を科学的に扱うということについて、基本的な説明ができるようになる【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ心理学的知見について、具体的な例を挙げて説明することができる。【DP1：知識・技能】 「心のはたらき」について、心理学的用語を使って説明をすることができる。【DP1：知識・技能】 心理学における実験や調査の手法について、具体的な例を挙げて説明することができる【DP1：知識・技能】 							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
毎回の授業においてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果の確認のための試験(70%) リアクションペーパーなどの課題(30%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
心理学	選択	共通	1年前学期	講義	2	さくま なおと・はらしま まさゆき 佐久間 直人・原島 雅之	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
共通科目（社主事）		特になし				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	心理学とは	心理学という学問の概要と歴史	佐久間
	事前学習 10分	シラバスを読む	
	事後学習 10分	配布資料について復習する	
2	感覚・知覚①	ものを見る仕組みと錯視	佐久間
	事前学習 10分	心理学が扱う「心」について考えを整理しておく	
	事後学習 20分	身近にある錯視を探してみる	
3	感覚・知覚②	感覚の測定法と法則	佐久間
	事前学習 10分	対象と背景の区別や奥行き ^の 把握など「見る」ことに必要な要素を考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
4	学習・条件づけ①	古典的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	自分の癖や好き嫌いについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
5	学習・条件づけ②	道具的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	好き嫌いについて、古典的条件づけを用いた説明を考えておく	
	事後学習 20分	自分の癖や好き嫌いについて心理学的に説明し、修正方法を考える	
6	認知・記憶	記憶の仕組みと認知	佐久間
	事前学習 10分	うっかり読み間違いをした単語を思い出し、メモしておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
7	認知・思考	論理的な推論と意思決定の法則性	佐久間
	事前学習 10分	自分が下した決定の理由や決め手について考えてみる	
	事後学習 20分	これまでに自分がした法則的な意思決定や誤謬を説明してみる	
8	動機づけ①	モチベーションとは、基本的欲求と目標の追求	原島
	事前学習 10分	自分の目標について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
9	動機づけ②	目標設定と計画の立て方、自己制御	原島
	事前学習 10分	自分の目標を達成するための計画を考える	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
10	社会的認知①	他者に対する印象、バイアスとステレオタイプ	原島
	事前学習 10分	身近な他者についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	

11	社会的認知②	自己呈示、社会的自己と自尊心	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	自分自身についてのイメージを考え、整理しておく 配布資料について復習する	
12	パーソナリティ①	性格の諸理論、性格の一貫性	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	自分や他者の性格について考え、整理しておく 配布資料について復習する	
13	パーソナリティ②	性格の測定、性格の背景	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	人の性格はどう調べられるか、どう形作られるかについて考えておく 配布資料について復習する	
14	まとめ	全体の振り返り、学修成果の確認のための試験	原島
	事前学習 60分 事後学習 30分	これまでの学習内容を振り返り、心理学とはどのような学問か、「心のはたらき」とは何かについて、自分の考えを整理しておく 試験で答えられなかったところを見直し、学習を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
現代日本の社会問題	選択	共通	2年前学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現代日本の社会問題について、家庭をめぐる経済の問題に始まり、民主政治の条件、教育のあり方を論じ、死をめぐる問題を扱う。講義としているが、できるだけ履修者が積極的に発言できるような進行を予定している。そのために、毎回配布するプリントをよく予習して自分なりの問題点を見つけておくことが望まれる。タイムリーな話題については、DVD等で追加的に学習する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の社会問題について基礎事項を修得する。【DP1：知識・技能】 ・現代日本のさまざまな社会問題について説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・現代日本のさまざまな社会問題について、他の人と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の社会問題について基礎事項を修得する。【DP1：知識・技能】 ・現代日本のさまざまな社会問題について説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
なし（プリントを配布する）							
参考書・資料							
特になし（授業において必要に応じて紹介する）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパー（印象に残ったこと、疑問に思ったこと）は翌々週の授業時に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁 ・私語は禁止 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢		(20%)		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している			
提出物（小テストを含む）		(80%)		A(89-80点)：到達目標を達成している			
の総合評価				B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している			
				C(69-60点)：単位修得目標を達成している			
				D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない			
				Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
現代日本の社会問題	選択	共通	2年前学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	国民経済における家庭経済(1)	家庭経済の設計(1)、家計と企業のつながり	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
2	国民経済における家庭経済(2)	家庭経済の設計(2)、家事労働と市場労働	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
3	国民経済における家庭経済(3)	就業と生涯賃金、労働市場	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
4	少子高齢社会と社会経済政策(1)	税、社会保障制度と財政負担・人口構造	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
5	少子高齢社会と社会経済政策(2)	少子高齢社会と外国人労働政策	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
6	社会問題としての格差	格差社会としての日本	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	民主政治について(1)	民主主義と全体主義	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
8	民主政治について(2)	選挙と政権交代	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
9	民主政治について(3)	テロリズムと日本	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
10	教育について(1)	民主主義と教育	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

11	教育について(2)	グローバル化の中の教育	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
12	死について(1)	死刑と安楽死	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
13	死について(2)	消費者としての患者と医療	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
14	死について(3) 及びまとめ	葬送のあり方及び全体の振り返り	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>現在、私たちの日々の生活が外国(企業・人)との関係なしには成り立たなくなっている。このようなグローバル世界において生きる知的土台を築くため、異文化理解についての基本的な考え方、その問題点を学びつつ、国際社会の成り立ちの過去から現在を経て未来へと向かう変動の中での人々の価値観・文化の揺らぎを理解する。各種ホームページからの資料や国内・海外のテレビニュース等を利用する。授業進行は、議論の論理的構築及び話題性の両方を考慮して、柔軟に行っていくものとする。</p>							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎力を修得する。【DP1:知識・技術】 ・異文化理解のための基本的な考え方を修得する。【DP1:知識・技術】 ・国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解している。【DP1:知識・技術】 ・日常生活における異文化をめぐる問題について、関心をもち、意見を表明し、他者と意見交換ができるようになる。【DP1:知識・技術】【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性、協働性】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎力を修得する。【DP1:知識・技術】 ・異文化理解のための基本的な考え方を修得する。【DP1:知識・技術】 ・国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解している。【DP1:知識・技術】 ・日常生活における異文化をめぐる問題について、関心をもち、自分なりの意見を表明することができるようになる。【DP1:知識・技術】【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性、協働性】 							
教科書							
必要に応じてプリント等を配布する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌々週の授業時に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言が期待される ・遅刻厳禁 ・私語は禁止 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢 (20%) 提出物 (80%) の総合評価				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない Z:受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	なぜ「異文化と世界」を学ぶか	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 60分	授業計画の説明を再確認する	
2	日常生活とグローバル化（1）	消費生活、雇用、企業、地域社会	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
3	日常生活とグローバル化（2）	反グローバル運動、反グローバルナショナリズム	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
4	異文化理解のための知識（1）	必要な文化情報、価値観	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
5	異文化理解のための知識（2）	例としての銃社会アメリカ	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
6	異文化コミュニケーション（1）	コミュニケーションのルール	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
7	異文化コミュニケーション（2）	例としての闘牛	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
8	異文化接触とステレオタイプ	文化還元主義、解釈、スキーマ	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
9	国際秩序の歴史(1)	ウェストファリア条約と西欧国際システムの誕生	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
10	国際秩序の歴史(2)	2つの大戦の反省としての第2次世界大戦後の秩序(安全保障と経済、社会)	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	

11	国際秩序の歴史(3)	東西冷戦と冷戦後の世界（地域紛争及び国際テロリズム）	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
12	現在の世界	始まった新冷戦（中国の台頭とロシアの復活）の特質	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
13	これからの日本	多民族社会日本の安全保障と経済	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
14	オリンピックおよびまとめ	オリンピックの理念・歴史・問題点及び全体の振り返り	
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年前学期	講義	2	ともよせ たかのぶ 友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
憲法に定める財政民主主義に関連し、国家財政の会計検査、諸外国との意見交換のための国際会議への出席、国会の予算委員会、決算委員会などでの予算執行等に関する議員質問への答弁などの経験を有した教員より、我が国における憲法の運用実態を学ぶことができる。							
授業の概要							
憲法の基本的枠組み（基本的人権、統治機構）を、出来るだけ身近な事例を取り上げて説明することで、憲法とは何かを理解する。現代法のうち日常生活に密接な関連を有する民法や労働関係法などの初歩を理解する。							
到達（成績評価A）目標							
憲法及び現代法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して、自らの考え方を整理し、意見表明できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】憲法及び現代法に関する設問の意味や関連資料の内容を十分理解し、それを踏まえてある程度の分量に達する答案文を論理的に作成することができる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
憲法及び現代法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して自らの考え方を整理し、文章で表現できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
木山泰嗣：『マンガでわかる日本国憲法』 池田書店（最新版） ¥1,458							
参考書・資料							
①池上彰：『超訳 日本国憲法』 新潮新書（2015） ¥842 ②伊藤真：『伊藤真の日本一わかりやすい憲法入門』 中経出版（初版） ¥1,620 ③中川淳：『現代法学を学ぶ人のために』 世界思想社（第二版） ¥2,530							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出されたレポートにコメントを加え改善点などを指導する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
授業中、前後の質問大歓迎。							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年前学期	講義	2	ともよせ 友寄 たかのぶ 隆信	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	社会生活と法律	法とは何か、法の歴史と発展、法の分類、解釈と適用	/
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書③の関連箇所での復習	
2	憲法の歴史	憲法は何のためにあるか、近代憲法の誕生、日本国憲法の制定	/
	事前学習 40分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
3	憲法の基本原理と平和主義	国民主権と象徴天皇、憲法9条と自衛隊・日米安保条約	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
4	基本的人権の原理	人権の意味・特徴・分類、公共の福祉による制限、個人の尊重	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
5	法の下での平等	法の下での平等の意味、一票の格差、男女の平等など	/
	事前学習 10分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
6	自由権	表現の自由とプライバシー、思想・信教の自由、経済的自由権など	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習	
7	福祉国家と社会権、参政権	生存権、教育を受ける権利、労働権	/
	事前学習 20分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②③の関連箇所での復習	
8	国会	健力分立の原理、国権の最高機関、二院制	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習、配付プリントを復習	
9	内閣、司法、財政	議院内閣制、司法権の独立、財政民主主義	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所、配付プリントを読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習、配付プリントを復習	
10	民法入門、財産権	民法とは何か、権利能力、物権と債権、時効など	/
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	同上などで復習	

11	社会生活と契約、不法行為	契約の自由とその限界、不法行為の意義、損害賠償など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 30分	同上などで復習	
12	就職と労働法	労働契約の成立（採用）、労働基準法、働き方改革など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	同上などで復習	
13	家族生活と法	親子、婚姻・離婚、扶養、相続	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 30分	同上などで復習	
14	まとめ	憲法改正など全般の振り返り、学修成果確認のための試験	
	事前学習 100分	教科書全般、配布プリントをよく読んで理解すること	
	事後学習 60分	同上で復習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年 前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				11, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
ボランティアの理念、目的、原則、意義、現状、問題点を学ぶとともに、履修生がボランティア活動に参加する機会を作り、参加後にはディスカッションの場を設けボランティア活動に対する知見を広げる。また、社会的な活動を通して社会に貢献すること、コミュニケーション能力の向上及び自己実現に向けての機会を得ることとはどのようなことなのかについて共に考える。							
到達（成績評価A）目標							
講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。 1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。 1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考えることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知り、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
教科書							
授業中に資料・プリントを配布する。							
参考書・資料							
桜井政成、津止正敏編著：『ボランティア教育の新地平』ミネルヴァ書房¥3,080 岡本榮一、菅井直也他編：『学生のためのボランティア論』社会福祉法人大阪ボランティア協会¥1,980							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 講義を受けるだけでなく、日常生活の中でボランティア活動の実践に取り組む。 2. 授業中のスマートフォンの使用を禁止する。 3. パソコン室では音楽や動画、ゲームの操作及び授業内容に関連のないインターネットの視聴を禁止する。							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(40%) ボランティア体験の活動報告書・レポート(40%) 受講態度(20%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				11, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ボランティア活動について（1）	ボランティアの理念・目的	
	事前学習 15分	シラバスを読み、学習内容を把握する。	
	事後学習 30分	ボランティアの理念と目的について確認する。	
2	ボランティア活動について（2）	ボランティア活動の基本原則	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような姿勢で臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の基本原則を確認する。	
3	ボランティア活動について（3）	実際のボランティア活動	
	事前学習 15分	ボランティア活動にはどのような種類があるか考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の種類を理解する。	
4	ボランティア活動について（4）	ボランティア参加の意義	
	事前学習 15分	なぜボランティア活動に参加するのかについて考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
5	ボランティア活動について（5）	ボランティア活動と公共	
	事前学習 15分	自分ができる地域貢献について考える。	
	事後学習 30分	社会参加としてのボランティア活動を捉える。	
6	ボランティア活動について（6）	ボランティア活動とNPO法人（特定非営利活動）	
	事前学習 15分	NPO法人の意味を調べておく。	
	事後学習 30分	NPO法人の活動について関心を持つ。	
7	ボランティア活動について（7）	NPO法人の種類とその具体的な活動	
	事前学習 15分	自分が興味ある分野のNPO法人の活動について情報を得る。	
	事後学習 30分	NPO法人の種類とその具体的な活動について理解を深める。	
8	ボランティア活動について（8）	ボランティアセンターの役割と機能	
	事前学習 15分	居住地のボランティアセンター設置の有無を知る。	
	事後学習 60分	居住地のボランティアセンターの活動内容をまとめる。	
9	ボランティア活動について（9）	自分にあったボランティア活動とは	
	事前学習 30分	自分がどんなボランティア活動ができるか、したいかを考える。	
	事後学習 60分	自分にあったボランティア活動を探す。	
10	ボランティア活動について（10）	ボランティアの心構え	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような心構えで臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	

11	ボランティア活動の実践（１）	国際ボランティア活動とは	
	事前学習 15分	国際ボランティア活動について関心を持つ。	
	事後学習 30分	国際ボランティア活動について情報を収集する。	
12	ボランティア活動の実践（２）	JICA国際協力出前講座	
	事前学習 30分	講師の派遣国について把握して出前講座に臨む。	
	事後学習 60分	出前講座内容をまとめる。	
13	ボランティア活動の実践（３）	学外ボランティア活動の実践	
	事前学習 30分	参加するボランティア活動について内容を把握する。	
	事後学習 60分	参加したボランティア活動内容をまとめ、レポートを完成させる。	
14	まとめ	学外ボランティア活動の報告会と学修成果確認のための試験	
	事前学習 180分	ボランティア活動内容についてまとめる。前学期全体の学習内容を振り返る。	
	事後学習 60分	報告会の内容を振り返り、自分が関心興味あるボランティア活動について理解を深める。試験で出来なかったところを見直し、学習を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>自らが社会に必要とされる人財になるには、社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や社会人・企業人として自律していきける能力を身に付ける必要がある。そのために必要な心構えやマナー、身だしなみ、言葉遣いを学ぶ。また、就職活動の流れ、基礎知識、自己分析、企業研究の方法、履歴書の書き方を学び、就職活動に必要な事項の習得を行う。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のキャリアデザインについて、具体的に示すことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 就職活動を行うにあたり知識と心得を身につけている。【DP1：知識・技能】 3. 自分を分析し、適切な自己表現ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 就職活動に必要な企業の情報を目的に応じて得ることができるようになる。【DP1：知識・技能】 5. 就職活動に必要な履歴書を適切に作成できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のキャリアデザインについて、示すことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 就職活動を行うにあたり基本的な知識と心得を身につけている。【DP1：知識・技能】 3. 自分を知り、自己表現ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 企業研究の方法を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 5. 就職活動に必要な履歴書を作成できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
キャリアタス就活『就職支援ブック 就職活動編』DISCO（最新版）¥1,320							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・セミナーは制服着用のこと。 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(50%) 提出物 (50%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス・就職活動の流れ・自己分析1	授業の目的、内容、今後の予定、キャリア形成・キャリアデザインとは、就職活動の流れ、自分史の作成	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。教科書 p 4～7、Lesson1、2を読んでくる。	
	事後学習 10分	「自己史作成シート」を完成させる。	
2	自己分析2	自分の長所と短所、自分の強み	/
	事前学習 10分	教科書Lesson3を読んでくる。	
	事後学習 10分	「自分の長所、短所を考えるシート」「自分の強みをまとめるシート」を完成させる。	
3	自己PR	自己PR	/
	事前学習 10分	教科書Lesson14、15を読んでくる。	
	事後学習 10分	「自己PR文作成シート」を完成させる。	
4	キャリアデザイン1	キャリアデザイン、セミナーの案内	/
	事前学習 10分	教科書Lesson4を読んでくる。	
	事後学習 20分	「私の命を育んだお金はいくら?のシート」を完成させる。	
5	キャリアデザイン2	セミナー(1) (生活設計について) (公) 生命保険文化センター	/
	事前学習 10分	将来の生活設計について考えてくる。	
	事後学習 20分	将来の生活設計について具体的に考える。	
6	業界・企業研究1	セミナー(2) (企業研究、業界と業種) (株) マイナビ	/
	事前学習 10分	教科書Lesson6、7、10、12を読んでくる。	
	事後学習 15分	セミナーの内容を復習する。	
7	企業研究2	企業研究	/
	事前学習 10分	教科書Lesson8、9を読んでくる。	
	事後学習 20分	「企業研究シート」を完成させる。	
8	就職活動のマナー1	就職活動のマナーについて、敬語と身だしなみ	/
	事前学習 10分	教科書 p 110～112を読んでくる。	
	事後学習 15分	敬語の使い方、身だしなみについて復習する。	
9	就職活動のマナー2	就職活動のマナーについて、メール文・添え状・封筒の書き方	/
	事前学習 10分	教科書 p 102～107を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題「メール文」「添え状」「封筒」を完成させる。	
10	就職活動のマナー3	就職活動のマナーについて、電話のかけ方、セミナーの案内	/
	事前学習 10分	教科書 p 108～109を読んでくる。	
	事後学習 15分	電話のかけ方について復習する。	

11	卒業生セミナー	卒業生セミナー（体験談の聴講）	
	事前学習 10分 事後学習 15分	希望職種の卒業生に対しての質問事項を考えてくる。教科書Lesson13を読ん でくる。 希望職種について考える。	
12	キャリア支援室の使い方・履歴書の作成1	キャリア支援室の使い方、履歴書の書き方の説明	
	事前学習 10分 事後学習 10分	教科書Lesson20を読ん でくる。 履歴書の表面を完成させる。	
13	履歴書の作成2	キャリア支援室の使い方、履歴書の作成	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書Lesson20を読ん でくる。 履歴書の裏面を書く。	
14	履歴書の作成3 まとめ	履歴書の作成と提出、まとめ	
	事前学習 15分 事後学習 10分	履歴書の表面、裏面を書い てくる。 履歴書を完成させ、提出する。就職活動の流れについて復習する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること				3, 6・7, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
就職活動の流れに沿い、スケジュール確認、身だしなみ、立ち居振る舞いを含めた面接対応及び実践練習を行う。時事問題、時候の挨拶、敬語等会社訪問や面接の際に好感をもたれる言葉遣いやマナーも習得する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で最大限発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 実際の面接での確な対応が十分できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を自発的に行えるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で基本的に発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 相手の求めに応じて実際の面接での確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性・多様性・協働】 							
教科書							
『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』(株)ディスコ（キャリア形成Ⅰで使用したテキスト）¥1,263							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 新聞やニュースなどを日常的に見聞きし、政治・経済を中心としたニュースに関心を持つこと。 自らの今後の生き方を前向きに捉え、就職活動を主体的に行う心構えを持つこと。 やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。 授業の進捗やセミナーによっては、スケジュールを変更することがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度 (20%) 模擬面接 (50%) 提出物 (30%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ 前田 やすとも 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること				3, 6・7, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、就職活動のスケジュール	/
	事前学習 5分	シラバスをよく読んでくる	
	事後学習 10分	自分の就職活動のスケジュールを考える	
2	就職活動にむけて（1）	就職セミナー(1) 就活メイク	/
	事前学習 5分	就活メイクについて調べる	
	事後学習 10分	就職セミナー(1)で学んだことをまとめる	
3	就職活動にむけて（2）	就職セミナー(2) 「志望動機」「学生時代力を入れたこと」の書き方	/
	事前学習 10分	履歴書の書き方を復習する	
	事後学習 20分	就職セミナー(2)で学んだことをまとめる	
4	就職活動にむけて（3）	履歴書裏面の書き方・SPI試験について	/
	事前学習 10分	履歴書裏面の書き方・SPI試験の準備をする	
	事後学習 20分	履歴書裏面を仕上げる・試験の結果から今後の対策を考える	
5	業界・企業研究（1）	企業とは、業界と職種、企業分析ノート作成	/
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(1)を仕上げる	
6	業界・企業研究（2）	学内企業研究会の事前学習	/
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(2)(3)を仕上げる	
7	業界・企業研究（3）	就職セミナー(3) 学内企業研究会参加	/
	事前学習 10分	訪問順序について確認する	
	事後学習 20分	就職セミナー(3)で学んだことをまとめる	
8	履歴書の作成	履歴書の作成	/
	事前学習 10分	教科書第4章を読んでくる	
	事後学習 30分	履歴書を清書し提出する	
9	面接試験の研究（1）	面接試験の形式と心得・自己PRの見直し	/
	事前学習 10分	面接についてP94～97を読んでくる	
	事後学習 30分	自己PRシートを完成させ覚えてくる	
10	面接試験の研究（2）	就職セミナー(4) 「面接の基本」	/
	事前学習 10分	面接についてP98～100を読んでくる	
	事後学習 20分	就職セミナー(4)で学んだことをまとめる	

11	模擬面接の実際（1）	模擬面接の準備、模擬面接のロールプレイ	
	事前学習 10分	面接のロールプレイについて資料を読む	
	事後学習 10分	模擬面接の受け方をまとめる	
12	模擬面接の実際（2）	模擬面接(1)	
	事前学習 10分	模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
13	模擬面接の実際（3）	模擬面接(2)	
	事前学習 10分	反省点を生かした模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
14	模擬面接の実際（4）	模擬面接の反省と対策	
	事前学習 10分	模擬面接を振り返る	
	事後学習 20分	模擬面接の対策をまとめる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスマナー	選択	共通	1,2年前学期	講義	2	さとう さやか 佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		教科書購入者				8, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>社会人となるための必要な知識を備えていることの証明として有効な資格の一つが秘書検定であり、「社会について理解するとともに、社会における行動のための基礎的な知識及び能力を身につける」ことにもつながる。就職活動においても、話し言葉や礼儀作法、話し相手へのマナーなどが評価されるため、ロールプレイングを実施し身につける。秘書検定は、5つの章（マナー・接遇、技能、一般知識、必要とされる資質、職務知識）から成り、出題されるため、章ごとに説明を行い、例題や過去問題に取り組むとともに、振り返りの小テストを行う。また、授業内で模擬試験を実施し、その時点での実力を判定し、今後の各自の検定試験対策を行う。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>秘書検定2級に合格することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マナー・接遇についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 技能についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. 一般知識についての知識を修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質を行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 5. 職務知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>秘書検定3級に合格することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マナー・接遇についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 技能についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. 一般知識についての知識を修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質を行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 5. 職務知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
西村この美：『現役審査委員が教える秘書検定2級・3級テキスト&問題集』 成美堂出版（最新版） ¥1,210							
参考書・資料							
<p>授業内に適宜指示、プリントで配布 実務技能検定協会編：『秘書検定 実問題集2級 2022年度版』 早稲田教育出版 ¥1,540 実務技能検定協会編：『秘書検定 実問題集3級 2022年度版』 早稲田教育出版 ¥1,320</p>							
特になし							
課題に対するフィードバック							
小テスト・課題は、採点ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・秘書検定を受験予定者は、さらに参考書資料欄の過去問題集を揃え、取り組むとよい。 							
成績評価方法				成績評価基準			
<p>模擬試験 (30%) 小テスト (30%) 課題 (20%) 受講態度 (20%) の総合評価。</p>				<p>S (100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A (89-80点)：到達目標を達成している B (79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C (69-60点)：単位修得目標を達成している D (59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格</p>			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスマナー	選択	共通	1,2年前学期	講義	2	さとう さやか 佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		教科書購入者				8, 14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス マナー・接遇1	秘書技能検定について 敬語 接遇用語	
	事前学習 10分	シラバスを読んでくる。「マナー・接遇」の章を読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
2	マナー・接遇2	電話応対	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
3	マナー・接遇3	来客応対	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
4	技能1	会議の知識 社内文書	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
5	技能2	社外文書 社交文書	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
6	技能3	受信文書の取り扱い 「秘」扱い文書の取り扱い 郵便の知識	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
7	一般知識	企業の基礎知識 ～ 企業会計・債務・税務の知識	
	事前学習 20分	「一般知識」の章を読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
8	必要とされる資質	秘書としての心構え ～ 求められる能力	
	事前学習 20分	「必要とされる資質」の章を読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をし、次週実施される小テスト対策を行う。	
9	職務知識	秘書の役割と機能 秘書の業務	
	事前学習 20分	「職務知識」の章を読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をし、次週実施される小テスト対策を行う。	
10	3級過去問題演習 解答および解説	3級過去問題演習	
	事前学習 60分	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 60分	間違えた問題の解き直しを行う。模擬試験に向けての試験対策を行う。	

11	3級模擬試験演習 解答および解説	3級模擬試験	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 30分	間違えた問題の解き直しを行う。	
12	2級過去問題演習 解答および解説	2級過去問題演習	
	事前学習 60分	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。	
	事後学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。	
13	2級模擬試験演習 解答および解説	2級模擬試験	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。	
	事後学習 30分	間違えた問題の解き直しを行う。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 30分	苦手分野の復習をする。	
	事後学習 60分	秘書検定に向けての試験対策に取り組む。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひさの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7・9, 11, 12, 16	
実務経験のある教員による科目							
長年にわたって高校での体育教師をしていることからその経験を活かして、運動が人々の健康、維持増進に欠かせない役割を果たしていることから運動の大切さ、楽しさを伝えます。							
授業の概要							
様々な運動を通じてその大切さ、楽しさを知る。また、自分の体について知り、どのようにしたら健康を保持増進できるかを考える。そして、どのような運動をしたらより効果的かを考え、実践できるようにする。また、人生100年時代における健康寿命を延ばすために必要となる運動について知識、技術を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、生涯体育を意識し日常生活で実践することができるようになる。 【DP1：知識・技能】 ・エアロビクスの技能を学び、グループの皆と協働して豊かな表現力をもって独創性のあるダンスを表現する。 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・エアロビクスの技能を学び、グループで創作したダンスを表現する。【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。 ・髪は邪魔にならないようにまとめる。 							
成績評価方法				成績評価基準			
プレゼンテーション試験(70%) 取り組み姿勢(30%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひさの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 9, 11, 12, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、ストレッチ	授業の進め方、内容説明、ストレッチ	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
2	体づくり運動、エアロビクス(1)	ストレッチ、グループゲーム、基本ステップ	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
3	体づくり運動、エアロビクス(2)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
4	体づくり運動、エアロビクス(3)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
5	体づくり運動、エアロビクス(4)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
6	体づくり運動、エアロビクス(5)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
7	体づくり運動、エアロビクス(6)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
8	体づくり運動、エアロビクス(7)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
9	体づくり運動、エアロビクス(8)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
10	体づくり運動、エアロビクス(9)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	

11	体づくり運動、エアロビクス(10)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
12	体づくり運動、エアロビクス(11)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
13	体づくり運動、エアロビクス(12)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
14	体づくり運動、エアロビクス(13)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
	事後学習 10分	試験の反省とストレッチ	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
標準英語スキルズ (英語コミュニケーションⅠ)	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳 りちやーど S おすてん Richard S Austen	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
習熟度別の2クラス編成とし、リスニング・スピーキングと文法・リーディングの授業を交互に行う。リスニング・スピーキングの授業では、ネイティブスピーカーと話すことにより英語を楽しみ、異文化を知りつつ、「使える英語」を学ぶ。履修者の状況に対応した課題を設定する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】 ・世界の国々における生活や社会のさまざまな話題となることについて、英語で読解するのに必要な総合的な能力を修得する。【DP1:知識・技術】 ・日常的な場面において必要となるリスニング・スピーキング力を修得し、実際に使うことができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】 ・世界の国々における生活のさまざまな話題となることについて、英語で理解するのに必要な基礎的な能力を身につけることができる。【DP1:知識・技術】 ・日常的な場面において必要となる基礎的なリスニング・スピーキング力を修得し、一定程度は実際に使うことができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（最新版）¥2,090 英語基礎演習と同じ 必要に応じてプリントを配付する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。 ・読解課題は添削ののち、各自に返却する。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ①毎回課題を出すので、真剣に取り組むこと。 ②積極的な授業参加を特に求める。 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組姿勢(20%) 小テスト(35%) 学修成果確認のための試験(45%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
標準英語スキルズ (英語コミュニケーションⅠ)	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	渡辺 淳 Richard S. Austen	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	授業についての説明	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
2	食べ物・飲み物	リスニング・スピーキング(1)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
3	天候	文法・リーディング・ライティング(1)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
4	趣味	リスニング・スピーキング(2)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
5	健康・病気	文法・リーディング・ライティング(2)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
6	音楽	リスニング・スピーキング(3)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
7	職業	文法・リーディング・ライティング(3)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
8	家族	リスニング・スピーキング(4)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
9	オリンピック	文法・リーディング・ライティング(4)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
10	動物とペット	リスニング・スピーキング(5)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	

11	犯罪	文法・リーディング・ライティング(5)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
12	気持ち	リスニング・スピーキング(6)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
13	マス・メディア、天災・人災	文法・リーディング・ライティング(6)	
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 120分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 30分	今後の英語学習について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
応用英語スキルズ (英語コミュニケーションⅡ)	選択	共通	2年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
eラーニング利用により受講者各々のレベルによって、A1、A2、B1の3つのコースに分割し、個人の意志と努力により、最高でTOEICの740点まで目指すことができる。課題は、写真描写問題・応答問題・会話問題・文法語彙問題・読解問題からなり、仕事・生活における表現の学習を深めていく。eラーニングという学習方法に慣れ親しむ。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC の比較的平易な問題を十分に解けることができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ 一つのレベルの全てのweb 課題に合格し、内容を修得できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ eラーニングという学習方法を十分に修得する。【DP1:知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC Bridge のレベルを修得する。【DP1:知識・技能】 ・ TOEIC の比較的平易な問題を解くことができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ eラーニングという学習方法を十分に修得する。【DP1:知識・技能】 							
教科書							
eラーニングで使用するWEB教材が事実上の教科書となる。eラーニングのためにニュートン社に対するソフトウェア使用料が必要となる（下記参照）。通常は一定期間内に履修者がコンビニより送金する形で支払う。							
参考書・資料							
プリントを必要に応じて配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
3,160円(eラーニング利用料)+300円(決済手数料)							
課題に対するフィードバック							
Web課題の達成状況についてweb上でコメントを返す。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私語厳禁。 ・ 辞典の持参が必要。 ・ eラーニングによる積極的な予習復習(毎日約10分)が必要となる。 							
成績評価方法				成績評価基準			
課題web提出(30%) 小テスト (30%) 学修成果確認のための試験 (40%) の総合評価。取組姿勢によっては5%の範囲で減点あり。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
応用英語スキルズ (英語コミュニケーションⅡ)	選択	共通	2年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	イントロダクション	eラーニング及び機器使用の仕方等についての説明	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	プリントの指定されたページを読む	
2	レベル決定	レベルチェックテスト	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	プリントの指定されたページを読む	
3	写真描写描写問題(1)	Step 1-5	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
4	写真描写描写問題(2)	Step 6-10	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
5	応答問題(1)	Step 1-5	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
6	応答問題(2)	Step 6-10	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
7	文法・語彙問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
8	文法・語彙問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
9	文法・語彙問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
10	会話問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	

11	会話問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
12	会話問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
13	読解問題	Step 1-4	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 120分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 30分	今後の英語学習について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英会話	選択	共通	1,2年前学期	演習	1	リチャード S おすてん Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
なし							
授業の概要							
現在の日本社会で、英語のニーズが増えつつある。この授業の目標は、様々な場面において、履修者が自信をもって、怖がらずに、英語でコミュニケーションを取れるようになることである。授業ごとに英語を実際に話せるための、役に立つテーマについて学ぶ。授業内容は、スピーキングとコミュニケーション(40%)、リスニング(20%)とリーディング(20%)で身につける。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> 最初の授業より会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす(口頭テスト)。【DP1:知識・技能】 授業のテーマごとに、ある程度自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性・協働性】 いろいろなトピックにおいて自分の好みと意見を述べるができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
到達(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> 最初の授業より理解できる語彙とフレーズを増やすことができる(筆記テスト)。【DP1:知識・技能】 毎回の宿題に積極的に取り組み授業では会話を楽しむことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性・協働性】 自己紹介ができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
なし							
課題に対するフィードバック							
課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。 欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。 意欲的に授業に取り組むこと ― 英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。 							
成績評価方法				成績評価基準			
口頭・筆記による学修成果確認のための試験(80%)、授業態度(20%)の総合評価。				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない Z:受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英会話	選択	共通	1,2年前学期	演習	1	リチャード S おすてん Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 9, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う ・ 授業の流れに慣れる	
	事前学習 5分	シラバスを読んてくる	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
2	Food and Drink	飲食についての話し方を学ぶ (好みや味など)	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
3	Hobbies and Interests	趣味について詳しく話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
4	Countries and Culture	行きたい国や旅行先でしたいことについて話す・異文化について学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
5	Family and Friends	自分の家族や友達について詳しく話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
6	Appearance and Clothing	ファッション・服・外見・芸能人について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
7	Japanese Food and Cooking	日本の料理の説明やお勧めの言い方について学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
8	Travel	旅行先での役に立つフレーズや質問を学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
9	Weather	天気や日本の四季について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
10	Jobs	職場で使える英語の単語やフレーズを学び・様々な仕事について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	

11	Making Foreign Friends	外国人とコミュニケーションを取ることにについて学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
12	Review and Practice(1)	総合問題(1)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(1)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること	
13	Review and Practice(2)	総合問題(2)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(2)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること 定期試験のための復讐をしておく	
14	まとめとスピーキングテスト	スピーキングテストを行う。学修成果確認のための試験	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：この授業で学んだフレーズや語彙を生活の中で使ってみる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家政学概論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	きはやししょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (社主事)		特になし				1, 8, 10, 11, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
持続可能な社会における、質の高い生活および生活環境のありようを提案できるようになるため、生活に関する知識を、地球環境を視野に入れながら学ぶ。家族生活問題が多発している現在、家政学は対人サービス専門としての役割を持っている。家政学の全体像を把握し、現代社会における家政学の役割と可能性について考察する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家政学とはどのような学問か説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 ・持続可能な社会を実現するため、自分にできる具体的な社会貢献について述べるできるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家政学とはどのような学問か概説できるようになる。【DP1：知識・技術】 ・持続可能な社会を実現するための、具体的な社会貢献について述べるできるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
教科書							
(一社)日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』 建帛社（2014）¥2,420							
参考書・資料							
(一社)日本家政学会家政学原論部会編：『やさしい家政学原論』 建帛社（2018）¥2,750							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。							
成績評価方法				成績評価基準			
小レポート(25%) 授業時の課題(60%) 小テスト(10%) 授業態度(5%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家政学概論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	きはやししょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (社主事)		特になし				1, 8, 10, 11, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	
1	家政学とは	家政学を学ぶ意義、地球市民ビンゴ	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	家政学と家庭科教育	家庭科教育の変遷と昨今の家庭科教育を知る	
	事前学習 20分	これまで受けた家庭科教育について振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	家族生活の変化	家族生活問題の発生	
	事前学習 20分	教科書P1～P4を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	人間関係とコミュニケーション	アサーショントレーニング	
	事前学習 20分	教科書P5～P12を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	ライフサイクルと家族生活の課題	自分年表	
	事前学習 20分	教科書P31～P37を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	食生活のベーシックスキル	食生活の現状と課題	
	事前学習 20分	教科書P124～P128を読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	日本の食文化	地球の食卓・フォトランゲージ	
	事前学習 20分	教科書129～P130を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
8	衣生活のベーシックスキル	ファッションの裏側	
	事前学習 20分	教科書P130～P135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	住生活のベーシックスキル	世界と日本の住まい	
	事前学習 20分	教科書P130～P135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	家庭経済と消費生活	貿易ゲーム	
	事前学習 20分	教科書P143～P153を読む	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	

11	気候変動	大量廃棄社会	
	事前学習 20分	気候変動に関する新聞記事やニュースを調べておく	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
12	持続可能な社会に向けて	小テスト・ソーシャルアクション	
	事前学習 20分	持続可能な開発目標SDGs17の目標を調べておく	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
13	生活文化について	生活文化の伝承と創造	
	事前学習 20分	生活文化から想像することがらやイメージを挙げておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	家政学の社会的役割と可能性	家政学の社会貢献	
	事前学習 20分	前学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食生活論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	かんだ せいこ 神田 聖子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (FC)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
食生活は生きる上での基本であり、家庭においても社会においても重要な役割を果たす。したがって、食生活に関する正しい知識・認識をもち、それを基に考え実践することは「自らの人生を作り出し、社会に貢献する力」につながる。本科目では、健康の維持・増進や疾病予防、豊かな食生活を送るための知識や考え方を学び、自身の食生活の中で実践できる基礎力を身につける。毎回の授業終了時にリアクションペーパー（感想用紙）を提出することで、授業内容を振り返るとともに自分の考えを表現する。また、内容の一部は家庭料理技能検定3級の一次試験にも対応している。							
到達（成績評価A）目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活の意義について理解し、現代社会の食生活の問題点を具体的に挙げるができるようになる。【DP1：知識・技能】 2. 栄養素の種類とその働き、食品群について理解し、料理を組み合わせることでバランスのよい献立を作成できるようになる。【DP1：知識・技能】 3. ライフステージに応じた課題及び食物摂取の特徴が説明できる。【DP1：知識・技能】 4. 健康、生活習慣病について理解したうえで、主体的に健康的な食習慣を営むための食選択ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP3：主体性、多様性、協働】 5. 日本の食文化の特徴について理解し、食生活や健康との関わりについて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 6. 自分の考えをもち、論理的に表現できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活の意義について理解し、現代社会の食生活の問題点を挙げるができるようになる。【DP1：知識・技能】 2. 栄養素の種類とその働き、食品群について理解し、料理を組み合わせることで献立を作成することができるようになる。【DP1：知識・技能】 3. ライフステージに応じた食物摂取の特徴について列記することができる。【DP1：知識・技能】 4. 主体的に健康的な食習慣を営むための食選択ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP3：主体性、多様性、協働】 5. 日本の食文化の特徴について理解し、食生活や健康との関わりについて概説することができるようになる。【DP1：知識・技能】 6. 自分の考えをもち、表現できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
家庭料理技能検定専門委員会編：『家庭料理技能検定 公式ガイド3級』女子栄養大学出版社（2022）¥2,860 日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店（2022）（購入済）							
参考書・資料							
家庭料理技能検定専門委員会編：『家庭料理技能検定 過去問題集』女子栄養大学出版社（最新版）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパーは翌週の授業時に返却する。 ・提出物、小テストは添削ののち、各自に返却する。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日ごろから自分の食生活に関心をもつ。 2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 3. 欠席をした際は、次回までに内容を確認しておく。 4. 授業内で小テストを1回実施する。 							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(40%)、小テスト(20%)、課題・リアクションペーパー(25%)、受講態度(15%)の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食生活論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	かんだ せいこ 神田 聖子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (FC)		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション 食生活と社会の関わり1	授業の進め方、生活と食、食べることの意味	
	事前学習 15分	シラバスを読む。教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	本授業で身につける内容を確認する。食べることの意味、からだ・健康への栄養を考えて今後の食生活を営む。	
2	食生活と社会の関わり2	健康と食（健康に良い食習慣：朝食、プチ断食）	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。自分の朝食状況について把握する。	
	事後学習 30分	朝食の意義を理解し、よりよい朝食摂取につなげる。	
3	食生活と栄養1	エネルギー・質成栄養素（たんぱく質、脂質、炭水化物）	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	エネルギー・質成栄養素のはたらきについて役割を分かるようにする。	
4	食生活と栄養2	ビタミン、ミネラル、水	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	ビタミン、ミネラルの過剰・不足による起こる症状をわかるようにする。	
5	食生活と栄養3	日本人の食事摂取基準、食品群と食品構成（3色、6つ、4つ）	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	各食品群の特徴を捉える。	
6	食生活と栄養4	食事の構成（料理区分、食事バランスガイド）	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	日頃の食事について、料理区分で評価ができるようにする。自分で食事を作る・購入するときに料理区分で構成を考えられるようにする。	
7	食生活と栄養5	1日分の献立作成（献立作成における留意点と手順、組み合わせの実際）	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	1日の献立作成を完成させる。	
8	小テスト 食生活と栄養6	1～7回までの小テスト 1日分の献立作成（組み合わせの実際2）	
	事前学習 120分	これまでに学習した内容について、ポイントを整理する。完成献立について改善点がないか見直す。	
	事後学習 60分	小テストでできなかったところを見直し、次回以降、間違えることのないよう学習を定着させる。	
9	ライフステージ別の食生活1	妊娠・授乳期（食生活指針、DOHaD説）、新生児・乳児期（支援ガイド）	
	事前学習 20分	離乳食の特徴について調べる。	
	事後学習 30分	将来の自分あるいは身近な人と照らし合わせて理解を深める。「離乳食の進め方の目安」を中心に復習し、月齢による特徴を説明できるようにする。	
10	ライフステージ別の食生活2	幼児期（間食）、学童期（共食）、思春期（ダイエット）	
	事前学習 15分	自分がこれまでに実践したことがあるダイエット法について振り返る。	
	事後学習 15分	過去・現在の自分、身近な人と照らし合わせて理解を深める。ダイエットの本来の意味を理解し、実践する。	

11	ライフステージ別の食生活3	成人期（中食・外食、アスリート）、高齢期（フレイル）	
	事前学習 15分 事後学習 30分	教科書の該当ページを読む。 自分と照らし合わせて理解を深める。フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアを区別できるようにする。中食・外食を上手に使えるようにする。	
12	生活習慣病と食生活	生活習慣病の食事・栄養素との関連、予防のための食事（レシピ展開）	
	事前学習 15分 事後学習 30分	自分が知っている生活習慣病について振り返る。 生活習慣病と食事・栄養素の関連を理解したうえで、生活習慣病のリスクを下げる食生活を実践する。	
13	日本食文化	和食とその特徴、食事の歴史と献立形式、日本食のマナー（箸の持ち方の実践）、季節の料理、盛り付けと配膳の基本	
	事前学習 15分 事後学習 30分	教科書の該当ページを読む。 和食の特徴について説明できるようにする。正しい箸の持ち方を実践する。長年をする際に食材の旬を意識する。盛り付けと配膳について学習内容を実生活に活かす。	
14	学修成果確認のための試験、全体の振り返り	全体の振り返り	
	事前学習 360分 事後学習 90分	全体の学習内容を振り返り、豊かな食生活を送るための基礎的事項がわかるようにする。 試験でできなかったところを見直し、次回以降、間違えることのないよう学習を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣・住生活論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	はた くみこ やまむら みほり 畑 久美子・山村 美保里	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>自らの人生を作り出し、社会に貢献する力を身につけるために、家庭を中心とした衣生活・住生活を総合的、科学的に認識し、衣生活・住生活の質の向上を目指す。住生活分野では、世界の伝統的住居にみられる風土に適した住まい及び我が国の住まいの変遷を通して住宅の役割を学ぶ。更に、安全と防災、環境、ライフスタイル等の住まいの計画に必要な要素を学ぶ。衣生活分野では、人間にとって衣はどのような存在かを考え、人と社会と衣の関係について学ぶ。人間が被服を身につけるようになってから現代までの服装の変遷をはじめ、健康や環境とのかかわり等について学ぶ。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・風土と住まい、住まいの機能と役割を学び、自分の言葉で住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・学んだ知識を活かし、安全で健康な住まいを営むための提案ができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・人間が衣服を着用する意味を知り、自分の言葉で衣服の意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための提案ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・風土と住まい、住まいの機能と役割を学び、住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・学んだ知識を活かし、安全で健康的な住まいを営むための情報収集ができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・人間が衣服を着用する意味を知り、衣服の意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための情報収集ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
教科書							
必要な資料は適宜配布							
参考書・資料							
岡田宣子他：『ビジュアル衣生活論』 建帛社（2010）¥2,484 間瀬清美 他：『新版 衣生活の科学 テキスタイルから流通マーケットへ』 アイ・ケイコーポレーション（2015）¥2,808							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
レポートを提出した後、評価して返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォンの操作禁止 ・私語厳禁 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求められることがある 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験（60%） 授業内課題（20%） 受講態度（20%）				S（100-90点）：到達目標を超えたレベルを達成している A（89-80点）：到達目標を達成している B（79-70点）：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C（69-60点）：単位修得目標を達成している D（59-0点）：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣・住生活論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	畑 久美子・山村 美保里	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				15, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス 風土と住まい	講義の目的及び方針、基礎事項の解説等 世界の伝統的住居	山村
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	プリントを復習する	
2	日本の住まいの変遷 I	日本の気候風土と住まいの関係 前近代までの住まいの変遷	山村
	事前学習 30分	伝統的住居について参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
3	日本の住まいの変遷 II	住まいの近代化	山村
	事前学習 30分	日本の気候風土と伝統的住居の資料を参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
4	現代の住宅	住宅政策と課題	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
5	住環境 I	住まいの危険と防災	山村
	事前学習 30分	自宅及び町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
6	住環境 II	まちづくりと関連法規	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
7	住生活分野の復習	1～6回までの学修成果確認のための試験と総括	山村
	事前学習 30分	これまでのプリントを復習する	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
8	衣生活とは、気候風土と装い	衣とは何か、装いの起源、衣の基本型、衣の民族性・地域性	畑
	事前学習 10分	シラバスを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を復習し自分の考えをまとめる。	
9	被服の変遷	西洋服装史、日本服飾史	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。	
	事後学習 30分	衣服の変遷について振り返り、現代の衣服との違いを考える。	
10	和服と日本の生活文化	和服の種類と着装形態、和服の構成、ライフステージと和服	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。和服について関心を持つ。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	

11	アパレル産業と既製服	アパレル産業と既製服生産システム、環境保全活動、衣服の選択、サイズ表示、素材と管理	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。所持する衣服のサイズ表示を見ておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
12	衣服の快適性と健康	被服衛生と健康、衣と福祉、衣服内気候、衣服圧と着心地、体型と衣服	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。着心地の良い衣服とは何か考えておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
13	服飾文化と流行	色彩文化、ファッション、心理と流行、衣服と個性・社会性	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。現代の流行を調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
14	衣生活分野の復習	8～13回までの学修成果確認のための試験と総括	畑
	事前学習 30分	これまでのプリントを復習する	
	事後学習 30分	プリントを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
妊娠・出産・保育の科学	生デ：卒必修 食栄：選択	共通	2年前学期	講義	2	いわくら こうき・かわかみ よしこ 岩倉 弘毅・川上 美子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
【岩倉】60年近く産婦人科医として診療に携わった経験を活かし、妊娠から出産に至る迄を講義します。 【川上】長年保育者養成の大学で保育士資格、幼稚園免許取得の授業を担当した。自身の保育現場の経験も活かし講義します。							
授業の概要							
【妊娠・出産】女性のライフサイクルにおける思春期から妊娠・出産・産褥までの知識を理解する。①主として口頭による講義、筆記による説明を行う。②ビデオを用い妊娠中のケアについて説明する。③ビデオを用い出産の様子を供覧する。④各種プリントを用いる。 【保育】乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期である。青年期の今、子どもとは、保育とは、育ちを支える環境、遊びの意義、保育施設などを学生自身の体験も振り返りつつ学習する。子どもが人として育つうえで大切なこと、また児童福祉、少子化問題、子育て支援など社会的な課題も取り上げる。							
到達（成績評価A）目標							
【妊娠・出産】女性のライフサイクルを理解し、その中で妊娠出産に関する生理、および病理の知識を習得する。そして、将来の自分自身にあてはめて考えられるようになる。【DP1：知識・技能】 【保育】出生から乳幼児の発達の過程とその育ちを支える保育の方法、子ども理解、家族のあり方、保育環境、保育施設について基本的に重要な事柄を理解し、自分の考えを他者との話し合いにより多様な考えも取り入れて深め、何が大切かを判断し、他者に自分の考えを説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力、判断力、表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
【妊娠・出産】生理的な正常妊娠と異常妊娠、正常出産と異常出産、新生児の生理を学び、将来、自分自身の結婚、妊娠、出産に対する心構えを構築する。【DP1：知識・技能】 【保育】出生から乳幼児の発達の過程とその育ちを支える保育の方法、子ども理解、家族のあり方、保育環境、保育施設について基本的に重要なことを習得する。【DP1：知識・技能】							
教科書							
【妊娠・出産】特になし 【保育】岡野雅子他著：『新保育学（改訂5版）』 南山堂（最新版） ¥2,090							
参考書・資料							
【妊娠・出産】特になし 【保育】特になし							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
【妊娠・出産】特になし 【保育】特になし							
課題に対するフィードバック							
【妊娠・出産】特になし 【保育】授業で学んだことや課題について毎回レポートを作成し、教員は添削指導する。その後の授業で重要な事柄を確認し、理解を深める。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
【妊娠・出産】・授業の前後で質問を受け付ける・私語厳禁・携帯電話、スマートフォン操作厳禁・遅刻厳禁 【保育】・意欲的に授業に取り組んでほしい。・携帯電話の操作を禁じる。・遅刻をしない。 ・子どもに関心を持ち、子どもと接する機会を持つよう努力してほしい。 ・新聞、テレビなど保育に関わる記事やニュースに関心をもってほしい。 自分でよく考え、グループで話し合い視野を広げてほしい。教材としてDVDや絵本も使い、子どもの姿や心に触れて、感じる心を培ってほしい。							
成績評価方法				成績評価基準			
【妊娠・出産】 受講態度（15%）・定期試験（35%）の総合評価。 【保育】 受講態度（10%）・授業内・宿題レポート（15%）・成果物（25%）の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
妊娠・出産・保育の科学	生デ：卒必修 食栄：選択	共通	2年前学期	講義	2	いわくら こうき・かわかみ よしこ 岩倉 弘毅・川上 美子	オムニバス
科目区分		履修条件					AL
家政科コア科目		特になし					—

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	妊娠の徴候と診断	ヒトのライフサイクル、妊娠の徴候	岩倉
	事前学習 15分	思春期の変化と更年期の変化について調べてみる	
	事後学習 20分	妊娠の症状、確実な徴候について復習する	
2	妊娠の経過と妊婦健診の流れ	胎児の発育、妊娠時の諸検査	岩倉
	事前学習 15分	妊娠した時の対処法について調べる	
	事後学習 20分	妊娠時諸検査と妊婦健診の流れを復習	
3	妊娠初期と中期後期の異常		岩倉
	事前学習 20分	妊娠中の生活について注意すべき事を考える	
	事後学習 20分	異常妊娠について復習する	
4	出産の経過とその対応	経膈出産と帝王切開出産	岩倉
	事前学習 20分	流産、早産、正常産、過期産について調べる	
	事後学習 20分	帝王切開による出産について復習する	
5	異常出産とハイリスク妊娠	分娩三要素の異常と母体合併症	岩倉
	事前学習 20分	ハイリスク妊娠について考えてみる	
	事後学習 20分	分娩の三要素の異常について復習する	
6	産褥期の経過と新生児	出産後の変化と新生児の生理	岩倉
	事前学習 20分	乳房の管理について調べる	
	事後学習 20分	産褥異常と新生児の異常について復習する	
7	不妊症と出生前診断・法規	不妊症の検査、避妊法、出生前診断 関係法規	岩倉
	事前学習 15分	家族計画とは？について調べる	
	事後学習 20分	避妊法と関係法規について復習する	
8	保育とは、保育を学び意義	命の大切さ、子どもという存在、育つこと、育てること	川上
	事前学習 20分	シラバスを読む。自分にとって子どもとは。子どもの時楽しかったこと・厭だったこと	
	事後学習 20分	自分の誕生の話を聞く。保育を学ぶ意義を確認する。	
9	子どもの心身の発達	子どもの発達の特性と発達過程	川上
	事前学習 20分	教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習 20分	生理的早産と養育について、子どもの精神発達について復習する	
10	子どもを育てる	愛着と信頼感の形成、養育態度の重要性	川上
	事前学習 20分	教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習 15分	授業内容を復習し、理解を深める。	

11	子どもの生活と遊び (1)	子どもの生活習慣の形成、食生活	川上
	事前学習 15分 事後学習 20分	自分の家庭の教育で大切にされていたことを思い出す。 教科書を読んで復習する。	
12	子どもの生活と遊び (2)	子どもの遊びの意義と発達 (遊びの大切さ)、文化財	川上
	事前学習 15分 事後学習 15分	子どもの時の遊びについて考えてくる。お薦めの絵本を1冊持参する。 遊びの現状を教科書を読んで復習する。	
13	保育の実態	家庭保育と集団保育、保育の実態を学ぶ。	川上
	事前学習 20分 事後学習 20分	幼稚園、保育園の役割について調べる。 保育の基本を確認し習得する。	
14	これからの社会と保育の課題	児童福祉、子育て支援、子どもが健やかに育つ環境の整備、保育の心	川上
	事前学習 20分 事後学習 30分	子どもや保育に関する記事を持参する 保育に関し、広い視野で自分の考えを深める。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家庭経営学	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	きはやし 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				1, 8, 10, 11, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
自分らしい人生を作り出すため、家庭を中心とした生活における様々な課題について学び、自分の問題としてとらえ考察する。生活にかかわる諸問題は、個人・家族の努力や工夫の範囲を超えて、地域や国の政策、さらには地球規模の連携まで視野に入れないと解決できない。社会的な課題も視野に入れて、その改善や解決のために、自分は何ができるかを考え主体的に関わる態度を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 自分らしく生きることの大切さを認識し、社会的な課題も視野に入れてライフプランを作成できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 ライフステージごとの具体的な課題について理解し、自分なりの解決策を考え提示できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 自分らしく生きることの大切さを認識し、ライフプランを作成できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 ライフステージごとの具体的な課題について説明できるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
1年前学期「家政学概論」で使用した教科書を使用する。 ※(一社)日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』 建帛社（2014）¥2,420							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。							
成績評価方法				成績評価基準			
小レポート(25%) 授業時の課題(60%) 小テスト(10%) 授業態度(5%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家庭経営学	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	きはやし 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				1, 8, 10, 11, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	家庭経営の考え方	家庭経営学の内容	
	事前学習 5分	シラバスをよく読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	価値判断と意思決定	価値観オークション	
	事前学習 20分	教科書P13～P22を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	家庭生活とジェンダー	日本におけるジェンダー平等をめぐる状況	
	事前学習 20分	教科書P46～P49を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	セクシュアリティ	さまざまなセクシュアルマイノリティ	
	事前学習 20分	教科書P54～P59を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	恋愛とパートナー関係	デートDV	
	事前学習 20分	教科書P61～P63を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	パートナーの選択	結婚オークション・紙上ディベート	
	事前学習 20分	教科書P64～P67を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
7	結婚とパートナー関係	結婚の歴史	
	事前学習 20分	教科書P64～P67を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
8	生活時間のマネジメント	生活時間にみる家庭生活の課題	
	事前学習 20分	教科書P136～P142を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	親になる準備	子どもを生む・生まない・生めない	
	事前学習 20分	教科書P143～P149を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	子育て・子育ち	乳幼児期の子どもと家族	
	事前学習 20分	教科書P77～P96を読む	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	

11	高齢者と家族生活	高齢期をどう生きるか	
	事前学習 20分	教科書P108～P122を読む	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
12	ライフキャリアレインボー	小テスト・ライフプランの作成	
	事前学習 20分	これまでの学習を振り返り自分らしい生き方について考えておく	
	事後学習 60分	ライフプランを完成させる	
13	人生の終わり方	死ぬ前までになすべきこと	
	事前学習 20分	教科書P116～121を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	世界の人々とかかわって生きる	エコロールプレイ	
	事前学習 20分	後学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家族関係学	卒業必修	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現代日本の家族は、現代社会の変化に応じて大きく変化している。家族の機能や役割も変化し、そうした中で家族が抱える問題も社会問題として注目を集めている。こうした家族の問題を捉えるために、家族についての基本的な概念や家族の普遍性と多様性を学び、現代人がもっている「家族」概念の再検討を行う。現代家族をめぐるさまざまな側面を理解するために、社会・心理的な側面から家族の傾向性を学ぶとともに、問題解決のために必要なコミュニケーションについて考える。学んだことを踏まえて、家族の現代的な問題について学生が自ら発言することで理解を深めていく。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を修得する。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、自分なりの考えが述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を修得する。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
長津美代子・小澤千穂子編著：『改訂 新しい家族関係学』 建帛社（2021）¥2,530							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパー（質問、感想等）については授業においてコメントする							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁 ・授業の中での積極的な発言が求められる 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢(15%) 提出物（小テストを含む）(85%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家族関係学	卒業必修	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	はじめに	自分の家族を振り返る	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
2	家族の起源、家族の文化	家族の起源・文化による家族の意味の相違を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
3	家族の歴史	日本における家族の歴史をたどる	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
4	「近代家族」の歴史	現代人の持つ家族イメージが歴史的に作られたものであることを知る	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
5	「近代家族」の終焉	「近代家族」の理想が崩壊した社会的背景を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
6	現代家族の多様化	現代において家族が多様化している実態を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
7	結婚と家族	結婚の意味の変化から家族を考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
8	夫婦間のコミュニケーション	夫婦間のコミュニケーションを考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
9	離婚と再婚	離婚・再婚と家族について学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
10	家計と夫婦	家計と夫婦の関係を考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	

11	育児期の家族	育児期の家族の実態を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
12	父親の役割	家族における父親・父親の育児参加について考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
13	親子の関係	成長後の子どもと親との関係について学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
14	まとめ（家族の問題を越えて）	全体の振り返り（DV・児童虐待・機能不全家族等、現代家族の問題を 考えることを含む）	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護概論	生テ：卒必 食栄：選択	共通	2年 前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目（社主事）		教科書購入者				15, 17	
実務経験のある教員による科目							
居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、介護に対する基本的な知識及び介護支援全般について学ぶ。							
授業の概要							
高齢化の急速な伸びと同時に、寝たきりや認知症といった要介護者の増加が顕著となっている現代社会においては、介護を社会的に支援する必要がある。高齢者の身体的特性及び心理を学び、介護の役割と範囲を理解し、看護・医療及び家政との関係を具体的な展開過程を活用して考える。							
到達（成績評価A）目標							
介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができる。 1. 講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 日常生活において支援が必要な高齢者に対して積極的な援助活動ができるよう介護に対して理解を深め、行動できるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができる。 1. 講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて認識できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 日常生活において支援が必要な高齢者に対して援助活動ができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
教科書							
菊池信子編著：『福祉実践をサポートする介護概論 第2版』 保育出版社（最新版）¥2,619							
参考書・資料							
適宜資料を配布							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 高齢者介護に関する新聞記事やニュースに常に興味をもち、介護に対する意識を高め、資料収集する。 2. 授業中は携帯電話の使用及び私語は禁止する。							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(50%) 受講態度(30%) 授業内レポート(20%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護概論	生デ：卒必 食栄：選択	共通	2年 前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目（社主事）		教科書購入者				15, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	介護の概念（1）	介護の理念と定義	
	事前学習 15分	シラバス及び教科書の該当ページを読み、授業内容を把握する。	
	事後学習 30分	介護の理念と定義について確認する。	
2	介護の概念（2）	介護の対象	
	事前学習 30分	介護の対象について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	介護の対象者について復習する。	
3	高齢者の全体像（1）	高齢者の身体的特性	
	事前学習 30分	加齢に伴う身体的変化について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の身体的特性について復習する。	
4	高齢者の全体像（2）	高齢者の心理的特性	
	事前学習 30分	高齢者の心理的特性について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の心理的特性について復習する。	
5	高齢者の生活実態の把握（1）	生活（衣食住）の実態	
	事前学習 30分	高齢者の生活実態について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
6	高齢者の生活実態の把握（2）	介護の社会化	
	事前学習 30分	介護の社会化について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	高齢化の推移と介護の社会化についてまとめる。	
7	高齢者の生活実態の把握（3）	介護保険制度	
	事前学習 30分	介護保険の申請方法及びサービス内容について調べる。	
	事後学習 30分	介護保険制度の概要をまとめる。	
8	高齢者の生活実態の把握（4）	介護の実態と課題	
	事前学習 30分	介護の実態と課題について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	介護の実態を確認し、課題解決に向けての取り組みについて理解する。	
9	高齢者の生活実態の把握（5）	寝たきり高齢者の実態	
	事前学習 30分	寝たきりに高齢者の課題について考える。	
	事後学習 30分	寝たきり高齢者の生活実態を理解し、意向に沿った介護について考える。	
10	高齢者の生活実態の把握（6）	認知症高齢者の実態	
	事前学習 30分	認知症高齢者の課題について考える。	
	事後学習 30分	認知症高齢者の生活実態について理解し、意向に沿った介護について考える。	

11	介護を支える技術	生活行為を成立させるための技術・家事機能を維持拡大する生活技術	
	事前学習 30分	介護を支える技術について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
12	介護の過程 在宅における介護	ケアマネジメントの必要性 在宅援助の基本 福祉住環境整備の重要性	
	事前学習 30分	介護の過程・在宅における介護について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	利用者や家族の意向を重視したケアマネジメントとは何かを考える。	
13	施設における介護	施設介護の役割、機能	
	事前学習 30分	高齢者施設の種類を調べる。	
	事後学習 60分	高齢者施設における介護の役割と機能とは何かを考える。	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 180分	前学期全体の学習内容を振り返り、介護の全体像をわかるようにする。	
	事後学習 60分	試験でできなかったところを見直し、学習を定着させ、介護について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
消費生活と環境	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>私たちが日々行なっている「消費」について多面的に検討し、賢く責任感ある消費者になるための必須事項を習得する。まず、現代の消費社会における消費者と事業者の情報力および交渉力格差によって生ずる消費者問題を理解し、対策について学ぶ。次に、環境保全の視点から現実の問題を分析するとともに、責任感ある消費者としての力の涵養をめざす。全体として、消費者としての自らの身を守るよう学習を進めるうちに、より広い社会の変化を理解するとともに、加害者としての消費者にはならないための能力の涵養に努める。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する背景や実態を修得する。【DP1：知識・技術】 ・現代社会における消費者として行動するために必要な基礎的知識を修得し、自分の考えが述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 ・環境問題について、持続可能な社会の構築をめざすための知識を修得し、自分の考えが述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する背景や実態を理解できる。【DP1：知識・技術】 ・現代社会における消費者として必要な基礎的知識を修得し、説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・環境問題について、持続可能な社会の構築をめざすための基礎知識を修得し、自分なりの考えが述べられるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
なし（プリントを配布する）							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパー（質問、感想等）については授業においてコメントする							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言が期待される。 ・遅刻厳禁。 ・私語は禁止。 ・予習すべき内容を授業ごとに指示する。 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢(20%) 提出物（小テストを含む）(80%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
消費生活と環境	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	授業の進め方	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
2	消費者問題の基礎知識(1)	消費者問題とは何か、消費者被害の歴史と現状	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
3	消費者問題の基礎知識(2)	消費者行政の歴史、企業による消費者問題対応	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
4	商品・サービスの取引(1)	契約、特定商取引、悪質商法(1)	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
5	商品・サービスの取引(2)	悪質商法(2)、クーリングオフ	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
6	商品・サービスの安全性	食品・医薬品・医療機器・化粧品、電気・ガス用品、家庭用品、住まい等	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	商品・サービスの表示	表示、広告、様々なマーク	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
8	消費者信用	月賦販売、クレジットカード、多重債務	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
9	消費者の責任	消費者運動、フェアトレード	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
10	環境問題と消費者(1)	SDGs、地産地消、食品ロスと消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

11	環境問題と消費者(2)	地球温暖化、脱炭素社会と消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
12	環境問題と消費者(3)	電力需要と消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
13	環境問題と消費者(4)	ごみ処理、プラスチックと消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
14	環境問題と消費者(5)およびまとめ	全体の振り返り(種の多様性と消費者を含む)	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活デザイン概論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活に関する専門的な知識・技能を仕事や家庭での実践に活かせるようになるという目標に到達するために、この科目では、生活デザインの本質と意義を学び、創造と提案の技能を身につける。はじめに、生活とデザイン定義、デザインの考え方などデザインの本質について学ぶ。次に、デザインの誕生、現代に至るまでの変遷、流行の誕生など、歴史を学び、これからのデザインに活かせる知識を身につける。最後に、実際に物や事柄を創造するための造形理論とアイデア創出方法について学び、デザインのプロセスを辿る演習を行うことによって実践で活用できる力を養う。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本質を理解し、生活デザインの意義について、事例を示して具体的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・デザインの歴史の流れを理解し、現代のデザインと関連付けて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・造形理論の知識を理解し、独自性のある形態の創造ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 ・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活だけでなく家庭や地域も含めた広い視野を持って課題解決ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本質を理解し、生活デザインの意義について、具体的な事例と関連付けることができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・デザインの歴史の流れを理解し、現代のデザインと関連付けることができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・造形理論の知識を理解し、形態の創造ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 ・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活における課題解決ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
教科書							
伊藤紀之 編著 玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』 三共出版（2012）¥2,916							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験(40%) 授業内課題(40%) 受講態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活デザイン概論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	生活デザインとは	生活とデザインの関係、デザインとは何か	
	事前学習 20分	シラバスと教科書p. 2～3を読む。意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	様々なメディアにおける「デザイン」の語の用例を探す。	
2	デザインの本質1	感性とデザイン	
	事前学習 20分	「デザイン」の意味について復習しておく。	
	事後学習 20分	身の回りのデザインに目を向け、デザインの意図を考える。	
3	デザインの本質2	デザインのハードとソフト	
	事前学習 30分	教科書p. 5～6を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	身の回りのデザインに目を向け、ハードデザインとソフトデザインについて考える。	
4	デザインの本質3	デザインの領域と生活デザイン	
	事前学習 30分	教科書p. 7～8を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	
5	デザインの本質4	デザインと流行	
	事前学習 30分	前回までの授業内容を復習し理解しておく。	
	事後学習 30分	現在の流行現象に関心を持ち、情報を収集する。	
6	デザインの歴史1	産業革命とデザイン改革	
	事前学習 30分	教科書p. 9～14を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
7	デザインの歴史2	近世のデザイン様式	
	事前学習 30分	教科書p. 15～17を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
8	デザインの歴史3	近代デザインの成立	
	事前学習 30分	教科書p. 18～23を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
9	デザインの歴史4	日本の近代デザイン	
	事前学習 30分	教科書p. 24～25を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
10	造形の基礎理論1	点・線・面・立体	
	事前学習 30分	教科書p. 70～85を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	

11	造形の基礎理論2	錯視、バランス、シンメトリー、黄金比など	
	事前学習 30分	教科書p. 70～85を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
12	造形の基礎理論3	デザインと色彩	
	事前学習 30分	教科書p. 86～99を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	身の周りの色彩に目を向け、学習内容をあてはめながら振り返る。	
13	デザインのプロセス	アイデア創出方法論、デザインの現場とデザイナー	
	事前学習 30分	教科書p. 54～68を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 30分	全体の学習内容を振り返り、生活デザインについて説明できるようにする。	
	事後学習 30分	この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要							
調理は栄養性が豊かな食事計画を立案し、旬の食材を考えて選択し、衛生的な調理操作・調味操作を行って料理を作り、それを効果的に提供するすべての作業である。本科目では、食事計画、おいしさの要因、食品の調理性、調理および調味操作および調理器具・食器等についての基礎的な理論を学ぶことで、今後の食生活および食に関わる職場でそれぞれを利用できるようになる。また、食文化を背景とした各国の食事様式や環境への配慮を理解することで、効果的な食事計画を立て、豊かな食生活を送ることができる。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 調理の意義及び環境への配慮方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】 各種食品の調理性を理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】 非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理論的に説明でき、各種調理に活用できる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法を体系的に説明できる。【DP1：知識・技能】 食事計画に関わることについて説明することができ、日常食の食事計画を作ることでもできる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 各国の食文化や行事食などを説明することができる。【DP1：知識・技能】 厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、理論的に説明することができる。【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 調理の意義及び環境への配慮方法を理解できる。【DP1：知識・技能】 各種食品の調理性を理解できる。【DP1：知識・技能】 非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理解でき、いくつかの調理に活用できる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法を理解できる。【DP1：知識・技能】 食事計画に関わることについて説明することができる。【DP1：知識・技能】 各国の食文化や行事食などをいくつか説明することができる。【DP1：知識・技能】 厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、理解することができる。【DP1：知識・技能】 							
教科書							
<ul style="list-style-type: none"> 長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』 八千代出版（2021）¥2,592 日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本 2021 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店（2021）¥3,300（購入済） 							
参考書・資料							
<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてプリントを配布する。 日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法』 職業訓練教材研究会（2018）¥3,650（履修者購入済） 							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
・小テスト等の解答および説明は、その都度行い知識を深める。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 授業進行上、講義項目の順番を変更する場合がある。 授業中指示がない限り、私語やスマートフォンの操作を禁じる。 授業中に講義内容が把握できたかどうか、毎回小テストで確認を行う。 中間および学修成果確認のための試験の準備では、再度小テストの問題を解くようにする。 							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験（40%）、中間テスト（40%）、授業および小テストへの参加態度（20%）の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	調理の意義、調理と環境	調理学の意義・目的、エコロジッククッキング	
	事前学習 15分	教科書p. 1～5、p. 179～190を読む。調理の意義・目的について予習する。	
	事後学習 120分	環境に配慮する調理には何が必要かを考える。次回小テストの準備	
2	調理と嗜好性、調味操作	おいしさの要因、機器測定と官能評価、調味操作	
	事前学習 60分	教科書P. 112～126を読む。おいしさの要因を予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	嗜好と評価法および調味操作について復習する。次回小テストの準備	
3	植物性食品の調理性（1）	米、米粉、いも類	
	事前学習 60分	教科書p. 14～29を読む。うるち米の炊飯過程を予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	いも類・米・米粉の調理性について復習する。次回小テストの準備	
4	植物性食品の調理性（2）	小麦粉、その他の穀類・雑穀	
	事前学習 60分	教科書p. 30～47を読む。小麦粉の種類と調理法の予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	小麦粉、他の穀類・雑穀の調理性について復習する。次回小テストの準備	
5	植物性食品の調理性（3）	豆・豆製品、野菜、果実	
	事前学習 60分	教科書p. 47～53を読む。野菜・果物の調理性について予習する。小テスト準備	
	事後学習 120分	豆・豆製品の調理性について復習する。次回小テストの準備	
6	植物性食品の調理性（4）	種実類、きのこ、藻類、山菜	
	事前学習 60分	教科書p. 53～58を読む。藻類の種類について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	種実類、きのこ・山菜の調理性を復習する。次回小テストの準備	
7	調理操作と器具、調理の機器・設備	非加熱操作・加熱操作、厨房機器・設備、新調理システム	
	事前学習 60分	教科書p. 127～149を読む。加熱操作の方法・使用機器をまとめる。	
	事後学習 120分	中間テスト範囲について復習する。	
8	中間テスト、動物性食品の調理性（1）	中間テスト、肉類	
	事前学習 60分	教科書p. 59～71を読む。牛肉、豚肉、鶏肉の特徴を予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	肉類の調理性について復習する。次回小テストの準備	
9	動物性食品の調理性（2）	魚介類	
	事前学習 60分	教科書p. 71～79を読む。魚臭の除き方についてまとめる。小テストの準備	
	事後学習 120分	魚介類の調理性について復習する。次回小テストの準備	
10	動物性食品の調理性（3）	卵類、乳・乳製品	
	事前学習 60分	教科書p. 80～88を読む。鶏卵の調理性について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	乳・乳製品の調理性について復習する。次回小テストの準備	

11	成分抽出素材の調理性	デンプン・ゼリー形成素材(寒天・カラギーナン他)、砂糖、油脂、嗜好飲料、うま味調味料など	
	事前学習 60分	教科書p. 89～110を読む。デンプンの調理性について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	各種ゲル化剤の特性、油脂の調理性について復習する。次回小テストの準備	
12	食事計画	献立作成の条件・手順と方法、食事バランスガイド	
	事前学習 60分	教科書p. 152～166を読む。献立作成の手順について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	献立作成上での注意点および食事バランスガイドについて復習する。次回小テストの準備	
13	食文化と食生活	日本と外国の食文化、行事食	
	事前学習 60分	教科書p. 167～178を読む。行事食の種類について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	日本の食事と歴史、外国の食事と歴史について復習する。学修成果確認のための試験の準備	
14	まとめ / 全体の振り返り、学修成果確認のための試験	全体の振り返り、学修成果確認のための試験	
	事前学習 160分	学修成果確認のための試験の準備	
	事後学習 20分	学修成果確認のための試験内容の見直しと確認を行う。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
社会福祉概論（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	なかのみやこ 中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目（社主事）		教科書購入者				15	
実務経験のある教員による科目							
居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、社会福祉の理念、制度、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働の必要性について学ぶ。							
授業の概要							
生活するとはどういうことなのか、生活する上で社会福祉はどのように関与しているかについて基本的な考え方・理念を学ぶとともに、具体的な援助活動の特性を理解する。社会福祉サービスの多様化・専門化が進んでいる現代社会では、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働が必要であることを理解し、社会福祉に携わる専門職種について認識する。							
到達（成績評価A）目標							
社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識する。							
1. 一社会人としてわが国の社会保障制度について基礎的な知識を身につける。【DP1：知識・技能】							
2. 社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて説明できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】							
3. 社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について説明できるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識する。							
1. 一社会人としてわが国の社会保障制度について基礎的な知識を身につける。【DP1：知識・技能】							
2. 社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、考えることができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】							
3. 社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携の重要性について、考えることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
教科書							
松本峰雄、小野澤昇編著：『改訂 はじめて学ぶ社会福祉』 建帛社（2020）¥2,200							
参考書・資料							
厚生労働省：『厚生労働白書』（最新版）							
社会福祉法規研究会：『社会福祉六法』 新日本法規出版（令和4年版）¥7,040							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 講義を受けるだけでなく新聞、テレビなど社会福祉に関係する記事やニュースに常に関心をもつこと。							
2. 授業中のスマートフォンの使用及び私語は禁止する。							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のため試験（60%）				S（100-90点）：到達目標を超えたレベルを達成している			
受講態度（30%）				A（89-80点）：到達目標を達成している			
授業内レポート（10%）				B（79-70点）：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している			
の総合評価				C（69-60点）：単位修得目標を達成している			
				D（59-0点）：単位修得目標を達成できていない			
				Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
社会福祉概論（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目（社主事）		教科書購入者				15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	社会福祉とは（1）	社会福祉の理念	/
	事前学習 20分	シラバス及び社会福祉の理念について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉の理念について復習する。	
2	社会福祉とは（2）	社会福祉の歴史	/
	事前学習 30分	社会福祉の歴史について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉の歴史について復習し、現在に至るまでの過程を確認する。	
3	社会福祉制度（1）	子どもの福祉	/
	事前学習 30分	子どもの福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	自分の誕生から現在までに経験した社会福祉サービスおよび社会保障制度について確認する。	
4	社会福祉制度（2）	障がい者の福祉	/
	事前学習 30分	障がい者の福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	障がい者の福祉に関する法規について確認する。	
5	社会福祉制度（3）	高齢者の福祉	/
	事前学習 30分	高齢者の福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	高齢者福祉に関する課題を整理する。	
6	社会福祉制度（4）	貧困と福祉、生活保護制度	/
	事前学習 30分	貧困と福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	生活保護制度がセーフティネットであることを確認する。	
7	社会保障とは（1）	社会保障の概念	/
	事前学習 30分	社会保障の概念について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会保障と自分との関係性について確認する。	
8	社会保障とは（2）	わが国の社会保険制度	/
	事前学習 30分	わが国の社会保険制度について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会保険制度について復習し、次週の出前講座の質問事項を考える。	
9	社会保障とは（3）	江戸川年金事務所出前講座	/
	事前学習 30分	年金保険制度について見直しておく。	
	事後学習 60分	出前講座で学んだことをまとめる。	
10	地域福祉の推進	地域福祉の推進主体と諸活動	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	自分の居住地の地域福祉の課題を考える。	

11	社会福祉の課題と動向（1）	日本の動向	
	事前学習 30分	社会福祉の課題と動向（日本）について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	日本が抱える社会福祉の課題と動向を考える。	
12	社会福祉の課題と動向（2）	世界の動向	
	事前学習 30分	社会福祉の課題と動向（世界）について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	世界が抱える社会福祉の課題と動向を考える。	
13	保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク	社会福祉の施設と専門職	
	事前学習 30分	社会福祉の施設と専門職について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉に関わる職種について確認する。	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 180分	前学期全体の学習内容を振り返り、社会福祉の全体像を把握する。	
	事後学習 60分	試験でできなかったところを見直し、学習を定着させ、社会福祉について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アパレル素材・管理学	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				5, 14, 15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
アパレル製品を取り扱う際に必要となる、繊維素材と衣類の取り扱いについて学ぶ。繊維から糸、布、製品となるプロセスをたどりながら、各々の分類、構造と特性、加工法、デザインとの関連、文化的背景などを学んでいく。また、繊維物以外のアパレル素材の重要性と取り扱いについても知る。次に、洗浄、乾燥・仕上げ、保管などの被服管理について学び、アパレル製品を清潔で整った状態で保持するための知識と技能を身に付ける。衣類の廃棄・再利用と環境問題について学び、現代衣生活の在り方について関心を深める。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル製品の素材特性について、科学的視点で具体的なアパレル製品と関連付けて説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・衣類管理のしくみと洗剤・仕上げ剤等・保管剤の成分や作用についての理論を理解し、実生活における被服管理行動の際に科学的な視点から適切な選択ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・繊維素材や被服管理に関する実験の目的と方法を理解し、実験班員の多様性を考慮しつつ主体的に結果と考察を導き出し、論理的なレポートの作成ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル製品の素材特性について、科学的視点で具体的なアパレル製品と関連付けることができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・衣類管理のしくみと洗剤・仕上げ剤等・保管剤の成分や作用についての基礎的理論を理解し、実生活における被服管理行動の際に参照することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・繊維素材や被服管理に関する実験の目的と方法を理解し、実験班員と協働して結果と考察を導き出し、レポートの作成ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
プリントを配布する							
参考書・資料							
文化服装学院編『文化ファッション体系 服飾関連専門講座①アパレル素材論』文化出版局（2010）¥1,836 林雅子監修『被服管理学および実験』文化出版局（2004）¥3,146 樽子富美 他著『生活科学テキストシリーズ 被服管理学』朝倉書店（2012）¥2,700							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
実験レポートと課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験(40%) 課題・レポート(40%) 受講態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アパレル素材・管理学	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				5, 14, 15, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	アパレル素材と種類	アパレル産業と素材、繊維分類と性質、繊維の観察実験	
	事前学習 10分	シラバスを読む。	
	事後学習 30分	手持ちの衣類の素材と形態を観察し、今回の内容について理解を深める。	
2	織物の種類と性質	布とは、織物とは、織物の組織	
	事前学習 20分	手持ちの衣類のタグを見て、素材を観察してくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
3	織物の種類と模様	ファッション雑誌等を用いて模様の実例を調査する	
	事前学習 20分	手持ちの衣服の布の表面や模様を観察してくる。	
	事後学習 30分	手持ちの衣服の布の表面や模様を観察してくる。	
4	非繊維素材	レース、リボン、皮革、毛皮、アパレル副資材	
	事前学習 20分	所持している衣類の材料のうち、布以外のパーツを観察してくる。	
	事後学習 30分	販売されているアパレル製品の非繊維素材にも目を向け、理解を深める。	
5	衣類の汚れと被服衛生	被服管理とは、洗濯の仕くみ、汚れの種類と性質、衣服内環境	
	事前学習 20分	衣服の汚れの要因は何か、予想を立ててみる。	
	事後学習 30分	衣類に付着する汚れや衣服内環境に関心を寄せて衣生活を送り、理解を深める。	
6	被服管理とは	家庭用品品質表示法、組成表示と取扱い絵表示	
	事前学習 30分	手持ちの衣類のタグを見て写真を撮ってくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
7	洗濯水について	軟水・硬水、金属石けん実験	
	事前学習 20分	自宅にある漂白剤の成分を調べてくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
8	洗剤について	洗剤の種類、洗剤の成分、界面活性剤の働き、浸透・乳化実験	
	事前学習 20分	自宅にある洗濯洗剤の成分を調べてくる。	
	事後学習 60分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
9	漂白剤と蛍光増白剤	漂白剤の種類、蛍光増白剤とは、白化比較実験	
	事前学習 20分	自宅にある漂白剤の成分を調べてくる。	
	事後学習 60分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
10	洗濯後の仕上げ	柔軟剤と糊の働き、繊維素材とアイロンの温度設定	
	事前学習 20分	自宅にある柔軟剤の成分を調べてくる。	
	事後学習 60分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	

11	家庭洗濯と商業洗濯、洗濯機	適切な家庭洗濯の条件、洗濯機の種類、商業洗濯	
	事前学習 20分	クリーニング店に依頼する衣服の特徴をまとめてくる。	
	事後学習 60分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
12	衣類の保管	アパレル製品の素材と季節による保管について	
	事前学習 20分	手持ちの衣類のタグを見て、保管方法を調べてくる。	
	事後学習 60分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
13	アパレル製品と環境	繊維リサイクル、循環型被服管理	
	事前学習 20分	衣服にまつわる社会問題について調べてくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果の確認のための試験	
	事前学習 20分	1～13回の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験を行う。	
	事後学習 30分	試験で間違えたところを見直し、正しい知識を身につける。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
グラフィックソフト実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	やまなか まさし 山中 将司	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
アウトドアメーカーにて、商品開発、デザイン、パッケージデザインなどを担当。2020年イタリアA' Design Award Silver受賞。							
授業の概要							
グラフィックソフトなどを用いて、自分に意思を表現し受け手に伝えることは学校生活や会社など生涯において様々な場所で求められます。本授業では、講師の商品企画デザイナーとしての実務経験から、グラフィック表現技法をアクティブラーニング形式で実践的に学びます。この講義では以下の3つの能力の習得を目指します。 ①実行力：目標を達成するため、手を動かし主体的に行動する。 ②視覚表現力・伝達力：相手に伝わりやすいようグラフィックデザインの観点からデザインし発信する。 ③企画力：情報をもとに自分なりの仮説を立て、相手の心を動かすようなアイデアを考える。							
到達（成績評価A）目標							
以下、1～3を到達目標とする。 1. 適切なデザインとは何かを十分に理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを適切なデザインを製作でき、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性・多様性、協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
以下、1～3を到達目標とする。 1. デザインの基本を理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを用いてデザインを製作でき、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性・多様性、協働性】							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
技術評論社「伝わるデザインの基本」著者：高橋佑磨・片山なつ 価格：¥2,178							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業内で講評する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
※進行状況に応じて授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。							
成績評価方法				成績評価基準			
授業態度(20%) 制作物(30%) プレゼンテーション(50%)で評価します。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
グラフィックソフト実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	やまなか まさし 山中 将司	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	デザインとは何か	そもそもデザインとは何か、役割や目的を学ぶ。	
	事前学習 10分	あらかじめシラバスをよく読んでおく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
2	情報の発信の基礎	パワーポイント等を使い簡単な自己紹介の資料を発表する。	
	事前学習 60分	各自、自分のパーソナリティが伝わるように自己紹介資料を作っておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
3	プレゼンテーションの基礎	伝わりやすいプレゼンテーションの心得を学ぶ。	
	事前学習 20分	次回の発表に向けて反省点を覚えておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
4	デジタルソフトの基礎	デザイン編集ソフトを使い名刺をデザインする。	
	事前学習 20分	指定されたデジタルソフトをYoutubeなどで検索して調べておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
5	デジタルソフトの基礎2	デザイン編集ソフトを使い写真を加工する。	
	事前学習 20分	指定されたデジタルソフトをYoutubeなどで検索して調べておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
6	トンマナとフォントの選び方	デザインの雰囲気を決める要素であるトンマナとフォントについて学ぶ。	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
7	ロゴデザイン	デザイン編集ソフトを使いオリジナルロゴデザインを製作する。	
	事前学習 20分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 20分	ロゴをデザインしておく。	
8	ロゴデザイン2	デザインしたロゴが入ったオリジナルTシャツのデザインを発表する。	
	事前学習 60分	ロゴをデザインしておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
9	写真のテクニック	写真撮影におけるテクニックを学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
10	グラフィックにおける色の使い方	2D表現における色の使い方について学ぶ。	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	

11	パンフレットのデザイン	学校のオープンキャンパスのパンフレットターゲットとコンセプトを決める。	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
12	パンフレットのデザイン2	学校のオープンキャンパスのパンフレットをデザインする。	
	事前学習 60分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 20分	デザインを製作する。	
13	中間発表	デザインしたパンフレットをメンバーに発表し、フィードバックを生かしてブラッシュアップさせる。	
	事前学習 60分	プレゼン資料を作っておく。	
	事後学習 20分	フィードバックを元にデザインを改善させる。	
14	最終プレゼンテーション	デザインしたパンフレットを職員へプレゼンテーションする。	
	事前学習 60分	プレゼン資料を作っておく。	
	事後学習 20分	自分のプレゼンを分析しておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
マーケティング概論	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	やまなか まさし 山中 将司	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
アウトドアメーカーにて、商品開発、デザイン、パッケージデザインなどを担当。2020年イタリアA' Design Award Silver受賞。							
授業の概要							
マーケティングと聞くと何か会社の偉い人が決めていて自分には縁遠いことと思いがちですが、マーケティングは私たちの生活のありとあらゆる場面に現れています。例えば皆さんがメルカリで出品する際「どうしたら高く売れるか」を考えることですら立派なマーケティング活動ですし、企業面接の際「どのように自分をPRするか」といったこともマーケティングです。この授業はそうしたマーケティング、ブランディングといったことを包括的に講義しつつ、実際に戦略をたてマーケティングの視線を身につけることができます。							
到達（成績評価A）目標							
以下、1～4を到達目標とする。 1. 包括的なマーケティングプロセスを理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. 実践的なマーケティング戦略を立てプレゼンテーションができる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 3. 商品を見た際、どのようなマーケティング戦略が取られているか説明ができる。【DP1：知識・技能】 4. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性・多様性、協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
以下、1～3を到達目標とする。 1. マーケティングとは何か説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. 基礎的なマーケティング戦略を立てプレゼンテーションができる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性・多様性、協働性】							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
イーストプレス『世界一わかりやすいマーケティングの本』著者：山下貴史 価格：1,386円（税込）							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業内で講評する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
※授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。							
成績評価方法				成績評価基準			
授業態度（40%） プレゼンテーション（30%） 最終レポート（30%） の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
マーケティング概論	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	やまなか まさし 山中 将司	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	マーケティングとは？	授業ガイダンス、マーケティングの基本	
	事前学習 20分	マーケティングとは何かあらかじめ調べておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
2	ニーズとウォンツ	消費者心理について学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
3	4Pと4C	マーケティングの基本である4Pと4Cについて学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
4	ターゲットとペルソナ	消費者のセグメントとペルソナについて学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
5	エモーショナルプログラム (EP)	感性マーケティングツールを用いたグループワーク	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
6	エモーショナルプログラム (EP) 2	調べてきたEPマップの発表	
	事前学習 60分	EPマップを作っておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
7	ブランド理論	マーケティングの要であるブランディングについて学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
8	SWOT分析の基本	商品の強みと弱みがわかるSWOT分析について学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
9	SWOT分析の基本2	各自作ったSWOT分析をプレゼンテーションする	
	事前学習 60分	SWOT分析を作っておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
10	販売のためのマーケティング	心理学を用いた接客方法について学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	

11	マーケティング戦略	今までの学習を生かしマーケティング戦略の立て方を学ぶ	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
12	マーケティング実践	実際の商品のマーケティング戦略を立てる	
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
13	マーケティング実践2	各自のマーケティング戦略をプレゼンテーションする	
	事前学習 20分	プレゼン資料を作っておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
14	まとめレポート	今までの学習をまとめて振り返り、レポートを提出する。	
	事前学習 20分	今までの講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	自分なりにマーケティングを理解する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食品衛生学(生デ)	選択	生デ	2年前学期	講義	2	みつほし 三星 さおり 沙織	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC、RS)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活に関する専門的知識・技能を仕事や家庭生活での実践に活かせるようになるために、本科目では、食品の安全性の現状と食品衛生の正しい知識、個人衛生と公衆衛生、環境衛生、日常の食生活および飲食業界における飲食の衛生管理と疾病の予防方法について学ぶ。さらに、食品衛生に関する一般的な知識として、食中毒、寄生虫 ねずみ、ゴキブリ、はえ、化学物質等による食品汚染や腐敗、変敗、輸入食品、遺伝子組み換え食品、食品添加物やアレルギー食品及び調理器具の取扱、洗浄について学ぶ。一般生活からフードコーディネート、レストランサービスに活かすことができる。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か具体例を挙げて説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・食品に関する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を具体的に説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が説明でき、いくつかを実践できるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 ・フードコーディネートやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か概説できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を概説できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が概説でき、一つ以上実践できるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 ・フードコーディネートやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が概説できるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
小塚論編著:『イラスト 食品の安全性 <第4版>』東京教学社(2021)¥2,750 適宜補足プリントを配布する							
参考書・資料							
参考書 日本フードコーディネーター協会編:『新・フードコーディネーター教本2021 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店(2021)、日本ホテル・レストランサービス技能協会監修:『西洋料理飲料接客サービス技法』職業訓練教材研究会(2019)							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題や小テストは解説し、返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁じる。 ・授業の進捗状況によってはスケジュールを変更することがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(50%)、小テスト(20%)、提出物(20%)、受講態度(10%)の総合評価。				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない Z:受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食品衛生学(生デ)	選択	生デ	2年前学期	講義	2	みつばし 三星 さおり 沙織	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC、RS)		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	食品衛生学と目的	我が国の食品衛生の現状、個人衛生と公衆衛生、法規	
	事前学習 5分	シラバスと教科書p. 1～22を読んでくる。	
	事後学習 15分	食品衛生とは何か、確認する。	
2	食品の変質	微生物について、食品の腐敗、油脂の酸化、調理による変化	
	事前学習 10分	教科書p. 25～40を読んでくる。	
	事後学習 15分	食品の変質防止法を意識的に日常生活に取り入れるようにする。	
3	食中毒について1	定・分類・発生状況	
	事前学習 10分	教科書p. 44～50 を読んでくる。	
	事後学習 20分	食中毒の定義と病因物質別の分類を覚える。	
4	食中毒について2	細菌性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 67～86を読んでくる。細菌が原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	細菌性食中毒のタイプと原因菌、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
5	食中毒について3	ウイルス性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 86～97を読んでくる。ウイルスが原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	ウイルス性食中毒のタイプと原因ウイルス、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
6	食中毒について4	自然毒・化学性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 50～65を読んでくる。自然毒が原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	自然毒、化学毒による食中毒の原因物質、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
7	食中毒5、食品による感染症	寄生虫、消化器系感染症	
	事前学習 30分	教科書 p 63～ p 74を読んでくる。寄生虫、ねずみ、ゴキブリ、はえが原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	寄生虫による食中毒の原因物質、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
8	食品衛生管理	一般衛生管理、HACCAPシステム、厨房の設計・図面・厨房計画、家庭における衛生管理	
	事前学習 15分	教科書p. 122～140を読んでくる。	
	事後学習 15分	家庭における衛生管理について意識して実践してみる。	
9	食品汚染1	カビ毒・農薬・抗生剤・抗菌剤・内分泌かく乱物質・容器・洗剤	
	事前学習 10分	教科書p. 143～155、174～185を読んでくる。	
	事後学習 15分	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。	
10	食品汚染2	ダイオキシン・有害金属・異物混入・害虫・放射線物質	
	事前学習 10分	教科書p. 156～170、p. 227～229を読んでくる。	
	事後学習 15分	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。	

11	食品添加物について	食品添加物の目的	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書 p. 187～196を読んでくる。 添加物のメリットデメリットについて考える。	
12	食品添加物と食品表示	おもな食品添加物、表示の読み方	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書p. 196～214を読んでくる。身の回りの食品に添加されている食品添加物にはどのようなものがあるか5つ探してくる。 事前学習で見つけた添加物の添加目的と表示を確認する。	
13	食品の表示	食品表示制度、健康や栄養に関する表示の制度、アレルギー物質	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書p. 231～250を読んでくる。特定保健用食品や遺伝子組み換え食品の表示がある食品にはどのようなものがあるか探してみる。 提示するプリントを基に、身の回りの食品について、表示を確認する。	
14	まとめ・厨房設備	学修成果の確認のための試験、厨房設備の実際	
	事前学習 270分 事後学習 90分	これまでの学習内容を振り返り、食品衛生・食品の安全性確保に関する内容がわかるようにする。 試験でできなかったところを見直し、学習内容を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食文化論	選択	共通	2年前学期	講義	2	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>本科目では食文化の基本的な考え方を学ぶ。食をコーディネートするには、食に関する文化的要素も欠かすことが出来ない。食は単に生命維持のためだけでなく、食事が文化的、社会的な役割を担うことを理解する。食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を学ぶ。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて総合的に説明することができ、食生活を豊かにすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性、多様性、協働性】 世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性、多様性、協働性】 レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）に間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化の基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性、多様性、協働性】 世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、基本的事項について説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
特になし 授業内でプリントを配布							
参考書・資料							
<ol style="list-style-type: none"> ①日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2020 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2020) (購入済み) ②日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法(2版)』 職業訓練教材研究会 (2019) (購入済み) 							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
・小テストは授業内で返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 単元ごとに小テストを行う（順番にファイルしておくこと） 2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（許可時以外の電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は不可） 3. 私語厳禁 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度・取組み姿勢(10%) 小テスト(20%) 学修成果確認のための試験(70%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食文化論	選択	共通	2年前学期	講義	2	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	食文化とは何か	食文化とは何か	
	事前学習 5分	食文化について学ぶ	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
2	日本食文化の歴史1	古代から室町時代まで	
	事前学習 20分	室町時代がどのような時代だったか理解しておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
3	日本食文化の歴史2	安土桃山時代から現代まで	
	事前学習 20分	安土桃山時代から現代がどのような時代だったか理解しておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
4	西洋料理の食文化	西洋料理の食文化	
	事前学習 20分	西洋料理の食文化について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
5	中国の食文化の歴史	中国の食文化 中国料理の系統	
	事前学習 20分	中国の食文化についてしらべておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
6	日本料理1	行事食	
	事前学習 20分	行事食についてしらべておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
7	日本料理2	本膳料理 袱紗料理	
	事前学習 20分	日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
8	日本料理3	会席料理 会席料理	
	事前学習 20分	日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく、また今までの復習をしておく	
9	日本料理4	精進料理 卓袱料理 普茶料理	
	事前学習 20分	日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
10	中国料理の特徴	中国料理の特徴、各地域の料理の特徴などを学ぶ	
	事前学習 20分	自分の知っている中国料理についてまとめておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	

11	色々な外国の食事	世界各地の食文化を学ぶ 食のタブー	
	事前学習 20分	色々な国の料理を調べる、食のタブーとは何か調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
12	食環境の現状	国際化の中の食事形態の多様性からみる現状、安全性、食育	
	事前学習 20分	食についての現状、ニュースを調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
13	和菓子・洋菓子・パンの歴史	洋菓子・パンの歴史を学ぶ	
	事前学習 20分	自分の知っている和菓子・洋菓子・パンにはどのようなものがあるか挙げてまとめておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
14	まとめ	前学期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験を行う。	
	事前学習 60分	小テストを復習し、全体を復習する。	
	事後学習 20分	全体を振り返り、疑問点を解決しておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
カラーコーディネート 演習	選択	生デ	2年 前学期	演習	2	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活に関する専門的な知識・技能を仕事や家庭での実践に活かせるようになるという目標に到達するために、この科目では、色に関する知識と配色の技能を身に付ける。はじめに、色とは何か、色が見える仕組み、色の分類など色彩学の基本を学び色についての理解を深める。次に、色の三属性、色彩体系、配色理論を学び、仕事や家庭において応用できる実践力を養う。習得した知識により、ファッション色彩能力検定3級または2級、色彩検定、カラーコーディネート検定などの検定試験合格を目指すこともできる。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について説明できる。【DP1: 知識・技能】 配色理論を理解し、日常生活におけるTPOや心理状態に応じた適切な色の組み合わせを考え表現できる。【DP1: 知識・技能】【DP2: 思考力、判断力、表現力】 実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論を応用し独自性のある企画・提案ができる。【DP3: 主体性、多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について理解できる。【DP1: 知識・技能】 配色理論を理解し、適切な色の組み合わせを考え表現できる。【DP1: 知識・技能】【DP2: 思考力、判断力、表現力】 実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論を応用し企画・提案ができる。【DP3: 主体性、多様性、協働性】 							
教科書							
橋本令子、石原久代編著『生活の色彩学—快適な暮らしを求めて—』朝倉書店（2019）¥3,080							
参考書・資料							
(財)日本ファッション教育振興協会『ファッション色彩[I]』（最新版）¥2,263、『ファッション色彩能力検定試験3級問題集』（最新版）¥1,131、玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』三共出版（2012）¥2,916（購入済）、『色彩検定 公式テキスト3級編』（最新版）¥2,970							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
演習の際に、はさみ・糊を使用するので各自準備しておく。							
課題に対するフィードバック							
課題、ワークシート、小テスト等は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 教科書は2回目の授業から使用する。書店で店頭販売していないことが多いので、早めに注文しておくこと。 授業内で小テスト・模擬テストを行う。実施日は事前に知らせるので欠席しないように。 検定試験の日程に合わせ、授業スケジュールを変更することがある。 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験(40%) 演習課題(40%) 受講態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
カラーコーディネート 演習	選択	生デ	2年 前学期	演習	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 15, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	色彩のはたらき	検定試験について、生活における色彩の役割	
	事前学習 20分	シラバスを読む。色に対する関心を高めておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
2	色彩の体系1	色の三属性、色相環、グレースケール、純色・清色・濁色	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	色彩体系を作成しながら、今回の内容について理解を深める。	
3	色彩の体系2	ヒュー&トーン、補色、色立体	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	色彩体系を作成しながら、今回の内容について理解を深める。	
4	色彩理論	色の成り立ち：混色、視覚と色、色彩心理	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
5	配色理論	配色の基礎理論	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
6	配色の技術1	色彩構成の基礎	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
7	配色の技術2	配色演習	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	期日までに演習課題を終えておく。	
8	配色の技術3	パーソナルカラー	
	事前学習 30分	手持ちの衣類の色を調べてくる。	
	事後学習 30分	学習内容をもとに改めて手持ちの衣類の色を観察する。	
9	ファッション産業と色彩	企画・生産・流通の各段階の色彩	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
10	理論のまとめ	学修成果確認のための試験と解説	
	事前学習 30分	これまでの理論をまとめ理解しておく。	
	事後学習 30分	自身の回答と解説を照らし合わせ、復習しておく。	

11	色彩計画演習1	ウェディングシーンのカラーコーディネート(1)実態調査	
	事前学習 30分	現代のウェディングシーンについて情報を収集する。	
	事後学習 30分	終わらなかった作業は次回までに進めておく。	
12	色彩計画演習2	ウェディングシーンのカラーコーディネート(2)アイテムと配色	
	事前学習 30分	現代のウェディングシーンについて情報を収集する。	
	事後学習 30分	終わらなかった作業は次回までに進めておく。	
13	色彩計画演習3	ウェディングシーンのカラーコーディネート(3)ビジュアル提案	
	事前学習 30分	提案内容をまとめておく。	
	事後学習 30分	プレゼンテーションの準備を十分に行う。	
14	色彩計画演習4	プレゼンテーション	
	事前学習 30分	プレゼンテーションの準備を十分に行う。	
	事後学習 30分	この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン実習Ⅰ(ファッション造形実習Ⅰ)	選択	生デ	1年前学期	実習	1	あきやま あつこ・きばやし しょうこ 秋山 敦子・木林 祥子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活をデザインし、提案できるようになるために、この科目では、編み物と刺し子・刺しゅうの基礎的な知識や技術を学び、生活に活かす力を身につける。「編み物」では、棒針編みとかぎ針編みの2種類の技法を学び、作品を製作する。「刺し子」の技法では、物を大切にしたい昔の暮らしを思いながら、伝統模様を取り入れた作品を製作する。「刺しゅう」の技法では、世界の刺しゅう作品を鑑賞し、商品価値を考えながら、作品を製作する。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・編み物と刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を習得し、正しくきれいな作品製作ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作品製作の難しさや楽しさを理解し、自ら問題を解決しながら作業を行い、製作に積極的に取り組むことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・編み物と刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を習得し、作品製作ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作品製作の難しさや楽しさを理解し、製作に積極的に取り組むことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働】 							
教科書							
『編みもの基礎BOOK 初級編』、日本ヴォーグ社、2018年、¥1,100							
参考書・資料							
適宜プリントを配布する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
<材料費> 編み物：約1,500～2,500円位(編み糸) / 刺し子・刺しゅう：約1,000～2,000円位(布、糸)							
課題に対するフィードバック							
作品は評価ののち、各自に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。 ・材料については授業内に指示する。 ・忘れ物をしないこと。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
作品・課題(80%)、受講態度(20%)で総合的に評価する。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン実習Ⅰ(ファッション造形実習Ⅰ)	選択	生デ	1年前学期	実習	1	あきやま あつこ・きばやし しょうこ 秋山 敦子・木林 祥子	オムニバス
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		特になし					6・7

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス・リボン刺しゅう	授業概要の説明、世界の手芸品の鑑賞、リボン刺しゅうの小物製作	木林
	事前学習 10分	刺し子・刺しゅうの図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
2	「刺し子」の技法の習得1	刺し子の基礎（模様刺し）	木林
	事前学習 10分	刺し子について調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
3	「刺し子」の技法の習得2	刺し子の基礎（一目刺し）	木林
	事前学習 10分	一目刺しについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
4	「刺し子」の技法の習得3	刺し子布を用いた作品製作	木林
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 90分	作品を仕上げしておく	
5	「刺しゅう」の技法の習得1	刺しゅうの基礎（線を表すステッチ・面を表すステッチ）	木林
	事前学習 10分	刺しゅうについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
6	「刺しゅう」の技法の習得2	刺しゅうの基礎（区限刺しゅう）	木林
	事前学習 10分	区限刺しゅうについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
7	「刺しゅう」の技法の習得3	刺しゅう布を用いた作品製作	木林
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 90分	作品を仕上げしておく	
8	「棒針編み」の技法の習得1	編み方の練習、記号図の読み方	秋山
	事前学習 10分	テキストP.5～11, P.14, P.16を読んでおく	
	事後学習 60分	編み方の復習をする	
9	「棒針編み」の技法の習得2	編み方の練習、作品製作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく、編み方の復習をする	
10	「棒針編み」の技法の習得3	作品製作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 150分	作品を編み進める	

11	「かぎ針編み」の技法の習得1	編み方の練習、記号図の読み方	秋山
	事前学習 10分	テキストP. 37～41, P. 44, P. 45を読んでおく	
	事後学習 60分	編み方の復習をする	
12	「かぎ針編み」の技法の習得2	編み方の練習、作品製作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく、編み方の復習をする	
13	「かぎ針編み」の技法の習得3	作品製作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
14	「棒針編み」「かぎ針編み」作品の仕上げ	とじ方、糸始末の仕方、アイロンのかけ方	秋山
	事前学習 10分	作品を仕上げられるように準備しておく	
	事後学習 30分	学んだことを実生活で活かせるように、授業全体を振り返る	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン実習Ⅱ (工芸実習Ⅱ)	選択	生デ	2年 前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、伝統工芸や手芸など手作業による物作りの現代社会における意義と重要性や、日本伝統の古布再生の文化を学び、技法の種類と特徴についての知識・技能を身に付ける。この科目では、特に染めと織りの技法を学ぶ。はじめに、必要な道具や用品、材料などの選び方・扱い方を修得する。次に、図案・型紙の制作、準備工程、加工工程と進み、手作業で作品を作ることの難しさと楽しさ、大量生産品との違い、制作時間がかかることなどを体験的に修得する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・手工芸の技法を体系的に分類でき、各技法の特徴について具体的に述べるができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・適切な道具、用具、材料を自ら選んで正しく使うことができ、正しい手順で作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を活かしたデザインができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力、判断力、表現力】 ・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化について理解し、自分の考えを含めて独自性のある作品制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力、判断力、表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・手工芸の技法を列挙でき、各技法の特徴について述べるができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・道具、用具、材料を選び使う際に適切な資料を参照することができ、正しい手順を確認しながら作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を理解してデザインができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力、判断力、表現力】 ・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化と関連付けて作品制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力、判断力、表現力】【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
教科書							
必要に応じてプリント配布							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
材料費（布、部品、ビーズ、など）約500円位～※個々のデザインによって前後する							
課題に対するフィードバック							
作品は評価ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・浸染作業時は実験室で行い、それ以外は被服室で行う。進行の都合により、内容が前後することがある。 ・作業に遅れが生じた場合は、授業外の時間を使って進めておくこと。 ・各自で用意する材料については授業内に指示する。 ・授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 作品（60%） レポート（10%） 受講態度（30%）				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン実習Ⅱ (工芸実習Ⅱ)	選択	生デ	2年 前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	織りと染めの手工芸、制作計画	手芸・工芸とは、手工芸の分類、染織工芸について、作品制作について	/
	事前学習 30分	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	学んだ内容を念頭に置き、身の回りの手工芸に目を向ける	
2	「織り」技法の習得1	手織り作業（裂き織り）	/
	事前学習 30分	裂き織りについて調べておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
3	「織り」技法の習得2	手織り作業（裂き織り）	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
4	「織り」技法の習得3	手織り布を用いた作品制作	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
5	「織り」技法の習得4	手織り布を用いた作品制作	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
6	「織り」技法の習得5	ビーズ織りを使った小物のデザイン	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
7	「織り」技法の習得6	手織り作業（ビーズ織り）、ビーズ織りを用いた作品制作	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
8	「織り」技法の習得7	手織り作業（ビーズ織り）、ビーズ織りを用いた作品制作	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
9	「染め」技法の習得1	型染め、絞り染めのデザイン	/
	事前学習 30分	染めに関する図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
10	「染め」技法の習得2	染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	/
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	

11	「染め」技法の習得3	染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
12	「染め」技法の習得4	染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
13	「染め」技法の習得5	浸染作業	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
14	まとめ、作品提出	レポートまとめ、提出、作品講評	
	事前学習 30分	これまでに作成した作品を提出できるように仕上げておく	
	事後学習 30分	これまでの作品制作を振り返る	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション造形実習 (ファッション造形実習II)	選択	生デ	2年 前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、洋服がどのように、構成、縫製されているかを製作を通して学ぶ。最初に基礎縫い実習を行い、その後、採寸、型紙作り、衣服材料の選定、裁断、しるしつけ、本縫い、仕上げ、着装を行う。手作業で作品を作ることの難しさと楽しさ、大量生産品との違い、制作時間がかかることなどを体験的に修得する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常で着用している衣服の構成、材料について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・自分の体のサイズに合った衣服の縫製技能を身に付ける。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力、判断力、表現力】 ・適切な道具、用具、材料を自ら選んで正しく使うことができ、正しい手順で作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を活かしたデザインができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力、判断力、表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常で着用している衣服の構成、材料について理解できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・自分の体のサイズに合った衣服の縫製が実践できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力、判断力、表現力】 ・道具、用具、材料を選び使う際に適切な資料を参照することができ、正しい手順を確認しながら作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を理解してデザインができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力、判断力、表現力】 							
教科書							
必要に応じてプリント配布							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
布・付属品等の材料（おおむね2,000円位～）※各自で用意する材料については授業内に指示する。							
課題に対するフィードバック							
作品は評価ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間進度チェックを行う。予定進度より遅れている場合は、授業以外の時間に各自で実習し、追いつくこと。 ・遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。 ・授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求められることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 作品 (60%) レポート(10%) 受講態度(30%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション造形実習 (ファッション造形実習II)	選択	生デ	2年 前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	衣服の構成・材料、基礎縫い	衣服の構成(平面構成と立体構成)と製作方法、衣服材料 手縫い・ミシン縫いの基礎技法	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	身近な被服材料を調べてくる	
2	製作計画、パターン作成、裁断	採寸、型紙作成、布の扱い、裁断、印付け	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
3	しるしつけ	しるしつけ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
4	ワンピースの本縫い1	ロックミシンによる縫い代のしまつ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
5	ワンピースの本縫い2	ダーツ、タック	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
6	ワンピースの本縫い3	スカート後ろ中心、上下後ろ身頃をつなぐ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
7	ワンピースの本縫い4	ファスナー付け	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
8	ワンピースの本縫い5	上下前身頃をつなぐ、脇と肩	
	事前学習 30分	配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
9	ワンピースの本縫い6	見返し、見返しの始末	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
10	ワンピースの本縫い7	袖作り、袖付け	
	事前学習 30分	配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	

11	ワンピースの本縫い8	裾縫い	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
12	ワンピースの本縫い9	ホック付け、仕上げ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
13	仕上げ	付属品・装飾	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
14	レポート作成、提出	仕上げ後、レポートの作成、作品提出、講評	
	事前学習 30分	レポート作成の準備をする	
	事後学習 30分	レポートの完成を確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマテラピー概論	選択	生デ	1年前学期	講義	2	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
日常生活において、心身の健康増進にアロマテラピーを役立てるという目標に到達するために、この科目では、アロマテラピーの基礎を学び、セルフケアに活かす知識を身につける。(公社)日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定のテキストを使用して、基礎知識や活用法、注意事項などについて学ぶ。また、基礎で知っておくべき9種の精油の嗅ぎ分けをしながら、各精油について学び、活用できる知識を身につける。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマテラピーの基礎的事項を理解し、日常生活に知識を活かすことで、心身の健康増進に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・9種の精油について、各精油の特徴を理解し、効果的な活用法を提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・セルフケア、販売業や福祉介護関係など、仕事でも役立てられる知識を身につけ、提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・(公社)日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定2級に合格できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマテラピーの基礎的事項を身につけ、日常生活の中で活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・9種の精油について、各精油の基礎的事項について説明することができる。【DP1:知識・技能】 ・セルフケアに役立てる知識を身につけられるようになる。【DP1:知識・技能】 ・(公社)日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定2級に挑戦できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
教科書							
(公社)日本アロマ環境協会:『アロマテラピー検定テキスト』(2020年6月改訂版) 2,640円 2回目の授業迄に準備(改定年度を間違得ないように注意)。							
参考書・資料							
授業中に必要に応じ説明する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
【希望者】アロマテラピー検定 受験料 6,600円(税込)							
課題に対するフィードバック							
時間内に小テストをおこない、振り返りをして不明点を確認する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
アロマテラピー検定対応テキストに沿って授業を進める。毎回、香りの嗅ぎ分けもおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の順番、あるいは内容を変更する場合がある。 ・私語および、携帯電話の使用を禁止する(活用する場合は指示をする)。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験 (80%) 小テスト (10%) 授業態度 (10%)				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない Z:受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマテラピー概論	選択	生デ	1年前学期	講義	2	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	アロマテラピーとは 検定について 精油の試香	
	事前学習 10分	シラバスを読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
2	精油利用法Ⅰ	使用上の注意事項、芳香浴法① 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
3	精油利用法Ⅱ	吸入法、フェイシャルスチーム法、湿布法 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
4	精油利用法Ⅲ	沐浴法、トリートメント法、手作り化粧品 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
5	利用法Ⅳ、基材について	基材の種類 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
6	まとめと復習①	精油利用法について 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
7	基材について	基材の種類 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
8	まとめと復習②	基材について 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
9	精油学Ⅰ	精油の定義・安全性 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
10	まとめと復習③	安全のための注意点 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	

11	精油額Ⅱ	精油の抽出法 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分 事後学習 60分	テキストの指定された範囲を読んでおく。 小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
12	精油学Ⅲ・まとめと復習④	精油の作用・精油の小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定された範囲を読んでおく。小テストの範囲を復習する。 ノートをまとめ、復習する 小テストの間違えを復習する。	
13	まとめと復習⑤	安全のための注意点 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分 事後学習 60分	小テストの範囲を復習する。 小テストの間違えを中心に、復習をする。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
14	総括	全体の振り返りと学修成果確認のための試験 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 300分 事後学習 90分	前学期全体の学習内容を振り返り、知識を確認する。 試験でできなかったところを見直し、学習を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマテラピー演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		検定合格を目指す学生は前学期概論履修を、資格を必要としない場合も概論履修者が望ましい。				3, 6・7, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
はじめに、アロマテラピー概論で身につけた基礎知識を活かし、日用品を作成する。精油を用途に応じて選べるように学び、作成物を実際に使用して、考察をすることで、無理なく知識を身につける。次に、日用品を実際に製品化し、販売するために必要な関連法規や製品開発のポイントなどを学ぶ。班員で製品開発をおこない、資料を作成し、プレゼンテーションをすることで、実践力を身につける。アロマテラピー検定2級の合格を目指すこともできる。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマテラピーの基礎を総合的に理解して使用法、注意点などが説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・用途に応じた精油が選択でき、ニーズに応じてブレンドができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作成物を活用した考察に加え、応用のためのアイデアや提案をレポートに記述できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 ・班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を提案できるようになる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 ・積極的にプレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマテラピーの基本的事項について説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・用途に応じた精油が選択できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作成物を活用して考察し、関連することを調査し、まとめることができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 ・班員とコミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を考案し、プレゼンテーションの準備をし、発表ができるようになる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
概論で使用した書籍（公社）日本アロマ環境協会：『アロマテラピー検定テキスト』（2020年6月改訂版） 2, 640円							
参考書・資料							
授業中に説明する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
演習材料費 900円 【希望者】アロマテラピー検定 受験料 6, 600円（税込）							
課題に対するフィードバック							
レポートを添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業前半は、精油と基材を実際に使用して作成物を作って使用しながら身につけていく。 ・毎回レポートを作成し、無理なく基礎知識を身につけていく。 ・授業後半は、作成したものを参考にして、製品化することを班ごとに協力して行う。 ・授業の順番、内容を変更する場合がある。 ・私語および、携帯電話の使用を禁止する（活用する場合は指示する）。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 レポート (70%) 取り組み姿勢 (30%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマテラピー演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		検定合格を目指す学生は前学期概論履修を、資格を必要としない場合も概論履修者が望ましい。				3, 6・7, 9, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス	前期の復習 芳香浴を体験 9種の精油の復習	
	事前学習 90分	シラバスに目を通す 概論で学んだことを復習をする。	
	事後学習 90分	芳香浴法についてまとめ、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
2	精油活用法	精油を効果的に使用する方法 沐浴法の部分浴 手浴法その他、吸入法、	
	事前学習 60分	芳香浴法以外の利用法の復習をする。	
	事後学習 60分	授業の復習をし、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
3	安全のための注意点 I	精油を効果的に使用する方法を学ぶ ルームスプレーを作成	
	事前学習 60分	使用する人による注意点の復習をする。作成物をどの精油を何の目的で選ぶのが良いかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
4	安全のための注意点 II	入浴と精油の相乗効果を得る バスソルトを作成	
	事前学習 60分	入浴の健康効果について調べ、沐浴後の心身の変化についてまとめる。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習しレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
5	暮らしに活かす I	基材を活かして発泡入浴剤を作成	
	事前学習 60分	その他の基材について復習する。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
6	暮らしに活かす II	肌から精油の作用を活かすボディージェルを作成	
	事前学習 60分	水性の基材について復習する。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
7	基材論 I	ハーブの効果を活かしたハーブソープを作成	
	事前学習 60分	精油の安全性について復習する。作成物をどの精油で何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
8	基材論 II	精油の抽出時に得られる蒸留水で作るスキンローション	
	事前学習 60分	精油の製造法について復習する。作成物をどの香りでの目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
9	基材論 III	植物油と基材で作る保湿クリーム	
	事前学習 60分	植物油について復習する。作成物をどの精油で何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
10	関連法規、販売戦略	製作・販売にあたっての関連法規や販売戦略について 作成物について各自発表後、制作グループ分け	
	事前学習 60分	これまでの復習をし、不明点が無いか確認する。①製品化するものを何にするか ②どのような物にしたいかについて考えまとめる。	
	事後学習 90分	関連法規を踏まえ、製品化するものを再考し、より具体的に何を作りたいかを考え、調べ、レポートをまとめる。	

11	製品開発	製品を販売する時に必要な準備 消費者に選んでもらうには何が必要か	
	事前学習 90分 事後学習 90分	作成したい製品について、授業で学んだことを踏まえ、より具体的に考えて情報収集をし、レポートにまとめ、発表に備える。 授業で学んだこと、グループで話し合ったことをもとに、より具体的に製品について考え、調べてレポートに記載をする。	
12	製品開発	商品発表準備、パワーポイント作成	
	事前学習 90分 事後学習 90分	製品作成に向けて準備、情報収集をする。 製品作成に向けて準備、情報収集をする。	
13	発表練習と改良点確認	発表準備、事前発表と最終確認	
	事前学習 90分 事後学習 90分	関連情報を収集し、発表の準備をする。 事前発表時の意見をふまえ、発表に向けて最終確認をする。	
14	発表・総括・振り返り	レポートのまとめ 発表・考察	
	事前学習 90分 事後学習 60分	関連情報を収集し、発表の準備をする。 発表の振り返りをする。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
工芸実習 (工芸実習Ⅰ)	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	ほんごう よしや 本郷 芳哉	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>手工芸や伝統工芸の種類と技法を知り、自分の手で作品を作ることの楽しさと完成した時の喜びを体験できることを目的とし、授業では特に七宝、金属素材による金工、ガラス工芸など立体的な工芸作品を制作し、実際に使えるかたち（アクセサリー等の装飾品やカテトラリーなど）にしていきます。</p> <p>個々の作品のデザインをるところから始め、必要な道具や用品、材料などの基本的な選び方・扱い方を学びながら制作を行います。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】 工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするための工夫やデザインを実践する。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】 自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解する。【DP1:知識・技能】 道具や用具の構造や仕組みを理解し、自分の作りたいものに合わせて工夫して使うことができる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 材料を選び、自らのデザインで制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】 工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行う。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】 自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解する。【DP1:知識・技能】 道具や用具が使えるようになり、制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
必要に応じてプリント配布							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
材料費として3,000円徴収します。							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。（学内での展示に用いる場合は返却時期が遅くなる場合があります。）							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 制作の行程によっては衣類を汚す可能性があるため、汚れてもいい服装で受講すること。 作業に遅れが生じた場合は、授業外の時間を使って進めておくこと。 各自で用意する材料については授業内に指示する。 忘れ物厳禁。 進行の都合により、内容が前後、変更することがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 作品 (70%) 受講態度 (30%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
工芸実習 (工芸実習Ⅰ)	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	ほんごう よしや 本郷 芳哉	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	工芸について／七宝焼き(1)	手で作ることと作品制作について／技法体験(サンプルの作成)と基礎デザイン	/
	事前学習 5分	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	学んだ内容を念頭に置き、身の回りの手工芸に目を向ける	
2	七宝焼き(2)	基礎デザイン	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
3	七宝焼き(3)	本制作	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
4	七宝焼き(4)	本制作	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
5	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等) (1)	技法説明及び制作	/
	事前学習 20分	ガラス工芸の作品を調べる	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
6	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等) (2)	制作	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
7	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等) (3)	制作	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
8	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等) (4)	制作	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
9	金工(アルミスプーン①)	技法体験(サンプルの作成)と基礎デザイン	/
	事前学習 20分	普段の生活で使っている食器やカトラリーに注目し、観察しておく	
	事後学習 30分	参考資料を読み、デザインのイメージをしておく	
10	金工(アルミスプーン②) (カトラリーやジュエリーなど)	基礎デザインおよび制作	/
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	

11	金工(アルミスプーン③) (カトラリーやジュエリーなど)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
12	金工(シルバークレイ①)	デザイン	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
13	金工(シルバークレイ②)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
14	金工(シルバークレイ③)・まとめ	制作と講評	
	事前学習 30分	発表の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作工程を振り返り、生活の中にある工芸を改めて観察する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
店舗空間デザイン演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	やまむらみほり 山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				11, 12, 14	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>商業施設における店舗空間のデザインに関する基礎事項を習得し、それらを表現し、豊かなコミュニケーション力を活かして伝えることを学ぶ。中世の絵巻物、江戸時代の浮世絵、近世移行の店舗や老舗などから店舗デザインの普遍性を学習する。さらに店舗における動線やゾーニング、陳列、照明などの店舗空間を構成する要素を学び平面図の読み取りをし、POPや購買行動等の販売に関する基礎事項を習得する。最後に、店舗計画の課題に取り組みプレゼンテーションを行う。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し総合的に説明できるようになる【DP1:知識・技能】。必要と考える提案を図面を用いて表現し、論理的にプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力】。課題に対して積極的に取り組み、様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性・多様性・協働】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し説明できるようになる【DP1:知識・技能】。必要と考える提案を表現してプレゼンテーションできるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力】。課題に対して必要な取り組みができるようになる【DP3:主体性・多様性・協働】</p>							
教科書							
教科書は用いず、必要な資料は適宜配布する。							
参考書・資料							
特になし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は評価したのち、返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）。 ・私語厳禁。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(20%) 小課題(30%) 課題のエスキスとプレゼンテーション(50%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
店舗空間デザイン演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	やまむらみほり 山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				11, 12, 14	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的及び方針の説明	
	事前学習 15分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 15分	授業方針の確認をする	
2	店舗の歴史 I	「見せ」から始まった中世の店舗、江戸の町民文化	
	事前学習 20分	江戸以前の絵を見ておく	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
3	店舗の歴史 II	近世以降の店舗の歴史と老舗	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
4	店舗計画 I	立地と商圈、防災・動線・ゾーニング	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
5	店舗計画 II	什器と陳列、色彩、照明	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
6	店舗計画 III	売り場の演出、POP	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
7	業態と店舗計画 カフェ	カフェと喫茶店の特徴、平面計画	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
8	業態と店舗計画 アパレル	アパレルの売り場の特徴、平面計画	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
9	業態と店舗計画 物販	物販の売り場の特徴、平面計画	
	事前学習 20分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
10	プレゼンテーション課題 エスキス I	与えられた課題に対して、店舗デザインを検討する	
	事前学習 20分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	

11	プレゼンテーション課題 エスキスⅡ	与えられた課題に対して、店舗デザインを検討する	
	事前学習 30分	これまでの内容を復習する	
	事後学習 30分	課題の検討を行う	
12	プレゼンテーション課題 ボード作成	プレゼンテーションの準備を行う	
	事前学習 30分	テーマに即した店舗を観察する	
	事後学習 30分	プレゼンテーションの内容、方法を検討する	
13	プレゼンテーション課題 ボード作成	プレゼンテーションの準備を行う	
	事前学習 30分	テーマに即した店舗を観察する	
	事後学習 30分	発表の準備をする	
14	発表会と総括	発表会と振り返り	
	事前学習 30分	発表練習をする	
	事後学習 30分	他の発表者のプレゼンテーション内容を確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				6・7, 9, 15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
調理理論に基づいた調理操作を科学的視野で学び、安全で衛生的に実習を行う。さまざまな調理素材、器具の特徴を理解し、素材の組み合わせや基本的な器具の扱い方を学ぶ。実習を通し「家庭料理技能検定3級」が取得できる知識と技術を身につける。また伝統料理の意義や調理法を理解し、行事食の実習を行う。包丁技術を上達させるために、きゅうりの輪切りを5mm以下に切ること、りんごの皮むきがきれいになるようになる。到達度を評価するため、テーマに応じた献立の立案および実習を行い、その内容をレポートにまとめる。							
到達（成績評価A）目標							
1. 調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の結びつきを、総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】							
2. 様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、適切な調理・調味操作ができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
3. 日本・西洋・中国料理及び行事食の特徴を総合的に説明でき、日常の家庭調理における献立作成ができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
4. 安全で衛生的な調理をするための総合的な知識を習得し、実行できるようになる。【DP1：知識・技能】							
5. 家庭料理技能検定3級が合格できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
6. 班員と配慮しつつとコミュニケーションをとりながら実習することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】							
単位取得（成績評価C）目標							
1. 調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】							
2. 様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、基礎的な調理・調味操作ができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
3. 日本・西洋・中国料理及び行事食の基本的事項を理解し、日常の家庭調理における献立作成ができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
4. 安全で衛生的な調理をするための基本的な知識を習得し、実行できるようになる。【DP1：知識・技能】							
5. 家庭料理技能検定3級を受検できるレベルの調理技術を身につける。【DP1：知識・技能】							
6. 班員とコミュニケーションをとりながら実習することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】							
教科書							
高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』時事通信社（2021）¥							
長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』八千代出版（2021）¥2,592 「調理学」で購入済							
日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022：3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店（2022）（購入済）							
参考書・資料							
参考書：・長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』八千代出版（2021）¥2,592「調理学」で購入済							
日本ホテル・レストランサービス技能協会監修：『西洋料理飲料接客サービス技法』職業訓練教材研究会（2018）¥3,718「レストランサービス論」で購入済み							
香川昭雄監修『家庭料理技能検定公式ガイド3級』女子栄養大学出版部（2017）¥2,640「食生活論」で購入済み							
資料：必要に応じてプリントを配布する							
実習テストの際に、指定範囲以外の食材を各自で準備する。							
課題に対するフィードバック							
提出物は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。 ・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ・欠席が事前にかかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。 ・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。 ・包丁技術を上達できるように、普段から調理するように心がける 							
成績評価方法				成績評価基準			
ノート(50%)、きゅうりテスト・実習テスト・レポート(40%)、受講態度(10%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				6・7, 9, 15, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション、計量・包丁操作、実習	オリエンテーション、計量と包丁の操作について、ハムライス、スクランブルエッグ	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	ハムライス、スクランブルエッグの練習をし、できないところを記録する	
2	日本料理① 炊飯、出汁の取り方(かつお)、煮魚(味噌煮)・酢の物の調理	白飯、清汁、鯖の味噌煮、きゅうりの酢の物	
	事前学習 15分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：出汁をとる	
3	西洋料理① 麺類について、出汁の取り方(鶏がら)、ゼラチンの調理	スパゲティーミートソース、コーンスープ、ヨーグルトゼリー	
	事前学習 20分	麺の種類、ガラスープの取り方について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ゼラチンを使ってゼリーを作る	
4	西洋料理② 魚・野菜の調理、ルウの調理①、出汁の取り方(野菜、肉など)	コンソメジュリエヌ、鮭のムニエル(粉ふき芋、いんげんのソテー)	
	事前学習 20分	コンソメスープ、ムニエル、ベシャメルソース、粉ふき芋について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ムニエルを作る	
5	日本料理② 味付け飯、和え物調理	栗ご飯、いわしのつみれ汁、青菜の胡麻和え	
	事前学習 20分	味付け飯、魚のつみれ、青菜について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：味付け飯を作る	
6	日本料理③ もち米の調理、揚げ物調理、乾物の扱い方、煮物調理	赤飯、天ぷら(天つゆ)、切り干し大根の煮物	
	事前学習 20分	餅米、揚げ物調理、乾物の扱い方について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：乾物を使った調理をする	
7	日本料理④ 寿司飯、卵の調理、蒸し物調理	ちらし寿司(信田巻) かきたま汁	
	事前学習 20分	ずし飯、でんぷん、かきたま汁について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：かきたま汁を作る	
8	セミナー「3・1・2弁当箱法」体験、中国料理(スープ)	「3・1・2弁当箱法」体験セミナー、桂花西紅柿湯(トマト入りかき玉スープ)、	
	事前学習 20分	弁当の詰め方について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：自分の弁当を作る	
9	西洋料理③ 煮込み調理、ルウの調理②	ポークシチュー、サラダ(ヴィネグレットソース)、カスタードプリン	
	事前学習 20分	肉の軟化方法、サラダ、卵の凝固性について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：きゅうりの輪切りの練習をしサラダを造る	
10	西洋料理④ ひき肉の調理、米・麦の調理	ハンバーグステーキ、ピラフ、マセドアンサラダ	
	事前学習 20分	ひき肉の調理、トマトソース、マヨネーズについて調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ハンバーグステーキを作る	

11	行事食① クリスマス料理	若鶏の蒸し焼き、トマトサラダ、りんごのコンポート	
	事前学習 20分	クリスマス料理について調べてくる。りんごの皮むきの練習をする	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：りんごの皮むきの練習	
12	行事食② 正月料理	栗金団、煎鶏、紅白なます、雑煮	
	事前学習 20分	自分の家の正月料理、雑煮について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習テストの試作をする	
13	中国料理① 小麦粉の調理、貝類の調理、寒天の調理	鍋貼餃子、蛤蜊湯、牛奶豆腐	
	事前学習 20分	中国料理、調理法：炒める、小麦粉の調理、貝類の扱い方について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：炒飯をつくる	
14	全体の振り返りと試験	後期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための実習テスト。実技テスト（きゅうりテスト）を行う	
	事前学習 20分	実習テスト施策、きゅうりの輪切り、りんごの皮むきの練習をしておく	
	事後学習 30分	実習を振り返り、今後調理することにかせるようにする	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食べ・ストラテデザイン実習	選択	生デ	1年前学期	実習	1	パッケ 伊東	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
<p>★ビジネスベース（広告代理業務）にて、広告、パッケージ、グラフィックデザイン、コーポレートアイデンティティ(CI)、ロゴマーク、イラスト、筆文字をデザイン。資生堂、味の素、明治、ハウス食品、いなば食品、ASAHIビール、メルシャン等。</p> <p>★デザイン賞（USAクリオ賞など）多々・受賞歴あり。※以上の経歴が活かされる。</p>							
授業の概要							
<p>『【ストラテジー】 Strategy 《 戦略・戦い方・プロジェクトを導く計画 》デザイン術を学ぶ。』</p> <p>●心に訴えかけるインパクトパワー・アイデアデザインを考える ●食品に関する商品・パッケージ・広告デザインなどの企画・立案 ●おもしろ・うきうき、シズル・コマーシャルを鑑賞し、食べたくなる、飲みたくなるを学ぶ ●商品特徴のキーワードを探し、楽しみながら発想し、ネーミングとして仕上げる ●言葉遊び、ネーミング制作 ●摩訶不思議な錯覚、トリック・アート論 ●インタラクティブアートの&ゲーム・クイズ・テーマパーク感覚の楽しい癒しの授業。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>『モノの見方を身につける。』以下、1～5までを理解し、実行できるようになる。</p> <p>1. デザインのパワー（ちから）を知るなどの基礎的な知識を身につけ活用できるようになる。【DP1：知識・技能】</p> <p>2. “グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を修得し実行できるようになる。【DP3：主体性・多様性、協働性】</p> <p>3. デザインの完成度の高め方と、おもしろいアイデアの出し方の基礎知識を修得し活用できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力、判断力、表現力】</p> <p>4. “やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を修得し活用できる。【DP3：主体性・多様性、協働性】</p> <p>5. 錯覚にとらわれない心、自信のつけかたを捉えるための力を養い実行できる。【DP3：主体性・多様性、協働性】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>『モノの見方を身につける。』以下、1～5までを理解し、具体的に説明できるようになる。</p> <p>1. デザインのパワー（ちから）を知るなどの基礎的な知識を身につける。【DP1：知識・技能】</p> <p>2. “グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を身につける。【DP3：主体性・多様性、協働性】</p> <p>3. デザインの完成度の高め方と、おもしろいアイデアの出し方の基礎知識を修得する。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力、判断力、表現力】</p> <p>4. “やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を身につける。【DP3：主体性・多様性、協働性】</p> <p>5. 錯覚にとらわれない心、自信のつけかたを捉えるための力を養う。【DP3：主体性・多様性、協働性】</p>							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
授業内で、プリントを配布。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は、評価したのち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<p>モチベーション効果と、やる気を考える。ここでのやる気は、授業態度ではありません。</p> <p>【やる気度の高い学生と、モチベーション効果を理解した学生には、“やる気カード・スタンプ”を差し上げます。】ゲーム感覚で取得してください。楽しく（いいね！）評価します。</p> <p>この授業は、『商品と人』の、やる気の出し方、やる気のブランディング方の授業です。“やる気カード・スタンプ”（活発な発言力&アイデアの良さ）は、演習作品の評価をこえるカードです。</p> <p>※授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。</p>							
成績評価方法				成績評価基準			
演習作品レポート提出物（50%）、やる気カード（50%）の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している			
※特に、授業内での発言力と、提出物等の完成度が高く、アイデアのすばらしさが認められた場合には、A、又は、さらに上のSの評価が与えられます。				A(89-80点)：到達目標を達成している			
				B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している			
				C(69-60点)：単位修得目標を達成している			
				D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない			
				Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食べ・ストラテデザイン実習	選択	生デ	1年前学期	実習	1	パツケ 伊東	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ライン・スタンプを創るゾウ! 『パ王』	おいしいぞおお。まずいっつい。ラインのタンプを企画制作	/
	事前学習 5分	ストラテジックの意味を、調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
2	インスタ映えって〇〇する写真の撮り方	生活食品かわいいいいいねっ 気になる/ビビット写真撮影学	/
	事前学習 12分	いいね! 写真の撮り方を自分なりに考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
3	ベネチュバル仮面舞踏会&会社の作り方	インバウンド(訪日外国人旅行)用のギフトブランドづくり。	/
	事前学習 12分	仮面&お面は、なぜ身につけるのかを考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
4	おとぎチョコットとチョコ物語&手作り指輪	おとぎ チョコ物語 & 【食玩・おいしいジュエリー★レジン・アート★】	/
	事前学習 12分	おとぎ話、昔話、好きなストーリーを調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
5	日帰り “べ・べ・る・る” バスツアー	どこいくそこいく。食べ!遊べ!ゆる!ゆる!旅行を包む企画	/
	事前学習 12分	バスツアーに関着いて、あらかじめ、調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
6	アイドル『推しメンうちわ』新感覚デザイン	“アピール・うちわ”のアイデア&レイアウト、新発想。	/
	事前学習 12分	『推しメンうちわ』のスマホで、素材データを収集・持参する。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
7	一撃・最強パワー・ドリンク 甲子園	超ドリンク企画&調査~ランチェスターの法則/孫子の兵法	/
	事前学習 12分	コンビニで、オロナミンC、リポビタミンDなどが、並んでいる様子を見ておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
8	“レジンで創る” 楽しいジュエリーデザイン	レジンのレイヤー効果を使った、新しいコンセプト・アクセサリ。	/
	事前学習 12分	レジンで、自然の一部を切り取りデザインする。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
9	恐怖の意味!こんな感じ!こんな漢字!	漢字は、意味を表わす表意文字。ロゴマークと、コンセプト。	/
	事前学習 12分	自分の好きな漢字3つを選び、その意味を調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
10	10秒で、うまくなる。“味わいの書”	楽しく。かんたん。筆文字教室 カリグラフィー秘伝/裏技	/
	事前学習 12分	好きな漢字orひらがな一文字、3候補を考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	

11	カフェプロ CHAちゃちゃっと！チャット	面白すぎる“お茶カフェ”の、店と商品をプロデュース。	
	事前学習 12分	おちやの茶葉を、すこしだけ、持ってくる。お茶の種類を調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
12	愛短のAi个性的キャラクターを創造。	『愛国学園短期大学のいいね探検隊』を結成。探査&調査。	
	事前学習 12分	愛国学園の良いところ、すばらしいところを、10列記しておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
13	アイドルゆめ工房 2030 アイディアンZ	月の水で“近未来”の宇宙食を開発。宇宙食を食べてみたい。	
	事前学習 12分	近未来の食物について、どんな進化イメージになるかを考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
14	マイナスをプラスに『魔法の言葉』de包	“わけ有り商品”を復活販売する。ポジティブで前向きな戦略	
	事前学習 12分	『わけあり商品』の意義（価値）を調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
製菓製パン実習Ⅰ	選択	生デ	1年前学期	実習	1	もりさき 森崎 まゆか 繭香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
フードコーディネーター1級の資格を有し、料理教室講師、パティシエを経て、フレンチ、イタリアンの厨房で経験を積み、独立。書籍・雑誌へのレシピ提供、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動。「あんこのおやつ」、「焼かないケーキ」、「おうちおやつ」など、著書20冊以上手掛けた経験を有する教員より、製菓製パンの様々な技法を学ぶ。							
授業の概要							
製菓の材料の取り扱い方、混ぜ方や混合のタイミング、泡立て方などを身につける。また、それぞれの製菓製パンの特徴を学ぶ。確実に自分のものにし、一人で再現でき、自在に応用できるようになる。							
到達（成績評価A）目標							
<p>(1) 実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解し説明できるようになる。【DP1:知識・技能】</p> <p>(2) 製菓に関する基礎知識と技術を身につける。失敗しないコツを学び、一人で作ることが出来るようになる。【DP1:知識・技能】</p> <p>(3) 失敗しても、諦めず、制作過程を見直して、どこが良くなかったかを判別し、再チャレンジできるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】</p> <p>(4) 実習を通して協調性を養い、グループの中で円滑なコミュニケーションがとれ、リーダーシップを発揮しながら自分の役割を果たすことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協調性】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>(1) 実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解できるようになる。【DP1:知識・技能】</p> <p>(2) 製菓に関する基礎知識と技術を身につける。失敗しないコツを学び、一人で作ることが出来るようになる。【DP1:知識・技能】</p> <p>(3) 失敗しても、あきらめず、制作過程を見直して再チャレンジできるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】</p> <p>(4) 実習を通して協調性を養い、グループの中で円滑なコミュニケーションがとれ、自分の役割を果たすことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協調性】</p>							
教科書							
なし							
参考書・資料							
毎回プリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<p>①材料の発注の都合で授業内容の順番、内容を変更する場合がある。</p> <p>②授業開始時間までに身支度を整えて入室し、実習の準備をおこなう。貴重品は責任を持って管理すること。</p> <p>③配布プリントを整理し、ファイルに保管する。</p> <p>④欠席が事前にわかる場合は欠席届を出し、当日欠席する場合は担当教員に連絡を入れる。</p> <p>⑤毎回配布したプリントに疑問点等を記入し添削する。</p>							
成績評価方法				成績評価基準			
実習テスト(50%)、実習レポート(30%)、グループ協調態度(20%)の総合評価。				<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している</p> <p>A(89-80点)：到達目標を達成している</p> <p>B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している</p> <p>C(69-60点)：単位修得目標を達成している</p> <p>D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない</p> <p>Z：受験資格失格</p>			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
製菓製パン実習Ⅰ	選択	生デ	1年前学期	実習	1	もりさき 森崎 まゆか 繭香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション／ゼラチンとアガー	注意事項伝達／コーヒーゼリー	/
	事前学習 10分	ゼラチンと寒天、アガーの違いについて調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。(初回授業で解説する)	
2	ゼラチンと寒天	パンナコッタ、フルーツ寒天	/
	事前学習 10分	ゼラチンと寒天、アガーの違いについて調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
3	和菓子	あんこの炊き方、大福、どら焼き	/
	事前学習 10分	求肥の作り方、どら焼きの皮の作り方を調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
4	練りパイ生地	リーフパイ	/
	事前学習 10分	パイ(練りパイ)の作り方を調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
5	クッキー生地	クッキー	/
	事前学習 10分	クッキーの種類を調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
6	小さな焼菓子	レモンケーキ	/
	事前学習 10分	レモンケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
7	チョコレート生地	ガトーショコラ	/
	事前学習 10分	チョコレートケーキの種類とチョコレートの扱いを調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
8	スポンジ生地(別立て)	シフォンケーキ(シフォンサンド)	/
	事前学習 10分	スポンジケーキ(別立て)の作り方について調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
9	スポンジ生地(共立て)	スポンジケーキ	/
	事前学習 10分	スポンジケーキ(共立て)の作り方について調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
10	スポンジ生地(共立て)	フルーツロールケーキ□	/
	事前学習 10分	ロールケーキの作り方について調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	

11	スポンジ生地（共立て）	ショートケーキ（ドリップケーキ）	
	事前学習 10分	ショートケーキのデコレーションについて調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
12	実習テスト	実習テスト	
	事前学習 60分	これまでの授業の復習をし、実習テストのための準備をしておく。	
	事後学習 30分	実習うテストの振り返り。	
13	バターケーキ生地	パウンドケーキ	
	事前学習 10分	パウンドケーキの作り方を調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
14	シュー生地／まとめ	シュークリーム／全体の振り返り	
	事前学習 10分	シュー生地の作り方を調べておく。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
製菓製パン実習Ⅱ	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC)		特になし				6・7, 9, 12, 15, 16, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
主に製パンの実習を基礎から行う。製パン実習での素材の取り扱い方、こね方、発酵、焼成など、製パンのポイントをわかりやすく解説する。またそれぞれのパンの特徴を学ぶ。習った項目の復習をし、1人で確実に作れるようにする。自分が作りたいパンを作る企画をたて、実行し発表する。最終回は確認テスト（(復習・確認・実技、個人テスト)を実施する。							
到達（成績評価A）目標							
1. 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製パンの基礎知識と技術を習得し、それを応用し実践できる。【DP1：知識・技能】							
2. うまくいかないときに、原因を分析し解決できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
3. 失敗することなく美味しく美しいパンを一人で作ることが、計画立てて出来るようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
4. 自分で作りたいパンを考え、販売するまでの計画を立て、制作し、発表することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
5. 班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】							
単位取得（成績評価C）目標							
1. 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製パンの基礎知識と基礎的技術を実践できるようになる。【DP1：知識・技能】							
2. うまくいかないときに、原因を考え、次に作る時の課題を見つけることができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
3. 失敗することなく美味しく、美しいパンをレシピを見て一人で作ることが出来るようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
4. 自分で作りたいパンを調べ、販売するまでの計画を立て、作ることができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
5. 班員とコミュニケーションをとりながら実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】							
教科書							
なし：毎回プリントを配布する。							
参考書・資料							
高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』 時事通信社（2021）（「調理学実習」で購入済） （資料）必要に応じて、プリントを配布する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
発表のパン製作の際、基本の材料以外各自が用意する。							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・材料発注の都合で授業の順番、内容が変更になる場合がある。 ・授業開始前に身支度を整えて入室し、実習台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ・衛生に十分注意をし、実習をおこなう。 ・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。 ・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに担当教員に連絡をすること。 							
成績評価方法				成績評価基準			
プリントのまとめ方(30%)、課題（30%）実技テスト(20%)、取り組み姿勢(20%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
製菓製パン実習Ⅱ	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC)		特になし				6・7, 9, 12, 15, 16, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション・掃除・実習	オリエンテーション、掃除、パン生地の扱い方	
	事前学習 5分	パンの材料について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる(項目は初回授業で説明する)	
2	基本の生地	テーブルロール(3種)、丸めと成形	
	事前学習 15分	パンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容を作ってみる。うまく出来なかったところを記録しておく	
3	外部講師	プロの製パン法を学ぶ	
	事前学習 30分	プロの作り方とのちがいは何か、考えておく	
	事後学習 30分	講義内容をまとめ、感想を書く	
4	基本の生地 ピザ	ピザ、フォカッチャ	
	事前学習 30分	パンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
5	基本の生地【オープンを使わず揚げる】	(揚げパン) イーストドーナツ、カレーパン	
	事前学習 30分	パン発酵の仕方、ポイントを調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
6	基本の生地 包餡	アンパン、なでしこパン	
	事前学習 30分	パン生地の種類について調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
7	基本の生地 デリカパン	フランクフルトロール、ツナマヨパン	
	事前学習 30分	デリカパンの具材について調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
8	フランスパン生地	ミニバタール・ペーコンエピ	
	事前学習 30分	フランスパンの材料、他のパンとの違い、作り方を調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
9	確認テスト	テーブルロールの実技テスト	
	事前学習 15分	実技テストの内容を練習する。	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
10	食パン生地 ・粉の種類の違い	イギリスパン 全粒粉食パン	
	事前学習 30分	食パンの種類を調べる。粉(全粒粉、ライ麦について調べる)	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決し、次の実習につなげる	

11	飾りパン	クリスマスリース	
	事前学習 30分 事後学習 30分	成形の仕方の種類を調べる 実習内容をまとめる。うまくできなかったところの理由を分析し、次の実習につなげる。	
12	パンの計画（課題）	自分のパンを考える	
	事前学習 30分 事後学習 30分	作る計画を立て準備する 計画表を作る	
13	パンの計画実践	パンの試作	
	事前学習 30分 事後学習 30分	作る計画を立て準備する 作ってみて改善点を見つける。課題の練習行う。	
14	課題発表	課題の作成と発表　まとめ（後期実習内容の振り返り）	
	事前学習 60分 事後学習 30分	実技テストの内容を練習する。 実習テスト内容をレポートにまとめる。全体を振り返り不明点を解決しておく	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護食実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7, 9, 15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>咀嚼機能や嚥下機能が低下した高齢者や障がい者の方は、食形態を調整しないと上手に食べる事ができない。本授業では、高齢者や障がい者の身体的、精神的特徴を理解し、それらに適した調理の基本技術をマスターするため、歯茎でつぶせる硬さのものからゼリー状の形状のものまで様々な形状のものを実習し、高齢者・障がい者に適した食事作りの実習を行う。実習毎に介護食としての調理の工夫点についてまとめる。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>1. 高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】</p> <p>2. 安全で美味しい介護食の食事作りの基本知識を詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】</p> <p>3. 安全で美味しい介護食の食事作りを、学んだ基本知識を意識しながら班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>1. 高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について概要を述べるようになる。</p> <p>2. 安全で美味しい介護食の食事作りの基本知識の概要を説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】</p> <p>3. 高齢者・障がい者のための安全で美味しい食事作りを、行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働】</p>							
教科書							
実習のテーマごとにプリントを配布する。							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容と順番を変更する場合がある。 ・ 欠席が事前にわかる場合は、事前に連絡をする。また、当日欠席する場合は担当教員に電話を入れ、教員もしくは助手に連絡を入れる。 							
成績評価方法				成績評価基準			
取り組み姿勢(40%) 実技(30%) 課題(30%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護食実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7, 9, 15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、調理実習基礎	ガイダンス、実習の目的、心得、包丁の持ち方、計量方法、出汁の取り方、塩味の比較(おにぎり)、野菜の切り方、	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	高齢者にとっての食事の意味、献立を作る上で配慮すること、包丁の持ち方、野菜の切り方、計量、出汁のとり方について復習する。	
2	高齢者の軟菜食1	ユニバーサルデザインフードについて、介護用ゼラチンの使い方、 実習：ふわふわオムライス、いちごゼリー	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	ユニバーサルデザインフードと介護用ゼラチンの使い方について復習する。ワークシートを完成させる。	
3	高齢者の軟菜食2	高齢者の食の支援：高齢者の食事の意味、献立を作る上で配慮すること 実習：スパゲッティミートソース、りんごのコンポート	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	献立を作る上で配慮する点について復習する。ワークシートを完成させる。	
4	高齢者の軟菜食3	高齢者の食の支援：食事を作る上で配慮すること 実習：ご飯、豆腐饅頭、ヤクルトゼリーの人参ソースかけ	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	食事を作る上で配慮する点について復習する。ワークシートを完成させる。	
5	高齢者の軟菜食4	高齢者の食の支援：食欲がない時の対応、食事を作る上での留意点 実習：かつ丼、かぼちゃ羊羹	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	食欲がない時の対応、食事を作る上での留意点について復習する。ワークシートを完成させる。	
6	高齢者の軟菜食5	嚥下しやすくする工夫 実習：パン、クリームポタージュ、海老白菜ロール	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	嚥下しやすくする工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
7	高齢者の軟菜食6	咀嚼しやすくする工夫（材料の選び方） 実習：ピザトースト、ミネストローネ、黄桃缶ゼリー	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（材料の選び方）について復習する。ワークシートを完成させる。	
8	行事食：年越しそば	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ） 実習：とろろそば、天ぷら、トマトサラダ	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ）について復習する。ワークシートを完成させる。	
9	行事食：クリスマス料理（立案）	クリスマス料理の立案	/
	事前学習 10分	クリスマス料理の献立とレシピについて考えてくる。	
	事後学習 20分	立案した献立について自宅で作成し、レシピを修正する。	
10	行事食：お正月料理	咀嚼しやすくする工夫（切り方） 実習：お雑煮、カステラのシロップ漬け	/
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫（切り方）について復習する。ワークシートを完成させる。	

11	行事食：クリスマス料理（実習）	クリスマス料理実習テスト	
	事前学習 10分	作成する料理の手順について見直してくる。	
	事後学習 60分	実習のレポートを作成する。	
12	予防食：減塩食	減塩の方法と調理の工夫 実習：ご飯、焼売、根菜汁	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでもくる。	
	事後学習 15分	減塩の方法と調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
13	予防食：便秘予防食	便秘予防と調理の工夫 実習：ひじきご飯、おからの煮物、納豆汁	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでもくる。	
	事後学習 15分	便秘予防と調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
14	ムース食	嚥下について、介護用食器、食事介助の方法、ムース食について 実習：粥、味噌汁、焼き鮭、ほうれん草のおひたし、あんパン豆乳シェイク	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでもくる。	
	事後学習 15分	嚥下について、介護用食器、食事介助の方法、実習の調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
デジタルデザイン演習	選択	生デ	2年 前学期	演習	2	やまなか まさし 山中 将司	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
アウトドアメーカーにて、商品開発、デザイン、パッケージデザインなどを担当。2020年イタリアA' Design Award Silver受賞。							
授業の概要							
自分の方でホームページをデザインしていきます。デザインはアートではありません。デザインは自分の好きな形を作るのではなく、常にユーザーのことを考え「わかりやすい」「伝わりやすい」「使いやすい」といった要件を満たす必要があります。この授業ではFigmaといったツールを使いホームページなどを制作し皆さんの伝達力と創造力を養います。この授業を通じてデザイン思考・ユーザー視点を身につけ、社会人生活において頼りになる人材となることが目的です。							
到達（成績評価A）目標							
以下、1～3を到達目標とする。 1. 適切なデザインとは何かを十分に理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを適切なデザインを製作でき、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性・多様性、協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
以下、1～3を到達目標とする。 1. デザインの基本を理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを用いてデザインを製作でき、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力、判断力、表現力】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性・多様性、協働性】							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
特になし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業内で随時フィードバックを行う							
履修上の注意・備考・メッセージ							
レベルの高い制作を行う授業なので欠席が続くと授業に復帰するのが難しいと思います。前向きに技術を身につけたいという姿勢を持って受講してください。また初回授業までに各自googleのアカウントを取得し、Gmailを使えるような状態にしておいてください。							
成績評価方法				成績評価基準			
授業態度(20%) 制作物(40%) プレゼンテーション(40%)で評価します。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
デジタルデザイン演習	選択	生デ	2年前学期	演習	2	やまなか まさし 山中 将司	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
授業のスケジュール							
回	項目	内 容					担当者
1	授業ガイダンス	授業内容、UI/UXデザインについて					山中
	事前学習 20分	Gmailアカウントを取得しておくこと。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
2	UIとは何か	ユーザーインターフェースについて学ぶ					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
3	Figma 入門1	Figmaの操作に慣れる					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
4	Figma 入門2	Figmaを使ってカードUIを制作してみる					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
5	UXとは何か	ユーザーエクスペリエンスについて学ぶ					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
6	Figma 実践1	Figmaで商品のバナーを制作する					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
7	Figma 実践2	Figmaで商品のバナーを制作する					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
8	デザインシステムについて	Figmaでデザインシステムを制作する					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
9	Figma 実践3	ランディングページを模写する					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
10	Figma 実践4	ランディングページを模写する					山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。					
	事後学習 60分	指定課題を進める。					
11	ホームページのコンセプト	最終課題に向けてホームページのコンセプトを決める					山中

	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
12	ホームページのリサーチ	既存のホームページを調べて分析する	山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
13	ホームページの制作	最終発表に向けて作品を制作	山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
14	最終プレゼンテーション	最終プレゼンテーションを行う	山中
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 20分	フィードバックを各自振り返ること。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
商品開発・企画演習	卒業必修	生デ	2年 後学期	演習	2	ひらお あきやま きばやし なかの はた 平尾、秋山、木林、中野、畑、 ほんごう もりさき やまむら よねやま 本郷、森崎、山村、米山	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		①1年生終了時、取得単位数が31単位以上あること ②担当教員の関連科目を2年生前学期までに履修しておくこと					4, 5, 6・7, 11, 12, 16
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活を自らデザインし、提案・実践できるようになるために、2年前学期までに学修した、生活に関する専門的知識・技能及び豊かなコミュニケーション力を活かし、担当教員とディスカッションを行いながら、商品やサービスの企画を行い、開発する。演習のプロセスはPDCAサイクルに則り、創造的・具体的に計画を立てて実践し、その成果を中間発表する。そこで得られた意見や助言を開発内容に取り入れ、最終的な成果に反映させる。プロセスと結果をレポートにまとめ、成果物とともに提出し、最終発表を行う。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生前学期までに学修した生活に関する専門的知識を十分に理解し技能を適切に用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】 ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に積極的に取り組むことができる。 ・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果をまとめて発表し、完成度の高いレポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら主体的・積極的に演習を進めることができ、生活経営や社会活動に主体的に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・自分以外の企画に対して、効果的な助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生前学期までに学修した生活に関する専門的知識を理解し技能を用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】 ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に取り組むことができる。 ・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果をまとめて発表し、レポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・コミュニケーション能力を活かし、担当教員の助言を理解しながら主体的・積極的に演習を進めることができ、生活経営や社会活動に主体的に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・自分以外の企画に対して、助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 							
教科書							
各教員の指示による。							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
作品制作および実験・実習を行うにあたり、学校で用意できる材料等以外に必要なものは、自己負担で準備する。							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回各担当教員と意見交換することにより、細かい振り返りができ、次の作業に役立てることができる。 ・中間発表で他者の意見を聞き、改善点等を把握することができ、自分の企画に反映することができる。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ol style="list-style-type: none"> ①学事日程により、中間発表および最終発表の日を変更する場合がある。 ②活動日は担当教員と相談のうえ、各自150分間14回の時間数を確保すること。 ③欠席が事前にわかる場合あるいは当日欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をすること。 ④授業開始前に手洗い等の準備をし、それぞれの身支度を整え準備を行う。 ⑤14回目の授業時にプロセスと結果をレポートにまとめ、成果物とともに提出し、最終発表を行う。 							
成績評価方法				成績評価基準			
全担当教員で評価を行う。 商品としての作品あるいは研究成果 (40%)、レポート(40%)、中間発表 (10%)、最終発表(10%)による総合評価。 ただし、商品の提出およびレポートを提出しても、中間発表および最終発表が終了しなければ、成績は出せない。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
商品開発・企画演習	卒業必修	生デ	2年 後学期	演習	2	ひらお、あきやま、きばやし、なかの、はた、平尾、秋山、木林、中野、畑、ほんごう、もりさき、やまむら、よねやま、本郷、森崎、山村、米山	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		①1年生終了時、取得単位数が31単位以上あること ②担当教員の関連科目を2年生前学期までに履修しておくこと				4, 5, 6・7, 11, 12, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	全体のオリエンテーション、担当教員とのディスカッション	オリエンテーション、担当教員との意見交換	複数
	事前学習 20分	シラバスや事前の説明から、自分が実施したい企画を考えてくる	
	事後学習 60分	各自の企画書作成準備を行う	
2	企画書作成(1)	担当教員とのディスカッション、企画書作成	クラス分け
	事前学習 20分	担当教員とのディスカッション、企画書提出の準備	
	事後学習 60分	次回からの作品制作あるいは実験・実習の準備	
3	企画書作成(2) 又は 作品制作・実験・実習(1)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
4	企画書作成(3) 又は 作品制作・実験・実習(2)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
5	中間発表の準備	中間発表のパワーポイント等の制作	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	中間発表の準備(目的・方法・現在までの結果がまとまり、パワーポイント制作、発表の準備の確認をする)	
6	中間発表	中間発表	複数
	事前学習 60分	中間発表の準備(目的・方法・現在までの結果をまとめる)	
	事後学習 60分	中間発表で得られた意見や助言をどのように取り入れるかを考える。	
7	作品制作あるいは実験・実習(3)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 60分	新たな作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
8	作品制作あるいは実験・実習(4)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
9	作品制作あるいは実験・実習(5)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 60分	新たな作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
10	作品制作あるいは実験・実習(6)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	

11	作品制作あるいは実験・実習(7)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
12	作品制作あるいは実験・実習(8)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
13	最終発表の準備	授業の振り返るための最終発表の準備(成果物、レポートの確認準備)	クラス分け
	事前学習 20分	成果物を仕上げる	
	事後学習 60分	最終発表とレポート提出の準備	
14	授業の振り返り	最終発表	複数
	事前学習 60分	最終発表の準備、レポートの確認	
	事後学習 20分	自分自身がこの演習を通してどれだけの能力が身についたか、振り返る	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション販売演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				4, 8, 9, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>ファッション・アドバイザーとして主体的に店舗運営に参画できる能力を身に付けるため、ファッション小売業の販売業務に携わるために必要な知識・技能とコミュニケーション能力のレベルアップを目指す。はじめに、小売業について、接客、ストアオペレーション、販売における計数などを学ぶ。その後、ファッション商品、ファッション業界、ファッション商品のマーケティングなど、特にファッション商品販売に必要なとされる知識・技能を学ぶ。アパレルショップの観察・調査を行い、実務の現場を知ることによって理解を深める。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 商品知識を習得し、市場の多様なファッション商品の分類と特徴について具体的に説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 アパレル販売の現場を観察し、商品・サービス提供者と生活者の両視点から、店舗やサービスの課題を指摘し改善案を提案できる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 ファッション業界のしくみと小売りの業態、商品流通など、販売業務を取り巻く状況について理解し、企業における販売スタッフの役割を認識しつつ、サービス業務の質の向上について具体的に述べるができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 商品知識を習得し、市場の多様なファッション商品の分類と特徴を列挙できるようになる。【DP1:知識・技能】 アパレル販売の現場を観察し、商品・サービス提供者と生活者の両視点から、店舗やサービスの課題を指摘できる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 ファッション業界のしくみと小売りの業態、商品流通など、販売業務を取り巻く状況について理解し、サービス業務の質の向上について述べるができる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
(財)日本ファッション教育振興協会:『ファッション販売3』（最新版）¥2,268							
参考書・資料							
(財)日本ファッション教育振興協会『ファッション販売能力検定試験問題集3級 改訂版』¥1,440 織研新聞、月間『ファッション販売』（商業界）、各種ファッション雑誌							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
希望者のみ：ファッション販売能力検定試験 受験料5,500円（2020年参考）							
課題に対するフィードバック							
課題、ワークシート、小テスト等は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 教科書は2回目の授業から使用する。書店で店頭販売していないことが多いので、早めに注文しておくこと。 授業内で小テスト・模擬テストを行う。実施日は事前に知らせるので欠席しないように。 検定試験の日程に合わせ、授業スケジュールを変更することがある。 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退学を求めていることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験(40%) 演習課題(40%) 受講態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション販売演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				4, 8, 9, 14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ファッション業界について	検定試験について、ファッション業界と職種、ファッションとアパレル	
	事前学習 30分	シラバスを読む。アパレル販売店へ足を運び観察する。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
2	ファッション小売業について	流通の構造、ファッション小売業の業種と業態	
	事前学習 20分	教科書 p. 8～12を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
3	お客様と店舗	店舗の機能とサービス、「顧客」とは、ライフスタイルショップ	
	事前学習 20分	教科書 p. 15～19を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
4	ファッション販売技術1	接客の基本動作とセールステクニック基礎	
	事前学習 20分	教科書 p. 20～31を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
5	ファッション販売技術2	お客様の購買動機と心理、お客様との接し方、ロールプレイング演習	
	事前学習 20分	教科書 p. 32～40を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
6	ファッション販売技術3	包装と贈答	
	事前学習 20分	教科書 p. 41～45を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	包装技術を高めるために繰り返し練習する。	
7	商品知識1	アイテムの分類、商品名称とデザインイメージ	
	事前学習 20分	教科書 p. 46～51を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
8	商品知識2	アイテムの分類と名称（レディース、メンズ、ニット、キッズ）	
	事前学習 20分	教科書 p. 51～75を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	ファッション雑誌やファッションサイト等を確認しアイテムについて理解を深める。	
9	商品知識3	アイテムの分類と名称（インナーウェア、アクセサリ、雑貨）	
	事前学習 20分	教科書 p. 76～93を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	ファッション雑誌やファッションサイト等を確認しアイテムについて理解を深める。	
10	商品知識4	シルエットとディテール	
	事前学習 20分	教科書 p. 102～117を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	ファッション雑誌やファッションサイト等を確認しアイテムについて理解を深める。	

11	店舗運営1	商品計画、仕入計画、品揃え、在庫管理の知識	
	事前学習 20分	教科書 p. 198～206を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
12	店舗運営2	販売スタッフの事務と商品管理、係数計算	
	事前学習 20分	教科書 p. 206～213を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
13	店舗演出とVP展開1	売り場環境づくりと演出、商品陳列とVP	
	事前学習 30分	教科書 p. 152～173を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店の売り場演出についてリサーチを行う。	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 20分	1～13回の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験を行う。	
	事後学習 30分	試験で間違えたところを見直し、正しい知識を身につける。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
インテリアコーディネート演習	選択	生デ	2年後学期	演習	2	やまむらみほり 山村美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				9, 11, 12, 15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かなコミュニケーション力を活かし、インテリアアドバイザーとして生活経営や社会活動に主体的に参画できるようになるために、前半では、インテリアを構成する各要素の基礎事項とプランニングの一般的なルールを学び、後半では前半で学んだ基礎知識を基に課題に取り組み、プレゼンテーションをする。また希望者はインテリアデザイン技能検定に必要な平面図、デザインコンセプト等を学習する。							
到達（成績評価A）目標							
インテリアの基礎知識とコーディネート基礎技能を概ね習得する。それらの学びを応用してアドバイザーとして提案できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
インテリアの基礎知識とコーディネート基礎技能を習得する。それらの学びを実践生活で活用することができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
必要な資料は適宜配布							
参考書・資料							
『はじめてのインテリア 基本レッスン—部屋づくり』 主婦の友社 ¥1,790 『インテリアデザイン技能検定公式テキスト』 日本教育訓練センター ¥2,750 一般社団法人 日本室内意匠協会参照 https://interiordesigns.jp/							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く） ・私語厳禁 ・グループワークは各自責任をもち、協力して進める。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求められることがある 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(20%) 学修成果確認のための授業ノート・作成物(60%)とプレゼンテーション(20%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
インテリアコーディネート演習	選択	生デ	2年後学期	演習	2	やまむらみほり 山村美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				9, 11, 12, 15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的及び方針の説明と部屋のコーディネートについて	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	授業方針の確認をする	
2	家具 I	家具の種類と役割、家具の寸法	
	事前学習 30分	身近な家具の寸法を計測する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
3	家具 II	家具の配置計画 著名な家具のスケッチ	
	事前学習 30分	家の家具や家具売り場を見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
4	照明 1	照明の種類と役割、著名な照明のスケッチ	
	事前学習 30分	自宅や店舗の照明をみておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
5	照明 II	照明計画	
	事前学習 30分	自宅や店舗の照明をみておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
6	色彩 I	色彩の基礎と日本の伝統的色彩	
	事前学習 30分	色彩の基礎を参照しておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
7	色彩 II	色彩計画	
	事前学習 30分	好きな居住空間の色彩を観察しておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
8	平面図 I	1/50の平面図と縮尺	
	事前学習 30分	学習した図面の基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
9	平面図 II	1/100の平面図と縮尺	
	事前学習 30分	学習した図面の基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
10	コーディネート分析	学習した内容からコーディネートの分析を練習する	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	

11	プレゼンテーションボードの作成	与えられた課題に対してコーディネートを考え、プレゼンテーションのためのボードを作成する。	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
12	プレゼンテーションボードの作成	与えられた課題に対してコーディネートを考え、プレゼンテーションのためのボードを作成する。	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
13	プレゼンテーションボードの作成	与えられた課題に対してコーディネートを考え、プレゼンテーションのためのボードを作成する。	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
14	発表会と総括	発表会と振り返り	
	事前学習 30分	発表練習をする。	
	事後学習 30分	発表者のアイデアを確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードデザイン・マネジメント論	選択	共通	1年後学期	講義	2	さとう さやか 佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>フードサービスビジネスに必要な食空間と内装のデザイン、マネジメントの基本を講義し、空間プランニングやマネジメント実務を学習する。フードコーディネーター3級、レストランサービス技能士3級取得のために必要な知識を習得する。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。</p> <p>1. 経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までを総合的にマネジメント出来るようになる。 【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】</p> <p>2. 食空間のデザイン、空間プランニングを総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】</p> <p>3. レストランサービス技能検定の該当箇所に対し、正確に解答することができる【DP1：知識・技能】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。</p> <p>1. 経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までの基本的事項をマネジメント出来るようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】</p> <p>2. 食空間のデザイン、空間プランニングの基本的事項を説明できるようになる。【DP1：知識・技能】</p> <p>3. レストランサービス技能検定の該当箇所を理解することができる【DP1：知識・技能】</p>							
教科書							
日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店（2022）（購入済み）							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法(2版)』 職業訓練教材研究会他、適宜プリント配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
小テスト・課題は、採点ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<p>1. 欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。</p> <p>2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。</p> <p>3. 進行の都合により、内容が前後することがある。</p>							
成績評価方法				成績評価基準			
定期試験(40%) 小テスト・課題(40%) 取り組み姿勢(20%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードデザイン・マネジメント論	選択	共通	1年後学期	講義	2	さとう さやか 佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	食空間と内装デザイン (1)	食空間の意義	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく。	
	事後学習 15分	課題を仕上げる。	
2	食空間と内装デザイン (2)	外食産業の歴史に見る食空間の歴史	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
3	食空間と内装デザイン (3)	今後の食習慣のあり方	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
4	食空間と内装デザイン (4)	レストラン空間の設計実務1	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
5	食空間と内装デザイン (5)	レストラン空間の設計実務2	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
6	食空間と内装デザイン (6)	防災、施設の維持管理	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
7	苦情対応と遺失物の取扱い (1)	料飲サービスにおける不満・苦情 好ましくないお客への対応	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
8	苦情対応と遺失物の取扱い (2)	遺失物の取扱い	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
9	フードマネジメント (1)	フードマネジメントとは 食事の3形態 内食の動向	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
10	フードマネジメント (2)	外食と外食市場の動向 中食の普及・拡大	
	事前学習 15分	教科書を読んでくる。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	

11	フードマネジメント (3)	マーケティング/経営の基礎知識	
	事前学習 15分	教科書を読んできると。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
12	フードマネジメント (4)	経営の計数管理1	
	事前学習 15分	教科書を読んできると。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
13	フードマネジメント (5)	経営の計数管理2 財務諸表	
	事前学習 15分	教科書を読んできると。	
	事後学習 30分	課題を仕上げる。	
14	フードマネジメント (6)	フードマネジメントのまとめ、定期試験対策	
	事前学習 15分	これまでの課題をまとめ、見直しておく。	
	事後学習 240分	定期試験のための対策を行う。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードプランニング論	選択	共通	1年 後学期	講義	2	もりさき まゆか 森崎 繭香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 16	
実務経験のある教員による科目							
フードコーディネーター1級の資格を有し、料理教室講師、パティシエを経て、フレンチ、イタリアンの厨房で経験を積み、独立。書籍・雑誌へのレシピ提供、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動。「あんこのおやつ」、「焼かないケーキ」、「おうちおやつ」など、著書20冊以上手掛けた経験を有する教員より、フードプランニングについて学ぶ。							
授業の概要							
レストランサービスやフードプランニングに必要な知識と、企画を実践するために必要不可欠なスキルについて学ぶ。実際に各自でさまざまなプランニングシートを作成し、発表する。ケーススタディを通して、「食」に関するさまざまな場において、複雑な条件の調整、要求に応えられるような基礎的応用力を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
レストランサービスやフードプランニングに必要な、メニューの歴史やプロトコール、プランニングの基本的な知識を学び、説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 食に関するさまざまな場（飲食店、小売店、イベントなど）において、複雑な条件を調整して満足できる状況を演出し、魅力的な企画書の作成や実施ができるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働】							
単位取得（成績評価C）目標							
レストランサービスやフードプランニングに必要な、メニューの歴史やプロトコール、プランニングの基本的な知識を学び、説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 基本的な企画書の作成や実施が出来るようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働】							
教科書							
①日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2022) ¥3,300 ②日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理飲料接客サービス技法 修正3版』 職業訓練教材研究会 (2019) ¥3,718							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は各自に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する） 2. 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 期末レポート(40%) 授業内課題(40%) 授業態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードプランニング論	選択	共通	1年 後学期	講義	2	もりさき まゆか 森崎 繭香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	教科書② 第1章 第5節：メニュー	プランニングの世界:実際の仕事内容/メニューの歴史、作成、構成	/
	事前学習 20分	教科書②P. 62～P. 73を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
2	教科書② 第1章 第5節：メニュー	メニューの歴史、作成、構成	/
	事前学習 20分	教科書②P. 62～P. 73を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
3	教科書② 第3章 第12節:食事の国際習慣	プロトコールについて(1)	/
	事前学習 20分	教科書②P. 148～P. 156を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
4	教科書② 第3章 第12節:食事の国際習慣	プロトコールについて(2)	/
	事前学習 20分	教科書②P. 148～P. 156を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
5	教科書① 12章:メニュープランニング	第1～4節	/
	事前学習 20分	教科書① P. 280～P. 284を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
6	教科書① 12章:メニュープランニング	第5～7節	/
	事前学習 20分	教科書① P. 284～P. 286を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
7	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(1)	/
	事前学習 20分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
8	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(2)	/
	事前学習 20分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
9	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(3)	/
	事前学習 20分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
10	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	第1～2節	/
	事前学習 20分	教科書① P. 288～P. 293を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	

11	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	第3～6節	
	事前学習 20分	教科書① P. 294～P. 299を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
12	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	期末レポート（企画書）作成(1)	
	事前学習 20分	今までの復習をしておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
13	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	期末レポート（企画書）作成(2)	
	事前学習 20分	今までの復習をしておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
14	まとめ	期末レポートの総評と全体の振り返り	
	事前学習 20分	今までの復習をしておく	
	事後学習 なし	授業の復習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードコーディネーター 実習	選択	共通	2年 前学期	実習	1	さの 佐野 雅	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC) (RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
カフェでのメニュー開発、厨房、料理家及びフードスタイリストのアシスタントを経て独立。書籍、雑誌、メーカーの販促物 フードスタイリングやレシピ開発を中心に活動。スタイリング書籍「簡単シェラカップレシピ」「パウルー公認！アウトドア でホットサンド」などがある。							
授業の概要							
フードコーディネーター3級資格取得に必要なテーブルコーディネートの知識を実践を交えながら習得する。 合わせて、レストランサービス技能士のサービスに必要な知識やマナーについて学び、実践する知識と技能を身に つける。身近にある、食に関する様々なフードコーディネートについて触れ、考察する。							
到達（成績評価A）目標							
1. フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートを総合的に結び付けて考え説明すること ができる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. フードコーディネーターとしてテーブルマナーとサービスについて学び、様々な状況や場面を考慮し、実践でき るようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、主体的に業務 に参画することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. フードコーディネーターの仕事を通じ、食についてより一層興味を持ち、周囲と協力しながら実習を進めること ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働】							
単位取得（成績評価C）目標							
1. フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートをいくつか結び付けて考えられるように なる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. フードコーディネーターとしてテーブルマナーとサービスについて学び、基本的事項について実践できるよう なる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、基本的事項に ついて実践できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. フードコーディネーターの仕事を通じ、食についてより一層興味を持ち、実習を進めることができる。【DP2：思 考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働】							
教科書							
日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (購入済みのもの)							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法 2版』 職業訓練教材研究会 (2019) ¥3,650 (RS資格、購入済み) 必要に応じてプリントを配布。参考書を適宜紹介する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削の後、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業の進行上、講義内容の順序を変更する場合がある。 2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する） 3. 学生の迷惑になる行為をした場合は退席を求めることがある							
成績評価方法				成績評価基準			
以下項目の総合評価とする 授業内課題(30%) レポート(30%) 学習成果確認のための試験(20%) 授業態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードコーディネーター実習	選択	共通	2年前学期	実習	1	佐野 雅 ^{まの みやび}	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC) (RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 9, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	第7章：食空間のあり方	食空間とは、食空間の基本的要素	
	事前学習 15分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 40分	授業の復習。自分が好きな食空間について基本的要素を意識してまとめる。	
2	第9章：食空間とテーブルコーディネート	テーブルコーディネートの基本的理論、ビュッフェ・パーティーの種類	
	事前学習 15分	教科書を読んでおく。RS参考書P89～90（プリント配布）を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
3	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～洋食、テーブルセッティング（晩餐・昼餐を含む）	
	事前学習 30分	教科書を読んでおく。料理用語（プリント配布）について事前学習しておく。	
	事後学習 30分	洋食のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
4	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～和食～ テーブルセッティング	
	事前学習 30分	教科書を読んでおく。料理用語（プリント配布）について事前学習しておく。	
	事後学習 30分	和食のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
5	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～和食～ テーブルセッティング	
	事前学習 20分	前回の復習をしておく。料理用語（プリント配布）について事前学習しておく。	
	事後学習 30分	和食のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
6	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～中国料理～ テーブルセッティング	
	事前学習 20分	教科書を読んでおく。料理用語（プリント配布）について事前学習しておく。	
	事後学習 30分	中国料理のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
7	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルセッティング、テーブルコーディネートのまとめ	
	事前学習 20分	洋食、和食、中国料理のテーブルセッティングを復習しておく。	
	事後学習 30分	実習の反省をおこない、改善点を見つけ、できなかった所を解決しておく。	
8	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルセッティング、テーブルコーディネートのまとめ	
	事前学習 20分	洋食、和食、中国料理のテーブルセッティングを復習しておく。	
	事後学習 30分	実習の反省をおこない、改善点を見つけ、できなかった所を解決しておく。	
9	第10章：テーブルマナーとサービス	テーブルマナー（西洋料理・日本料理・中国料理）	
	事前学習 15分	授業の復習。	
	事後学習 30分	テーブルマナーを意識した食事を実践してみる。	
10	第10章：テーブルマナーとサービス	サービスマナー、プロトコル、席次、宴会とレストランサービス	
	事前学習 15分	教科書を読んでおく。RS参考書P90～97（プリント配布）まで読んでおく。	
	事後学習 30分	料理や場面に応じた席次と、レストランサービスについて理解する。	

11	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルコーディネート企画書作成	
	事前学習 30分	今までの授業の復習、企画書の書き方（参考資料配布）について事前学習しておく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
12	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルコーディネート企画書作成	
	事前学習 30分	今までの授業の復習、企画書の書き方（参考資料配布）について事前学習しておく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
13	第10章：テーブルマナーとサービス	テーブルマナーとサービスについて総復習、企画書の総評	
	事前学習 15分	今までの授業の復習	
	事後学習 30分	授業の復習。	
14	まとめ	まとめ 学習成果確認のための試験	
	事前学習 60分	学習成果確認のための試験の準備。	
	事後学習 20分	学習成果確認のための試験を振り返り、間違えたところを解決しておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス論	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	まじま くみ 真島 久美	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				17	
実務経験のある教員による科目							
ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、パリスト、3級レストランサービス技能士							
授業の概要							
レストランやホテルの現場で必要とされるメニュー、食材、飲料、食事用具などの基礎知識を、レストランサービス技能検定3級の学科問題に添って学習していきます。料飲サービスに携わる上で必要な接客の基本、おもてなしを学びながら、豊かで穏やかな社会生活をおくるための心構えなどお伝えしていきます。							
<p>サービスマンとしての知識を身につけ、サービスを受ける側（お客様）の立場に立って「サービスとは何か」を理解出来るようになる。レストランサービス技能検定3級学科試験に合格するための基礎対策に取り組むことが出来るようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性、多様性、協働性】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>サービスマンとしての知識を身につけ、サービスを受ける側（お客様）の立場に立って「サービスとは何か」を理解出来るようになる。レストランサービス技能検定3級学科試験に合格するための基礎対策に取り組むことが出来るようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性、多様性、協働性】</p>							
教科書							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法3版』職業訓練教材研究会（2022） ¥3,718							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 発行 2022年度対策版『学科試験問題と解答解説集 3級版』 ¥1,800							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の携帯電話の操作は指定するときのみとする 2. 私語、居眠り厳禁 3. 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることもある 4. 授業の順番が進行により変わることがある 							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(60%) 取り組み姿勢(40%)の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス論	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	まじま 久美 眞島 久美	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				17	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	レストランサービスに関する一般的な知識	①接客の基本②食事のサービスマナー	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく。教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 5分	授業の復習をする	
2	レストランサービスに関する一般的な知識	③客席案内④注文の取り方⑤テーブルサービス⑥サービス上での事故 対処	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
3	レストランサービスに関する一般的な知識	③客席案内④注文の取り方⑤テーブルサービス⑥サービス上での事故 対処	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
4	レストランサービスに関する一般的な知識	メニュー、料理名、メニュー構成	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
5	レストランサービスの種類、準備および方法	サービスの準備に関する概略の知識 1) フランス式サービス 2) ロシ ア式サービス、 3) イギリス式サービス、 4) アメリカ式サービス	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
6	レストランサービスの種類、準備および方法	サービスの準備に関する概略の知識 ①レストラン部門の組織②レス トランの準備③客席のセッティング	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
7	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
8	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
9	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
10	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	

11	レストランサービスに関する一般的な知識	西洋料理の食事用具、備品	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
12	安全衛生に関する詳細	レストランサービスにおける安全衛生に関する知識、労働安全衛生関連法規	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
13	安全衛生に関する詳細	レストランサービスにおける安全衛生に関する知識、労働安全衛生関連法規	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
14	全体の振り返りと試験	後期全体の学習内容を振り返り、学習成果の確認のための試験を行う	
	事前学習 30分	今までの教科書や練習問題を復習しておく	
	事後学習 30分	試験で出来なかった所を見直し、翌年のレストランサービス技能士3級筆記試験へ向け学習を定着させる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	まじま 真島 久美・よねやま 米山 陽子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				6・7	
実務経験のある教員による科目							
【真島】 ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、パリスト、3級レストランサービス技能士							
授業の概要							
レストランサービスに必要な食事用具の知識、テーブルセッティング、接客の基本を学習し、実践力を身につける。コミュニケーション力を豊かにし、接客力を身につける。 3級レストランサービス技能士取得を目指すことを目標とする。							
到達（成績評価A）目標							
1. サーマンとしての知識を身につけ、テーブルマナーを体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客を実践することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性、多様性、協働性】 2. サーマンとして、実習したことを理解したうえで、正しい接客を実践することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. サーマンとして、実習を理解したうえで、正しいテーブルサービスが実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 周りに配慮しつつコミュニケーションをとりながらグループワークを進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 5. レストランサービス技能検定3級に合格することができるようになる。【DP1：知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
1. サーマンとしての知識を身につけ、テーブルマナーを体験することにより、サービスを受ける側の立場の接客を理解することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性、多様性、協働性】 2. サーマンとして、実習し学んだことで、接客を実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. サーマンとして、実習を学んだことで、テーブルサービスができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 周りとのコミュニケーションをとりながら実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 5. レストランサービス技能検定3級を受験できるようになる。【DP1：知識・技能】							
教科書							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法 2版』 職業訓練教材研究会（2019）（レストランサービス論で購入済み）							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『基礎からわかる レストランサービススタンダードマニュアル』 職業訓練教材研究会（2020） ¥3,630 2022年度対策版「レストランサービス技能検定3級」一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会（2022） ¥1800							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
学外研修：テーブルマナー（¥3000～¥5000）							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（許可時以外の電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は不可） 2. 私語厳禁 3. 授業の順番が進行により変わることがある 4. 授業は200分/2コマで行います。授業前半1コマを真島、後半1コマを米山が担当する 5. 筆記試験前（3級レストランサービス技能士受験）に、対策講座を開くので参加する							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験（60%） 課題（30%） 授業態度（10%） の総合評価				S（100-90点）：到達目標を超えたレベルを達成している A（89-80点）：到達目標を達成している B（79-70点）：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C（69-60点）：単位修得目標を達成している D（59-0点）：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	まじま 真島 久美・よねやま 米山 陽子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	接客マナー：テーブルサービス	1 正しい接客案内ができること	真島, 米山
	事前学習 15分	接客マナーについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	接客マナーについてノートにまとめておく。	
2	接客マナー・テーブルサービス①	3. 客席での販売促進ができること	真島, 米山
	事前学習 15分	テーブルサービス、客席での販売促進について教科書を読み調べておく	
	事後学習 30分	テーブルサービス、客席での販売促進についてノートにまとめておく	
3	接客マナー・テーブルサービス②	2. 正しく注文が取れること	真島, 米山
	事前学習 15分	テーブルサービスについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	テーブルサービス、注文の取り方についてまとめておく	
4	接客マナー・テーブルサービス③	4 正しくオーダーを通せること。	真島, 米山
	事前学習 30分	オーダーの通し方について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	オーダーの通し方についてノートにまとめておく。	
5	接客マナー・テーブルサービス④	5 伝票処理ができること。	真島, 米山
	事前学習 15分	伝票処理の方法について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	伝票処理の方法についてノートにまとめておく。	
6	接客マナー・テーブルサービス⑤	6 パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングができること。	真島, 米山
	事前学習 15分	パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングについてノートにまとめておく。	
7	接客マナー・テーブルサービス⑥	7 料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットができること。	真島, 米山
	事前学習 15分	料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットについてノートにまとめておく。	
8	接客マナー・テーブルサービス⑦	8. 料理、飲料の正しい運搬が出来ること	真島, 米山
	事前学習 15分	料理、飲料の正しい運搬について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	料理、飲料の正しい運搬についてノートにまとめておく。	
9	接客マナー・テーブルサービス⑧	9 料理、飲料の種類に応じた正しいサービスができること。	真島, 米山
	事前学習 30分	料理、飲料の種類に応じた正しいサービスについて教科書を読み調べておく	
	事後学習 30分	料理、飲料の種類に応じた正しいサービスについてノートにまとめておく。	
10	接客マナー・テーブルサービス⑨	10. 食器類の後片付けが正しくできること。	真島, 米山
	事前学習 15分	食器類の後片付けについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	食器類の後片付けについてノートにまとめ、実技を復習しておく。	

11	接客マナー・テーブルサービス⑩	11. 料理をこぼすなどの突発事態に正しく対処できること。	真島, 米山
	事前学習 15分 事後学習 30分	料理をこぼすなどの突発事態についての対応について教科書を読み調べておく。 料理をこぼすなどの突発事態についての対応についてノートにまとめておく。実技の復習をする	
12	接客マナー・テーブルサービス⑪	12 テーブルの後片づけが正しくできること。	真島, 米山
	事前学習 15分 事後学習 30分	テーブルの後片づけについて教科書を読み調べておく。 テーブルの後片づけについてノートにまとめておく。	
13	テーブルマナー	学外研修	真島, 米山
	事前学習 15分 事後学習 30分	テーブルサービス、テーブルマナーについて復習しておく。 テーブルマナーの反省と感想をまとめる。	
14	全体の振り返りと試験	前期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験を行う。(実技テスト)	真島, 米山
	事前学習 30分 事後学習 30分	今までの実習の復習をしておく。 確認テストの準備をする。 実習を振り返り、わからないところを解決し検定試験に臨む。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
福祉住環境コーディネーター概論	選択	生デ	2年前学期	講義	2	やまむらみほり 山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
福祉住環境コーディネーター3級に必要な知識全般について、豊かなコミュニケーション力を活かし、生活経営や社会活動に主体的に参画できるようになるために、テキストを用いて基礎から学び、同時に知識の確認のために練習問題を解く。							
到達（成績評価A）目標							
福祉住環境コーディネーターは、高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境を提案できる技能を有するものである。そのために必要な福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な知識を総合的に習得し、日常生活において応用できるようになる。【DP1：知識・技術】							
単位取得（成績評価C）目標							
福祉住環境コーディネーターは、高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境を提案できる技能を有するものである。そのために必要な福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な基本的事項について、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】							
教科書							
『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』東京商工会議所（改訂6版）¥2,750 東京商工会議所検定試験情報参照 https://www.kentei.org/fukushi/							
参考書・資料							
受験希望者は2021年度版の過去問題集を用意することを推奨する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
福祉住環境コーディネーター検定試験3級 受験料 ¥5,500							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話の操作禁止 ・私語厳禁 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求められることがある 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度（20%） 学修成果の確認のための試験（70%） 提出物（10%） の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
福祉住環境コーディネート概論	選択	生デ	2年前学期	講義	2	やまむらみほり 山村美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		「衣・住生活論」単位取得（0評価以上）の者				16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	暮らしやすい住環境をめざして(1)	少子高齢社会と共生社会への道	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	授業方針を確認する	
2	暮らしやすい住環境をめざして(2)	福祉住環境整備の重要性と必要性	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
3	暮らしやすい住環境をめざして(3)	在宅生活の維持とケアサービス	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
4	健康と自立をめざして(1)	高齢者の健康と自立	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
5	健康と自立をめざして(2)	障がい者の生活と自立	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン(1)	ユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
7	バリアフリーとユニバーサルデザイン(2)	共用品と福祉用具	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
8	安全・安心・快適な住まい(1)	屋内の段差解消	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
9	安全・安心・快適な住まい(2)	インテリア	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
10	安全・安心・快適な住まい(3)	玄関から屋外	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	

11	住生活とまちづくり(1)	ライフスタイルの多様化	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
12	住生活とまちづくり(2)	住環境整備	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
13	住生活とまちづくり(3)	人にやさしいまちづくり	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
14	理解度の確認	学修成果の確認のための試験	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ユニバーサルデザイン 概論	選択	生デ	2年 後学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン概論単位取得者				3, 4, 8, 11, 12, 15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活経営や仕事、社会活動に主体的に参画できる能力と豊かなコミュニケーション能力を身に付けるために、ユニバーサルデザインの意義と本質について学ぶ。まずは、発祥と変遷、意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性を知る。次に、多様な状態の利用者を知り、疑似体験によって理解を深める。自治体や企業におけるユニバーサルデザインの取り組みや実例などを知り、利用者と提供者の両面から考え、意見を出し合い、多様な利用者の生活がより快適で安全になるよう利便性を考える。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性について具体例を挙げて説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ユニバーサルデザインにとって、人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について具体例を挙げて説明できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 ・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて能動的に取り組むことができるようになる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性について具体例を挙げるができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ユニバーサルデザインにとって、人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について具体例を挙げるができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 ・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて取り組むことができるようになる。【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
宮入賢一郎・実利用者研究機構著：『トコトンやさしいユニバーサルデザインの本 第2版』 日刊工業新聞社（2014） ¥1,512							
参考書・資料							
日経デザイン編『ユニバーサルデザイン事例集100』日経BP社（2004） ¥4,860 全日本印刷工業組合連合会 著『メディア・ユニバーサルデザイナー—みんなに優しい情報制作のガイドライン—』印刷学会出版部（2009） ¥5,184							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題、ワークシート、小テスト等は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は2回目の授業から使用する。書店で店頭販売していないことが多いので、早めに注文しておくこと。 ・授業内で小テスト・模擬テストを行う。実施日は事前に知らせるので欠席しないように。 ・検定試験の日程に合わせ、授業スケジュールを変更することがある。 ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学修成果確認のための試験(40%) 演習課題 (40%) 受講態度 (20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ユニバーサルデザイン 概論	選択	生デ	2年 後学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン概論単位取得者				3, 4, 8, 11, 12, 15	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ユニバーサルデザインの理解 1	ユニバーサルデザインとは何か、バリアフリーとの違い	
	事前学習 20分	シラバスに目を通しておく。	
	事後学習 30分	生活の中のユニバーサルデザインに目を向け、理解を深める。	
2	ユニバーサルデザインの理解2	ユニバーサルデザインの7原則	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	生活の中のユニバーサルデザインに目を向け、7原則について理解を深める。	
3	利用者の多様性と理解 1	疑似体験	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、理解を深める。	
4	利用者の多様性と理解 2	カラー・ユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、理解を深める。	
5	ユニバーサルデザインの調査と発想 1	生活調査と課題の発見、フィールドワーク	
	事前学習 30分	自身の生活とUDとの関わりについて考えてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
6	ユニバーサルデザインの調査と発想 2	課題発見とアイデア創出	
	事前学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
7	ユニバーサルデザインの調査と発想 3	課題に関する調査	
	事前学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
8	ユニバーサルデザインの調査と発想4	自治体や企業のUD事例研究	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	学習した内容について、生活の中で実例を見つけ理解を深める。	
9	ユニバーサルデザインの調査と発想5	UDマップ、ppt制作	
	事前学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業を進めてくる。	
10	ユニバーサルデザインの調査と発想 6	プレゼンテーション	
	事前学習 30分	発表に向け十分な準備をしておく。	
	事後学習 30分	発表内容を振り返る。	

11	ユニバーサルデザインコーディネーター	ユニバーサルデザインコーディネーターの仕事と実例	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでおく。	
	事後学習 30分	学習した内容について、生活の中で実例を見つけ理解を深める。	
12	生活とユニバーサルデザイン	環境への配慮	
	事前学習 30分	自身の生活と環境との関わりについて考えてくる。	
	事後学習 30分	学習した内容について、生活の中で実例を見つけ理解を深める。	
13	ユニバーサルデザインの今後	これからのユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	自身の生活で今後UDをどう取り入れるか考えてくる。	
	事後学習 30分	この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果の確認のための試験	
	事前学習 20分	1～13回の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験を行う。	
	事後学習 30分	試験で間違えたところを見直し、正しい知識を身につける。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス論 (医療事務)	選択	生デ	1年 前学期	講義	4	ないとう まき 内藤 麻紀	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とし、全14回の授業に参加する者(遅刻・欠席・早退不可)				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かなコミュニケーション力を活かし、医療事務スタッフとして主体的に業務に参画できるようになるために、医療保険制度を基礎から学習し、専門職としての知識を身につける。主に、医療機関が診療行為によって発生する費用を請求する際に作成する、レセプト(請求のための用紙)の書き方と請求費用の計算方法について学習する。書き方と計算方法は「注射」「手術」「検査」など医療行為によって異なるため、行為ごとに学び、医療事務に関する専門的知識・技能を仕事での実践に活かせるようになる。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、総合的な知識を有し、レセプトの記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】 医療機関で事務員として働くために必要な知識を十分に身につけ、実践できるようになる。【DP1:知識・技能】 受講態度が良好で、学修成果確認のための試験の点数が80%以上の者。且つ、全13回のレポート全て70%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】 技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の合格に必要な知識を有し、具体的に説明したり、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、基本的な知識を有し、レセプトの解釈ができるようになる。【DP1:知識・技能】 医療機関で事務員として働くために必要な基礎的知識を身につけ、使用できるようになる。【DP1:知識・技能】 受講態度が良く、学修成果確認のための試験の点数が60%~70%の者。且つ、全13回のレポート全て50%以上であること。【DP1:知識・技能】 技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」を受験するために必要な知識を有し、基本的事項の説明、記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】 							
教科書							
株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式 ¥20,130 (学校にて注文)							
参考書・資料							
必要に応じてプリント配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
医療事務管理士技能認定試験を受験する場合は、別途費用が掛かります。							
課題に対するフィードバック							
課題は添削の後、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で新しいことを学ぶため、各授業での内容を理解した上で次の授業に臨むこと。 教材を使い、各自、授業内容の理解に努めること。 毎回、レポートを課すので、次回の授業までに作成すること。 資格試験に合格することを目標とするため、全14回の参加を求める。 							
成績評価方法				成績評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> 13回分のレポート提出と添削内容(50%) 受講態度(25%) 定期試験(25%) の総合評価				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない Z:受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス論 (医療事務)	選択	生デ	1年前学期	講義	4	ないとう まき 内藤 麻紀	単独
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とし、全14回の授業に参加する者(遅刻・欠席・早退不可)					—

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	医療制度と請求業務	病院概要・保障制度・請求事務の基本・レセプト(請求用紙)の基礎	/
	事前学習 5分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
2	点数算定の原則・診察料(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
3	診察料(2)・医学管理(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
4	医学管理(2)・在宅医療	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
5	投薬(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
6	投薬(2)・注射	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
7	処置(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
8	処置(2)・リハビリテーション・検査(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
9	検査(2)・病理診断	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
10	手術	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	/
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	

11	麻酔・画像診断(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
12	画像診断(2)・精神科専門療法・放射線治療	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
13	入院	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
14	他制度・レセプトの点検	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス演習	選択	生デ	1年前学期	演習	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン専攻科目の「医療事務サービス論」履修者				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、医療事務管理士技能認定試験に合格できる力を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 各診療報酬の算定方法を理解し、ミスなく確実に計算できるようになる。【DP1：知識・技能】 医療事務管理士技能認定試験学科実技に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら計画的に取り組むことができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 各診療報酬の算定方法を理解し、計算できるようになる。【DP1：知識・技能】 医療事務管理士技能認定試験学科に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら取り組むことができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式 ¥22,220（学校にて注文）							
参考書・資料							
社会保険研究所 医科診療報酬点数表 令和4年4月版							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題、過去問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題、過去問題に取り組み、合格に向けての勉強方法も指導していくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認のための試験(50%) 受講態度(30%) 演習課題(20%)の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス演習	選択	生デ	1年前学期	演習	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン専攻科目の「医療事務サービス論」履修者				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	医療保障制度	医療機関・医療保障制度・保険給付及び医療事務管理士技能認定試験勉強について	
	事前学習 5分	シラバスを読み、「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医療保障制度の練習問題に取り組む。	
2	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（1）	医療事務の基礎知識 初・再診料	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医療事務の基礎知識、初・再診料の練習問題に取り組む。	
3	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（2）	医学管理	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医学管理の練習問題に取り組む。	
4	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（3）	在宅医療	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	教科書の練習問題に取り組む。	
5	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（4）	投薬	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 240分	トレーニングブック1～4号のレセプトを作成する。	
6	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（5）	注射	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 240分	トレーニングブック5～8号のレセプトを作成する。	
7	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（6）	処置	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 240分	トレーニングブック9～12号のレセプトを作成する。	
8	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（7）	リハビリテーション・検査（1）	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	トレーニングブック13号のレセプトを作成する。	
9	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（8）	検査	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 360分	トレーニングブック14～19号のレセプトを作成する。	
10	各診療報酬の算定方法とレセプト作成（9）	病理診断・手術・麻酔	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 240分	トレーニングブック20～23号のレセプトを作成する。	

11	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (10)	画像診断	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 540分	トレーニングブック24～32号のレセプトを作成する。	
12	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (11)	精神科専門療法・放射線治療	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 120分	トレーニングブック33～34号のレセプトを作成する。	
13	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (12)	入院	
	事前学習 60分	「医療事務」の授業内容を復習する。	
	事後学習 810分	トレーニングブック35～43号のレセプトを作成する。	
14	点検・まとめ	レセプトの点検・学修成果確認のための試験	
	事前学習 180分	「医療事務」の授業内容を復習し、前学期の学習内容を振り返る。	
	事後学習 60分	試験でできなかったところを見直し、学習を定着させ、医療事務管理士技能認定試験に臨む。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
サービス英語コミュニケーション	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	リチャード S おすてん Richard S Austen えぐち まゆみ 江口 眞由美	オムニ バス
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		特になし					8, 9, 16
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>英語でのコミュニケーションを積極的に図ろうとするマインド育成と異なる文化の違いを理解し適応能力や柔軟性を養い就職先や日常生活の中で活かせる英会話を身につけることを目的とする。</p> <p>テキストに沿ってロールプレイやシミュレーション、異国文化やライフスタイルを学びながら実践的な英会話トレーニングなどを行う。</p> <p>スピーキング&リスニング(80%) リーディング&ライティング(20%)</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習した語句や表現法などの知識を使って自分の考えや情報などを英語で述べるようになる。【 DP1: 知識・技能】 ・相手の話している内容や質問、依頼や指示などを理解し言葉で応えることができるようになる。【 DP2: 思考力・判断力・表現力】 ・英語を使用している人々の日常生活や習慣など言葉の背景にある文化を配慮しながらコミュニケーションができるようになる。【DP3: 主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習した語句や表現法など英語やボディランゲージなど交えながら表現できるようになる。【 PD1: 知識・技能】 ・相手の話している内容や質問、依頼や指示など、ある程度理解し単語を並べるなど工夫しながら応えることができるようになる。【 PD2: 思考力・判断力・表現力】 ・英語を使用している人々の日常生活や習慣など言葉の背景にある文化を配慮しながら理解しようと努めるようになる。【PD3: 主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
番場直之：『「聞く」「話す」を徹底強化！接客英会話ワークブック基礎編』カシオ計算 機株式会社（2020年）2,200円							
参考書・資料							
必要に応じてプリント配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
宿題や小テストを回収後、解答の解説を行う。 中間と後半でそこまでの疑問点や質問の時間を設け振り返り学習を行う。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<p>授業担当、あるいは内容を変更する場合がある。</p> <p>私語および携帯電話の使用を禁止する。</p> <p>余儀なく欠席となる場合はすみやかに研究室に連絡を取ること。</p> <p>意欲的に授業に取り組むこと。</p>							
成績評価方法				成績評価基準			
学修成果確認の為に試験とインタビュー(70%) 提出物、取り組み姿勢(30%) の総合評価				<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している</p> <p>A(89-80点)：到達目標を達成している</p> <p>B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している</p> <p>C(69-60点)：単位修得目標を達成している</p> <p>D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない</p> <p>Z：受験資格失格</p>			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
サービス英語コミュニケーション	選択	生デ	1年後学期	演習	2	リチャード S おすてん Richard S Austen えぐち まゆみ 江口 眞由美	オムニバス
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		なし					8, 9, 16
授業のスケジュール							
回	項目	内 容					担当者
1	授業概要の説明と目標 Unit 1 案内業務	英語ウォームアップ お店での案内業務を学ぶ					江口
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。テキストを読んでくる。					
	事後学習 15分	宿題 テキストの復習					
2	Unit 2 受付業務	病院などでの対応を学ぶ					Richard
	事前学習 15分	授業内容を復習する。テキストで予習。					
	事後学習 15分	宿題 復習					
3	Unit 3 会計案内	金額提示や支払い方法を案内する					江口
	事前学習 15分	授業内容を復習する。テキストで予習。					
	事後学習 15分	宿題 復習					
4	Unit 4 商品案内	売り場での商品の有無や特徴を表現する					Richard
	事前学習 15分	授業内容を復習する。テキストで予習。					
	事後学習 15分	宿題 復習					
5	Unit 5 飲食店	注文や席の予約を受ける					江口
	事前学習 15分	授業内容を復習する。テキストで予習。					
	事後学習 15分	宿題 復習					
6	Unit 6 まちかど1	写真の撮影依頼を受ける 観光客のサポートをするなど					Richard
	事前学習 15分	テキストで予習					
	事後学習 15分	宿題 復習					
7	Unit 7 まちかど2	観光名所を案内するなど					江口
	事前学習 15分	テキストで予習					
	事後学習 15分	宿題 復習					
8	復習とまとめ	Unit1-7までの復習					Richard
	事前学習 15分	ここまでの疑問点や質問を考える					
	事後学習 15分	宿題 復習					
9	トラブルシューティング	落とし物を探す 病気、怪我など緊急事態の対応					江口
	事前学習 15分	テキストで予習					
	事後学習 15分	宿題 復習					
10	トラブルシューティング	クレーム処理、注文の確認、商品の返品対応					Richard
	事前学習 15分	テキストで予習					
	事後学習 15分	宿題 復習					

11	トラブルシューティング	地図を見て案内する	江口
	事前学習 15分	テキストで予習	
	事後学習 15分	宿題 復習	
12	トラブルシューティング	イベントなどの案内/免税について	Richard
	事前学習 15分	テキストで予習	
	事後学習 15分	宿題 復習	
13	復習とまとめ	トラブルシューティングの復習、英語対応能力検定試験対策	江口
	事前学習 15分	ここまでの疑問点や質問を考える、授業で学習したことを復習する	
	事後学習 15分	試験に向けて準備をする	
14	復習とまとめ	全体の振り返りと試験	Richard
	事前学習 360分	後学期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験を行う	
	事後学習 90分	試験でできなかったところを見直し、次回以降間違えることのないよう学習を定着させる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活数理演習 (生活数理演習Ⅰ)	—	生デ	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔生デ〕		入学準備学習の数学試験で基準点を超えられなかった者				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本演習は、家政専攻科目における必須知識、特に最重要とされる数学・科学的知識に焦点をあてて、ものの長さ・面積の測り方、重さ・容積の量り方、濃度、希釈に関する考え方などについて、細かい手先の作業や科学実験を通じて繰り返し練習し、他の専攻科目への導入とする。							
到達（成績評価A）目標							
(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を総合的に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、総合的に実行できるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識をある程度活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、ある程度実行できるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし（毎回資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業の後半で解説し、授業中にできるだけ解決できるようにする。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業回によっては、被服室と実験室を使い分けて行う。 ・毎回演習課題を課す。 ・14回目の授業では実技試験を行い、さらに定期試験のための筆記試験対策を行う。 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(20%) 課題提出(20%) 実技試験(30%) 定期試験(筆記試験)(30%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活数理演習 (生活数理演習Ⅰ)	—	生デ	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔生デ〕		入学準備学習の数学試験で基準点を超えられなかった者				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス、生活数学1/型切り練習1	被服実習室の利用、生活に関する大きい数字、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	
	事前学習 5分	シラバスを読んてくる	
	事後学習 30分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
2	生活数学2/長さを測る、線を引く	生活に関する小さい数字、長さの単位の理解、竹定規で長さを測る、直線を引く	
	事前学習 60分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
	事後学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
3	生活数学3/物を分ける/型切り練習2	生活に関する長さ等の等分、等分にする練習、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	
	事前学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
	事後学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
4	生活数学4/マイナスと金額計算/ 図形の描画1	生活に関するマイナスとお金の計算、図形を描く練習	
	事前学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
	事後学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
5	生活数学5/倍・分割と金額計算/ 図形の描画2	生活に関する倍・分割とお金の計算、平行垂直を描く練習	
	事前学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
6	生活数学6/概数とおつりの計算/ 図形と模様切り練習1	生活に関する概数とおつりの計算、多角形作成と細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
7	生活数学7/割合とグラフ/図形と模様切り 練習2	生活に関する割合の計算、グラフ描画、多角形作成と細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	割合の計算とグラフ描画、多角形の作成の方法を確認する	
8	スプーン、カップで容積を測る/模様切り 練習1	容積の単位の理解、液体個体のかさを量る、スプーンの使い方、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	割合の計算とグラフ描画、多角形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	容積の単位と計量スプーンの使い方を確認する	
9	ハカリで重さを量る/模様切り練習2	重さの単位の理解、電子上皿天秤で液体と固体の重さを量る、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	容積の単位と計量スプーンの使い方を確認する	
	事後学習 60分	重さの単位と重さの量り方を確認する	
10	水溶液とは、食塩水濃度の計算/ 模様切り練習3	水溶液の理解、食塩水の濃度の計算、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	重さの単位と重さの量り方を確認する	
	事後学習 60分	水溶液、濃度の計算について確認する	

11	食塩水濃度と洗剤濃度の計算 /模様切り練習4	食塩水の濃度と洗剤(液体・粉末)濃度の計算、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	水溶液、濃度の計算について確認する	
	事後学習 60分	濃度の計算について確認する	
12	生活数学8,9/長さを決められた比で分ける	生活に関する比例と比の計算、比で分ける、はさみで切る 時刻と時間の計算、速さ、平均、身体計測、気象、割引と割増、家計簿)	
	事前学習 60分	濃度の計算について確認する 比例と比の計算、比で分ける方法について確認する	
	事後学習 60分	比例と比の計算、比で分ける方法について確認する、時刻と時間の計算、速さ、平均、身体計測、気象、割引割増、家計簿の各計算について確認する	
13	生活数学10/希釈の計算、電卓計算	生活に関する計算(郵便料金、住居の広さ、電気料金)、希釈の理解、調味料等による希釈の計算、電卓計算	
	事前学習 60分	時刻と時間の計算、速さ、平均、身体計測、気象、買物の割引と割増、家計簿の各計算について確認する	
	事後学習 60分	希釈、電卓計算の方法について確認する	
14	学修成果確認のための試験	全体の振り返り、測量と測定の実技試験	
	事前学習 60分	希釈、電卓計算の方法について確認する	
	事後学習 60分	電卓計算の方法について確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習a	—	共通	1年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習 a クラスに該当する者				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本演習は、入学時の試験成績によりクラス分けされた上位者を対象とし、1年次後学期に開講される卒業必修科目でやはり学力レベルによってクラス分けされる「英語コミュニケーションⅠ」の上位クラスで学習するために必要な基礎事項を、文法を中心に、コミュニケーションに必要な事項とともに学習する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力をかなり修得する。【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がかなり修得できている。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を相当程度修得している。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】 							
教科書							
大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（最新版）¥2,090 標準英語スキルズと同じ							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する。CD, DVDを使用する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・私語厳禁。 ・積極的な参加が求められる。 ・必ず英和及び英和辞典を持参する。 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組姿勢（25%） 小テスト（30%） 学修成果確認のための試験（45%） の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習a	—	共通	1年前学期	演習	1	渡辺 淳	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習 a クラスに該当する者				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	be動詞、一般動詞、文の種類	be動詞、一般動詞、疑問文	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
2	特殊な文	There is～構文、命令文	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
3	時制(1)	未来形、進行形	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
4	時制(2)	現在完了	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
5	代名詞・助動詞・受動態・比較(1)	代名詞・助動詞	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
6	代名詞・助動詞・受動態・比較(2)	受動態・比較	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
7	準動詞(1)	不定詞	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
8	準動詞(2)	分詞・動名詞	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
9	節(1)	接続詞	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
10	節(1)	関係代名詞	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	

11	熟語、it	熟語、it	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
12	会話表現	会話表現	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
13	TOEIC等への準備	応用演習	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントの指定された箇所を予習する 課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 120分 事後学習 30分	全体の学習内容を振り返り、学び全体を確認する。 学びの足りない部分を確認し、今後の英語学習のための心の準備をする。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習b	—	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習bクラスに該当する者				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本演習は、入学時の試験によりクラス分けされた、基礎英語の再復習を要するクラスのための授業として、基礎文法に焦点をあて、多くの問題を与え、繰り返し学習する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力をかなり修得する。【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がかなり修得できている。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を相当程度修得している。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】 							
教科書							
大坂一郎：『First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門』 南雲堂（最新版）¥2,090							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
教科書の練習問題はほぼ全てを授業中に受講学生に順番に課し、一問ずつ答えてもらう。その答えの正否と模範解答をその場で黒板に清書しながら解説する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・単元によってレポートを課す。 ・必ず辞書を持参すること。 							
成績評価方法				成績評価基準			
授業中の態度(20%) レポート(30%) 定期試験(50%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習b	—	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習bクラスに該当する者				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	be動詞・現在形(1)	主語と動詞、名詞の単数形と複数形、am、is、areの使い分け	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書6ページについて復習する	
2	be動詞・現在形(2)	be動詞のある文の疑問文、否定文	
	事前学習 60分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書8,9ページについて復習する	
3	一般動詞・現在形(1)	一般動詞の使い方、一般動詞のs	
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書10ページについて復習する	
4	一般動詞・現在形(2)	一般動詞の疑問文とその答え方、一般動詞の否定文	
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書12,13ページについて復習する	
5	多様な疑問文	疑問詞の使い方、疑問詞who、whose、where、when、orのある疑問文	
	事前学習 60分	教科書15ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書14～17ページについて復習する	
6	be動詞・過去形(1)	wasとwere、過去形と一緒に使われる語句	
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書18ページについて復習する	
7	be動詞・過去形(2)	疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書20,21ページについて復習する	
8	一般動詞・過去形(1)	規則動詞、不規則動詞、疑問文とその答え方	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書22ページについて復習する	
9	一般動詞・過去形(2)	否定文、疑問詞のついた過去形の疑問文	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書24,25ページについて復習する	
10	特殊な文(1)	There (is) are～の文、There (was) were～の文、命令文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書26ページについて復習する	

11	特殊な文(2)	否定の命令文、感嘆文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んてくる	
	事後学習 60分	教科書28, 29ページについて復習する	
12	未来形(1)	willの用法、未来形の疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31ページを読んてくる	
	事後学習 60分	教科書30ページについて復習する	
13	未来形(2)／進行形	be going to～、現在進行形、過去進行形、疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31, 35ページを読んてくる	
	事後学習 60分	教科書32, 33, 34～37ページについて復習する	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 60分	教科書1～37ページを復習する	
	事後学習 60分	試験で出された分野について復習する	

講座名	担当教員	開講時期
ファッション資格対策講座	はた くみこ 畑 久美子	1,2前学期・後学期
受講条件	ファッションやアパレル系企業への就職を目指し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」を履修し、「ファッション販売能力検定」または「ファッション色彩能力検定」または「色彩検定」を受験する者。	

講座の概要
検定主催者が提供するテキストと問題集を使用し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」で得た知識を復習しながら繰り返し演習を行い知識の定着を図る。過去問題を解き、実際の検定試験対策を確実にを行い合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」の授業で使用している教科書
参考書資料	適宜授業内で配布、または指示する

講座についてのメッセージ
ファッションやアパレル系の企業への就職を考えている場合、「ファッション販売能力検定」「ファッション色彩能力検定」「色彩検定」などの検定に合格することが望ましい。繰り返し問題を解くことで着実に合格に近づくので、合格への意志を持ち受講に臨むこと。

講座名	担当教員	開講時期
医療事務支援講座	なかの みやこ 中野 都	1,2年前学期
受講条件	医療事務サービス論・医療事務サービス演習を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要
「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「医療事務サービス論」の授業で使用している教科書
参考書資料	社会保険研究所 医科診療報酬点数表 最新版

講座についてのメッセージ
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務サービス論」の授業内容を確実に理解し、練習問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、「医療事務サービス論」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題に取り組んでいくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講座名	担当教員	開講時期
情報技術活用講座	まえだ やすとも 前田 康智	1,2前学期・後学期
受講条件	情報技術（情報技術Ⅰ）受講者、またはビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）・ビジネスワード・ビジネスパワーポイント・情報技術Ⅲ・情報技術Ⅳ受講者で、パソコン操作や資格取得に意欲があり、積極的に取り組む姿勢のある学生を対象とする。	

講座の概要
Microsoft Word, Excel, PowerPointの各機能について、特に難しい操作について、繰り返し練習する。Wordであれば、特にインデント、タブ、図形の作成について、Excelであれば、特に構成比、関数（順位、四捨五入、検索）の操作について、PowerPointであれば、特にインデント、スライドマスター等の操作についてそれぞれ繰り返し練習する。前学期は情報技術（情報技術Ⅰ）受講者を対象に6～7回程度、後学期はビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）、ビジネスワード、ビジネスパワーポイント、情報技術Ⅲ、情報技術Ⅳ受講者を対象に8回程度実施する予定。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	なし（各授業で使用した資料や教科書を使用し、必要に応じてプリントを配布する）
参考書資料	特になし

講座についてのメッセージ
前期については、情報技術Ⅰabの受講者の中で、特に再練習が必要と思われる学生を個別に呼び出し、または個人的に練習を熱望する学生について、それぞれの学生の空き時間を設定して実施する。後期については、情報技術Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ受講学生に対して、資格支援のために、授業の延長として実施する。

講座名	担当教員	開講時期
フードスペシャリスト試験対策講座	えぎ のぶこ 江木 伸子	2年後学期
受講条件	食物栄養専攻科目の「フードスペシャリスト受験科目」の履修者が望ましい	

講座の概要
フードスペシャリスト受験の科目である1. フードスペシャリスト論、2. 食品の官能評価・鑑別論、3. 食物学に関する科目、4. 食品の安全性に関する科目、5. 調理に関する科目、6. 栄養と健康に関する科目、7. 食品流通・消費に関する科目、8. フードコーディネートの解答を確認しながら解くことにより、フードスペシャリストが必要とする科目内容を総合的に学習する。フードスペシャリスト資格試験の受験に備える。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	日本フードスペシャリスト協会編 フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集2022年度版 ¥1,320
参考書資料	各科目で使用している教科書

講座についてのメッセージ
食品の開発製造、流通、販売、外食などの食品産業で必要な幅広い食の知識を有する食の専門家としてフードスペシャリストがあります。フードスペシャリスト受験教科には食の楽しさ、おもてなし、おいしさなど栄養士教科にはないものが学べます。栄養士資格があれば食品の開発製造、流通、販売、外食などの食品産業に就職することはできますが、栄養士資格とフードスペシャリスト資格を有していればさらに幅広い食の知識を持った栄養士であることをアピールできます。